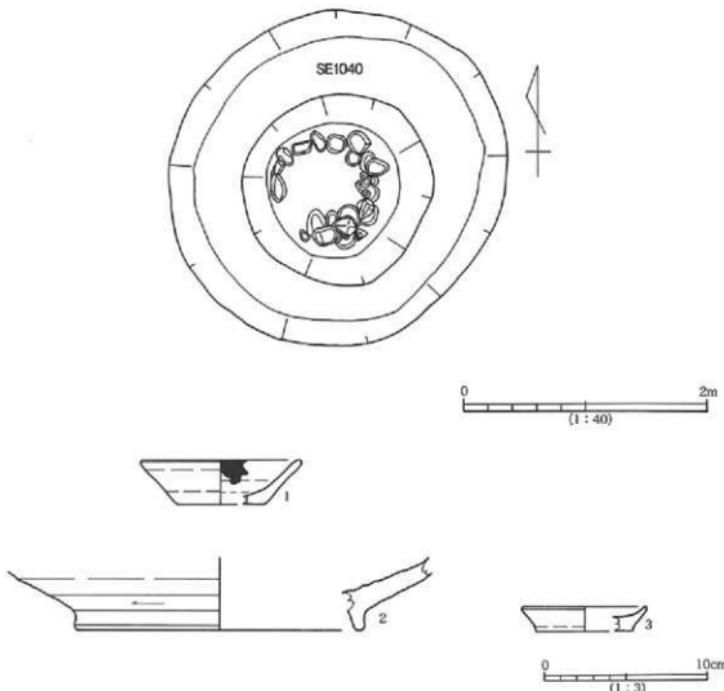


IV 検出された遺構と遺物



第264図 SE1040

SE1040

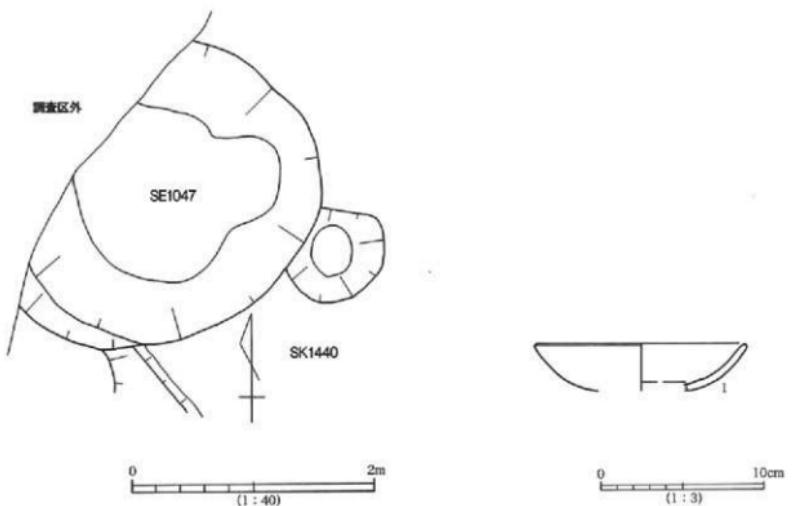
位 置 4-16 グリッド。

規 模 挖方径 2.87 m、内径 0.59 m、検出面からの深さ 1.01 m、底面標高 126.81 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は1段から2段しか積まれておらず、南西側が一部切れている。井戸構築当初からこのような形状なのか、崩落したものなのかはわからなかった。石組は検出面の約 80 cm 下で確認された。

出土遺物 固化資料以外には、肥前系陶器、黒瓦などが出土している。なお、2などの中世遺物の混入がある。

年 代 肥前系磁器は出土していないので 17 世紀前半の可能性が高い。



第265図 SE1047

SE1047

位置 3-14 ~ 3-15 グリッド。

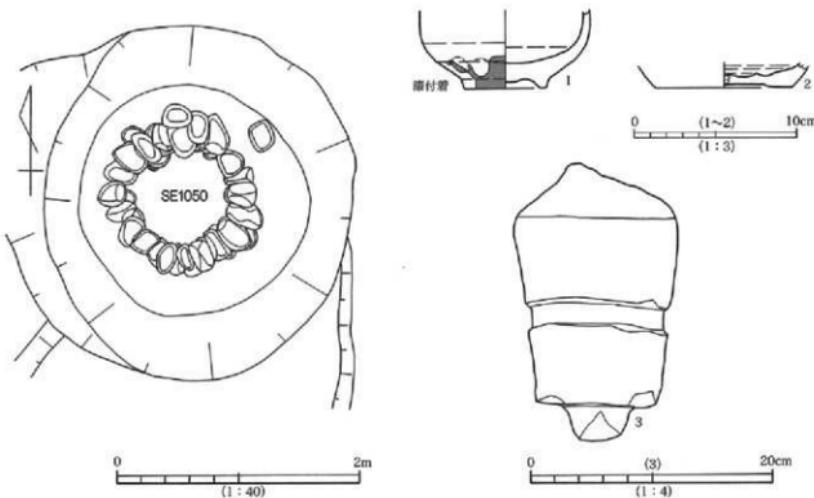
規模 直径 2.74 m、検出面からの深さ 1.09 m、底面標高 126.65 m。

形態 素掘りの井戸である。平面形態はほぼ円形を呈する。北西側は調査区外で全体は不明である。SK1440 に切られる。

出土遺物 図化資料以外には、肥前系陶器と黒瓦が各 1 点出土している。

年代 肥前系陶器や黒瓦が出土しているので近世であろうが、正確な年代は不明である。

IV 検出された遺構と遺物



第266図 SE1050

SE1050

位 置 6-15~6-16 グリッド。

規 模 挖方径 2.92 m、内径 0.75 m、検出面からの深さ 2.44 m、底面標高 125.50 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 80 cm 下で確認された。

出土遺物 固化資料以外には、肥前系陶器などが出土している。中世の遺物が若干出土している。なお、被熱したヒトの頭蓋骨が出土している。

年 代 肥前系磁器が出土していないので 17 世紀前半の可能性が高いが、出土遺物は少なく正確な年代は決定しがたい。

SE1051

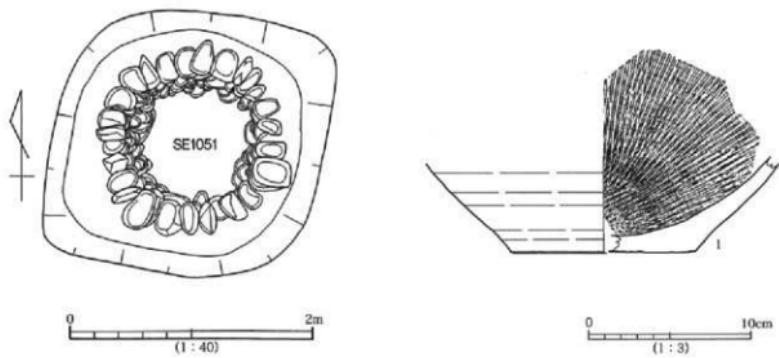
位 置 6-5 グリッド。

規 模 挖方径 2.79 m、内径 1.04 m、検出面からの深さ 1.82 m、底面標高 126.17 m。

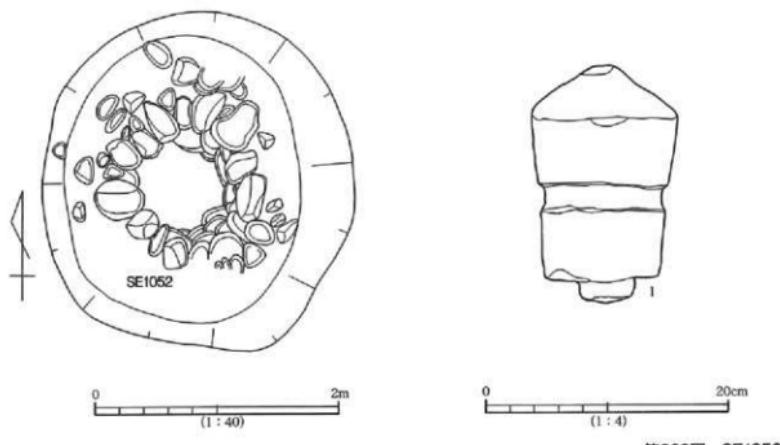
形 態 石組の井戸である。平面形態は掘り方が隅丸方形を、石組が円形を呈する。石組は検出面直下で確認された。

出土遺物 固化資料以外には、肥前系陶磁器、黒瓦が出土している。

年 代 1 より 17 世紀後半以降であろう。



第267図 SE1051



第268図 SE1052

S E 1 0 5 2

位 置 6 - 14 グリッド。

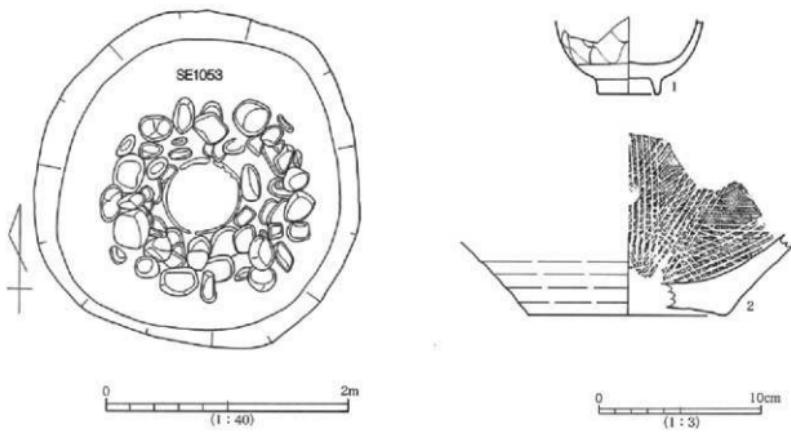
規 模 挖方径 2.82 m、内径 0.82 m、検出面からの深さ 2.22 m、底面標高 125.74 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面で確認された。

出土遺物 図化資料以外には、黒瓦が 1 点出土している。

年 代 黒瓦が出土しているので近世であろうが、正確な年代は不明である。

IV 検出された遺構と遺物



第269図 SE1053

S E 1 0 5 3

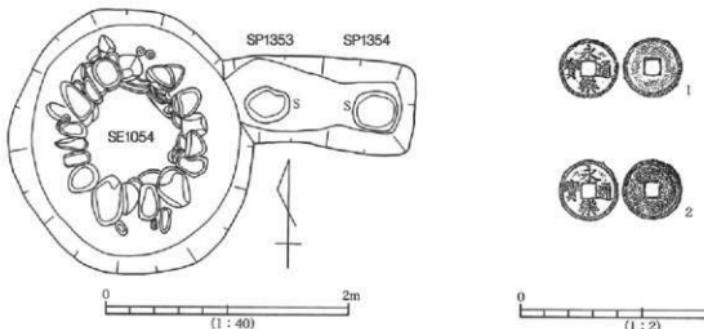
位 置 7 - 14 グリッド。

規 模 挖方径 2.71 m、内径 1.12 m、検出面からの深さ 1.41 m、底面標高 126.85 m。

形 態 石組で、底部に曲げ物が設置されている井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面で確認された。

出土遺物 図化資料以外には、肥前系磁器、黒瓦などが出土している。

年 代 出土遺物は少ないが、1などの肥前系磁器はほぼ 17 世紀半ばの年代を示すので、このころに埋没したのであろう。



第270図 SE1054

S E 1 0 5 4

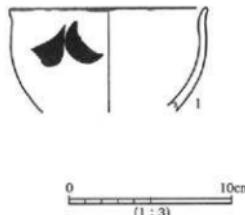
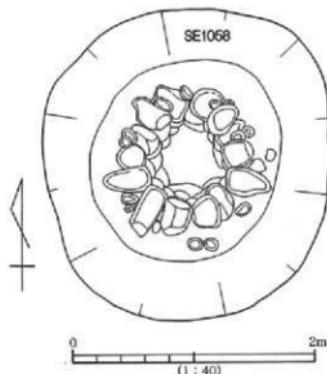
位 置 7-15 グリッド。

規 模 堀方径 2.16 m、内径 0.78 m、検出面からの深さ 1.17 m、底面標高 127.15 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面直下で確認された。SP1353 を切る。

出土遺物 図化資料以外には、瀬戸美濃系陶器、黒瓦などが出土している。

年 代 出土している瀬戸美濃系陶器や黒瓦より近世であろうが、正確な年代は不明である。



第271図 SE1058

S E 1 0 5 8

位 置 8-15 グリッド。

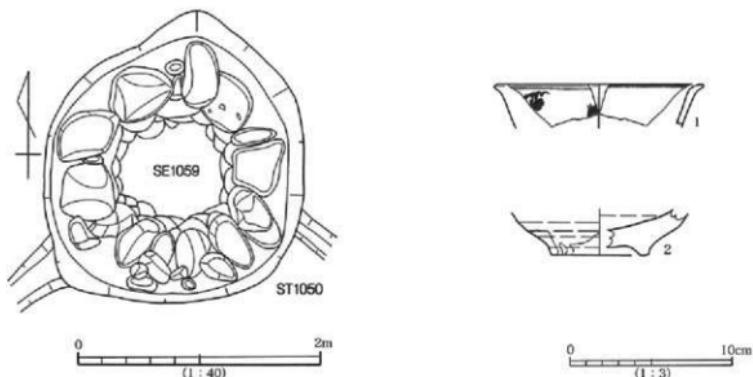
規 模 堀方径 2.59 m、内径 0.62 m、検出面からの深さ 1.92 m、底面標高 126.45 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 80 cm 下で確認された。

出土遺物 図化資料以外には、輸入磁器が 1 点出土している。

年 代 1 より 17 世紀前半であろうが、出土遺物が少なく正確な年代は決定しがたい。

IV 検出された遺構と遺物



第272図 SE1059

SE1059

位置 8-13グリッド。

規模 堀方径 2.40 m、内径 1.06 m、検出面からの深さ 1.36 m、底面標高 127.10 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 20 cm 下で確認された。

出土遺物 固化資料以外に出土遺物はない。

年代 1や2より 17世紀前半であろう。

SE1001

位置 10-10グリッド。

規模 堀方径 1.97 m、内径 0.77 m、検出面からの深さ 0.65 m、底面標高 128.94 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。上部は搅乱で切られているので、石組は検出面で確認された。

出土遺物 出土遺物はない。

年代 不明。

SE1002

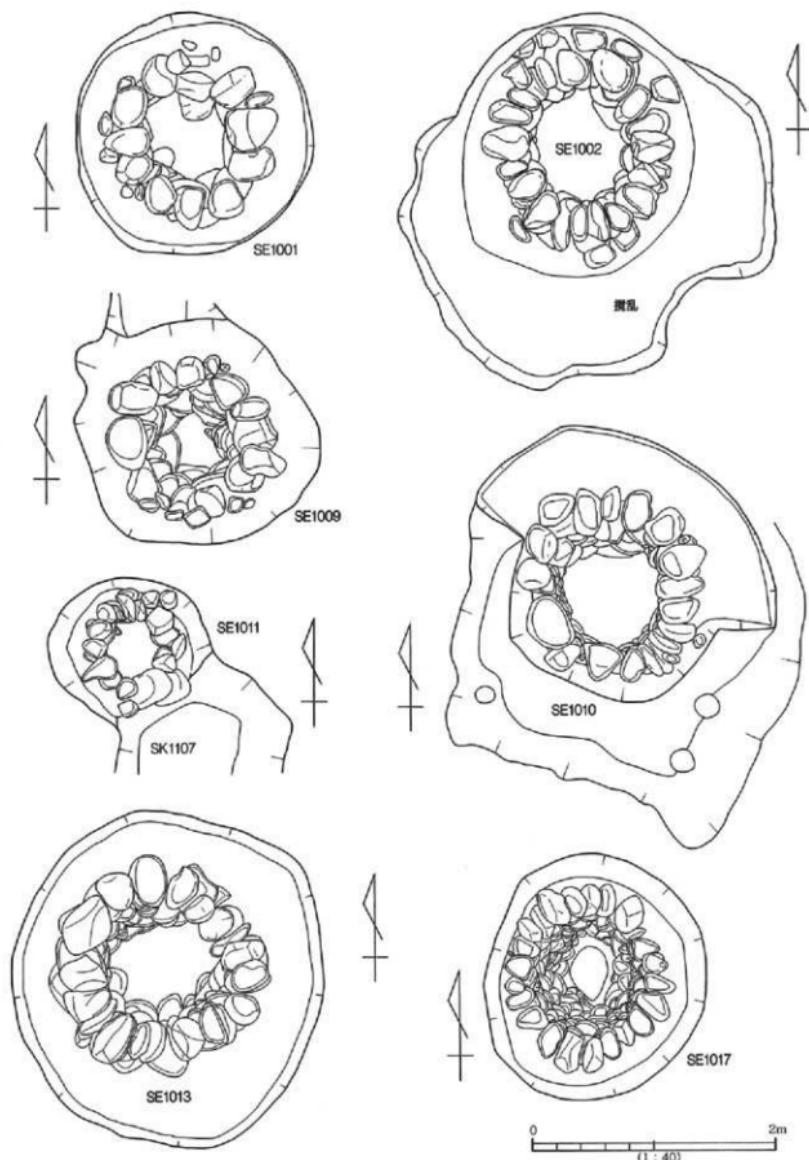
位置 10-10グリッド。

規模 堀方径 2.08、内径 0.94 m、検出面からの深さ 0.74 m、底面標高 128.66 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は梢円形を呈する。上部を搅乱に切られていたため、石組は検出面で確認された。

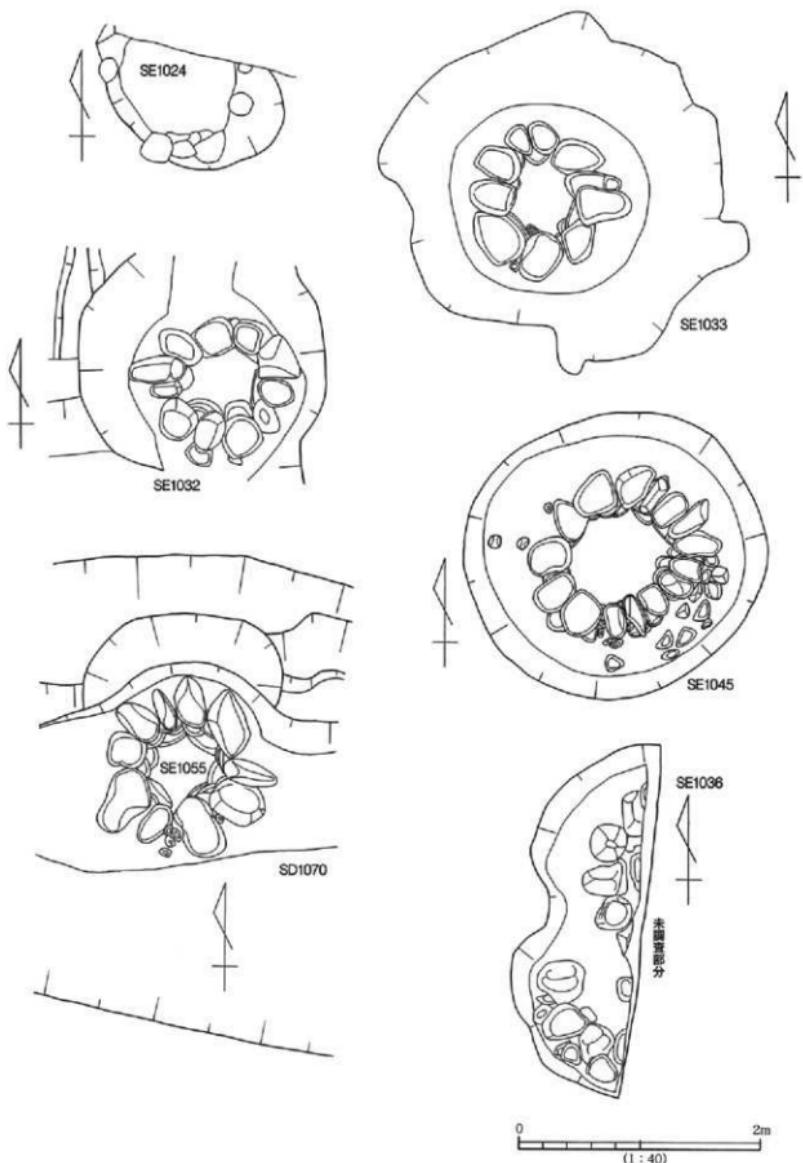
出土遺物 固化していないが肥前系磁器などが出土している。

年代 出土している肥前系磁器より 17世紀半ばころであろう。



第273図 SE1001・SE1002・SE1009・SE1010・SE1011・SE1013・SE1017

IV 検出された遺構と遺物



第274図 SE1024・SE1032・SE1033・SE1036・SE1045・SE1055

S E 1 0 0 9

位 置 13 - 12 グリッド。

規 模 堀方径 1.87 m、内径 0.72 m、検出面からの深さ 1.36 m、底面標高 128.22 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は楕円形を呈する。石組は検出面の約 40 cm 下で確認された。

出土遺物 出土遺物はない。

年 代 不明。

S E 1 0 1 0

位 置 9 - 12 グリッド。

規 模 堀方径 2.80 m、内径 0.91 m、検出面からの深さ 1.35 m、底面標高 128.61 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は掘り方が隅丸方形を、石組が円形を呈する。石組は検出面の約 10 cm 下で確認された。

出土遺物 図化していないが中世と思われる瓷器系陶器が出土している。

年 代 不明。

S E 1 0 1 1

位 置 10 - 12 グリッド。

規 模 堀方径 1.30 m、内径 0.48 m、検出面からの深さ 0.67 m、底面標高 128.43 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 20 cm 下で確認された。SK1107 を切る。

出土遺物 出土遺物はない。

年 代 不明。

S E 1 0 1 3

位 置 11 - 12 グリッド。

規 模 堀方径 2.78 m、内径 0.80 m、検出面からの深さ 1.40 m、底面標高 128.96 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面で確認された。

出土遺物 図化していないが輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器などが出土している。

年 代 肥前系磁器が出土しているのでⅡ期以降であろうが、出土遺物が少なく正確な年代は決定しがたい。

S E 1 0 1 7

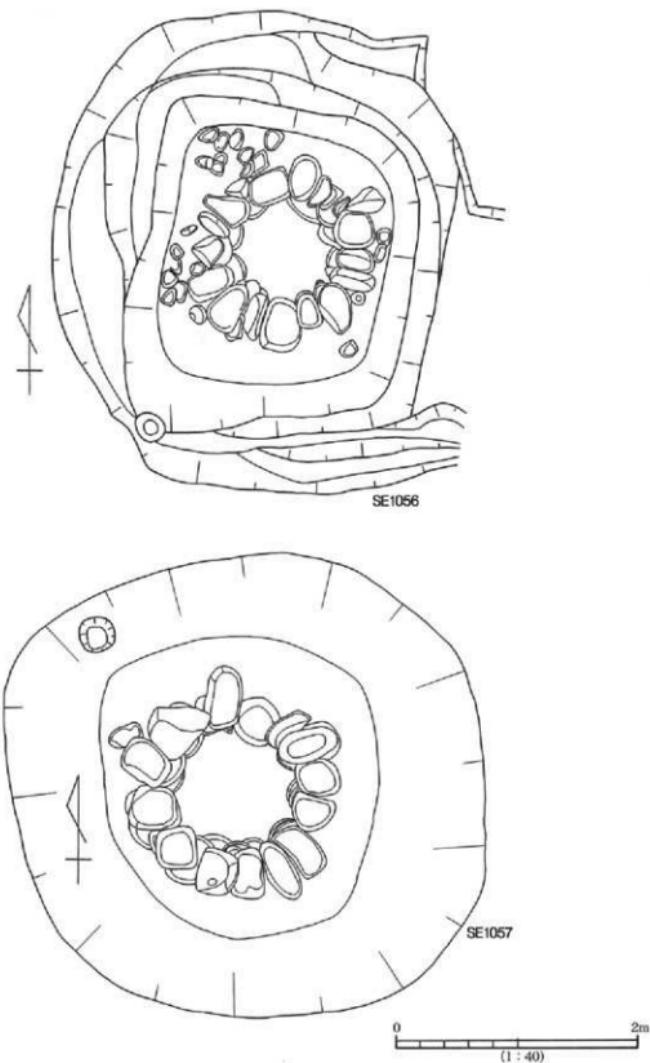
位 置 11 - 12 グリッド。

規 模 堀方径 2.01 m、内径 0.99 m、検出面からの深さ 1.34 m、底面標高 128.92 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 10 cm 下で確認された。石組は下にいくほど狭くなるロート状になっている。

出土遺物 出土遺物はない。

年 代 不明。



第275図 SE1056・SE1057

S E 1 0 2 4

位 置 8 - 12 グリッド。

規 模 堀方径 1.56 m、内径 0.96 m、検出面からの深さ 0.63 m、底面標高 127.96 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。中世の溝である SD1070 に切られその底面付近で検出された。

出土遺物 出土遺物はない。

年 代 SD1070 に切られるので中世以前だが、石組を持つので参考までに掲載した。

S E 1 0 3 2

位 置 9 - 12 グリッド。

規 模 堀方径 2.00 m、内径 0.70 m、検出面からの深さ 1.15 m、底面標高 128.63 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。SD1058 に切られその底面付近で検出された。

出土遺物 出土遺物はない。

年 代 SD1058 に切られるので 17 世紀前半以前だが、出土遺物がないので正確な年代は不明である。

S E 1 0 3 3

位 置 6 - 13 グリッド。

規 模 堀方径 2.80 m、内径 0.64 m、検出面からの深さ 1.41 m、底面標高 127.64 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 60 cm 下で確認された。

出土遺物 図化していないが黒瓦が出土している。

年 代 黒瓦があるので近世であろうが、正確な年代は不明である。

S E 1 0 3 6

位 置 11 - 16 グリッド。

規 模 内径 0.65 m、検出面からの深さ 0.68 m、底面標高 128.50 m。

形 態 石組の井戸である。東側が未調査部分にあたり全体は不明である。平面形態はおそらく円形で、南西側に比較的大きな裏込め石が付属する。石組は検出面の約 50 cm 下で確認された。

出土遺物 出土遺物はない。

年 代 不明。

S E 1 0 4 5

位 置 4 - 14 グリッド。

規 模 堀方径 2.47 m、内径 0.80 m、検出面からの深さ 1.55 m、底面標高 126.26 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の直下で確認された。

出土遺物 図化していないが肥前系陶器、黒瓦が出土している。

年 代 出土している肥前系陶器より 17 世紀前半の可能性が高い。

S E 1 0 5 5

位 置 7 - 12 グリッド。

IV 検出された遺構と遺物

規 模 内径 0.64 m、検出面からの深さ 2.09 m、底面標高 126.22 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 1.1 m 下で確認された。中世の溝である SD1070 を切る。

出土遺物 出土遺物はない。

年代 SD1070 を切るので中世以降だが、出土遺物がなく正確な年代は不明である。

SE 1056

位置 7-14 グリッド。

規模 挖方径 3.89 m、内径 0.88 m、検出面からの深さ 1.49 m、底面標高 126.94 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は掘り方が隅丸方形を、石組が円形を呈する。石組は検出面の約 1 m 下で確認された。

出土遺物 出土遺物はない。

年代 不明。

SE 1057

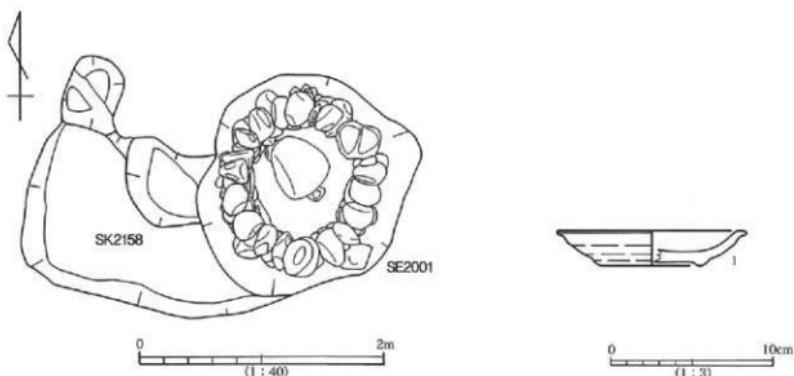
位置 8-14 グリッド。

規模 挖方径 4.27 m、内径 0.98 m、検出面からの深さ 1.59 m、底面標高 126.88 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形である。石組は検出面の約 60 cm 下で確認された。

出土遺物 出土遺物はない。

年代 不明。



第276図 SE2001

S E 2 0 0 1

位 置 2-20 グリッド。

規 模 堀方径 1.87 m、内径 0.93 m、検出面からの深さ 1.26 m、底面標高 126.22 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形である。石組は検出面直下で確認された。SK2158 を切る。

出土遺物 固化資料以外には、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶器、ロクロかわらけなどが出土している。

年 代 1より 17世紀前半であろう。

S E 2 0 0 3

位 置 2-20 グリッド。

規 模 堀方径 3.76 m、内径 1.06 m、検出面からの深さ 2.18 m、底面標高 125.38 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 70 cm 下で確認された。

出土遺物 固化資料以外に出土遺物はない。

年 代 黒瓦が出土しているので近世であろうが、正確な年代は不明である。

S E 2 0 0 4

位 置 2-20 ~ 3-20 グリッド。

規 模 堀方径 3.49 m、内径 1.09 m、検出面からの深さ 1.83 m、底面標高 125.80 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 20 cm 下で確認された。

出土遺物 固化資料以外には、肥前系陶磁器、黒瓦が出土している。

年 代 2などの肥前系磁器より 17世紀半ばころであろう。

S E 2 0 0 5

位 置 3-20 グリッド。

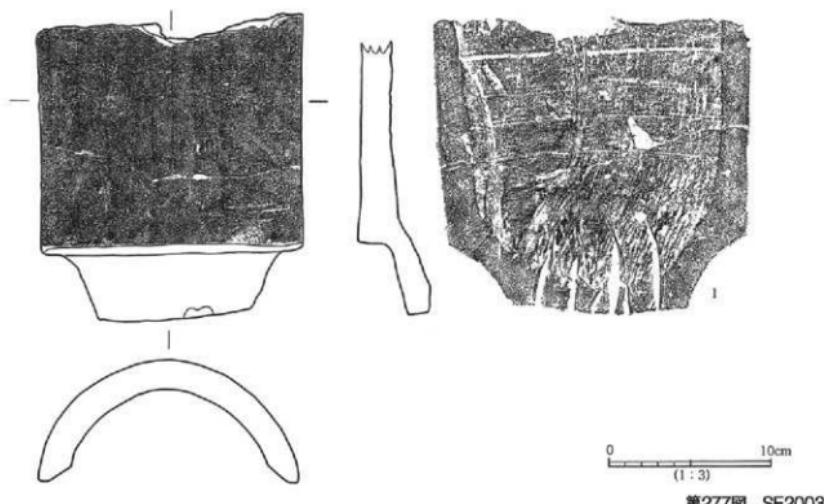
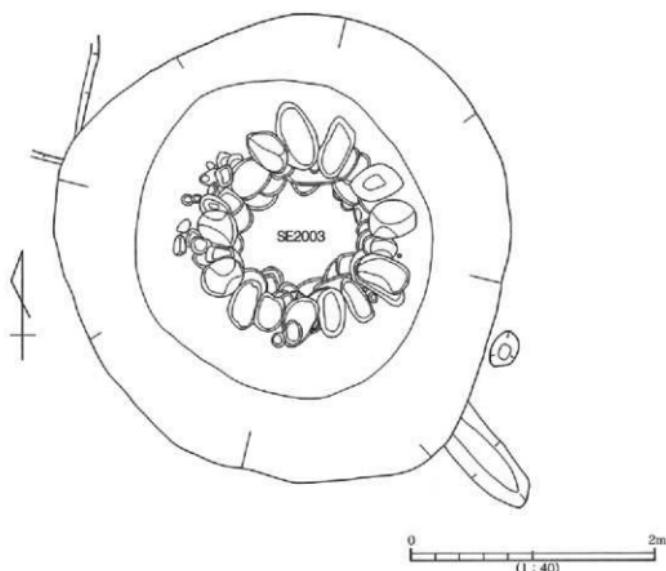
規 模 堀方径 1.95 m、内径 0.66 m、検出面からの深さ 1.06 m、底面標高 126.56 m。

形 態 石組で、底部に曲げ物が設置されている井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 10 cm 下で確認された。

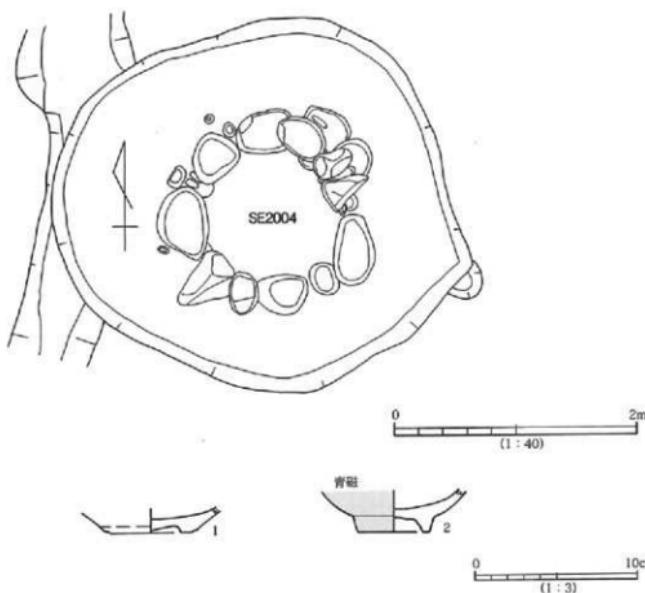
出土遺物 固化資料以外には、中世の陶器やかわらけの混入があるのみである。

年 代 1より 16世紀末から 17世紀初頭であろう。

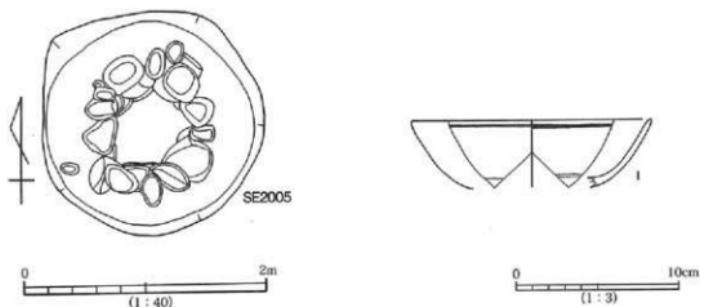
IV 検出された遺構と遺物



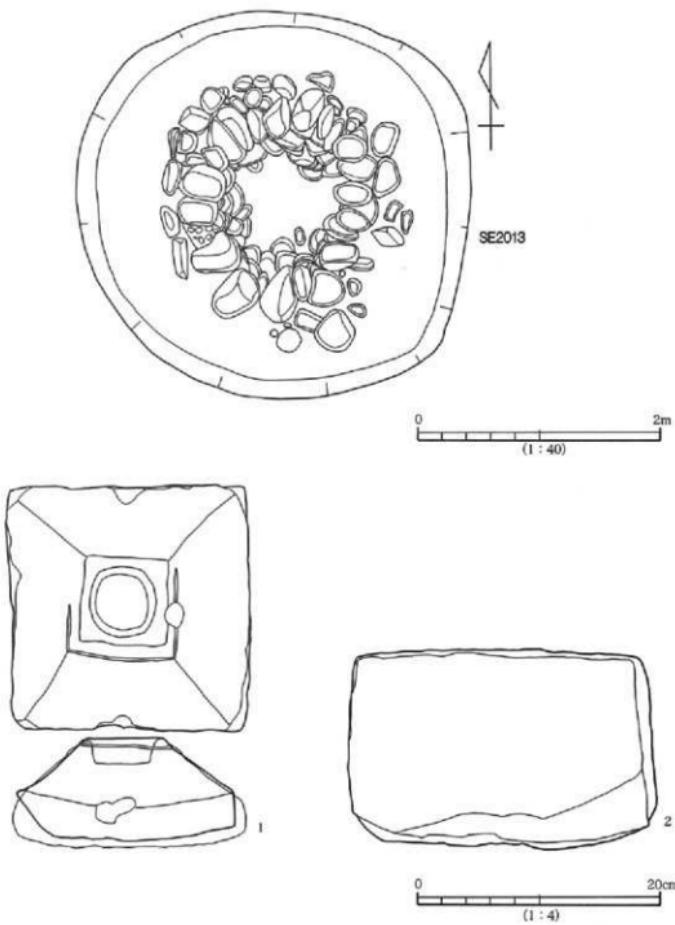
第277図 SE2003



第278図 SE2004



第279図 SE2005



第280図 SE2013

S E 2 0 1 3

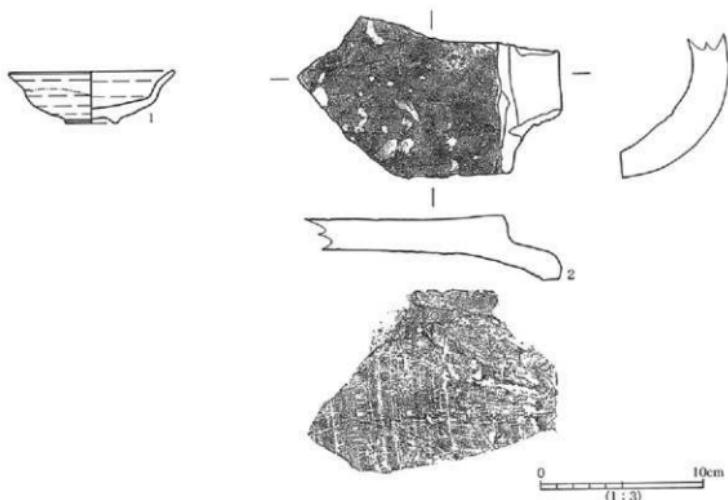
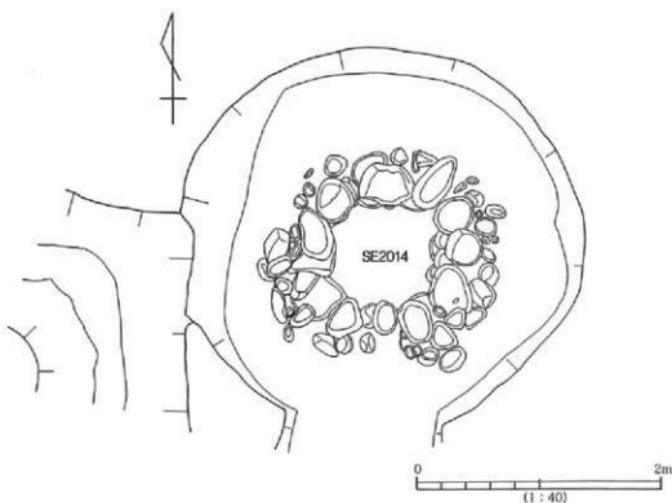
位 置 3-19 グリッド。

規 模 堀方径 3.46 m、内径 1.15 m、検出面からの深さ 1.42 m、底面標高 126.71 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 10 cm 下で確認された。

出土遺物 図化資料以外には、輸入磁器、肥前系磁器が出土している。

年 代 肥前系磁器が出土しているので II 期以降であろうが、正確な年代は決定しがたい。

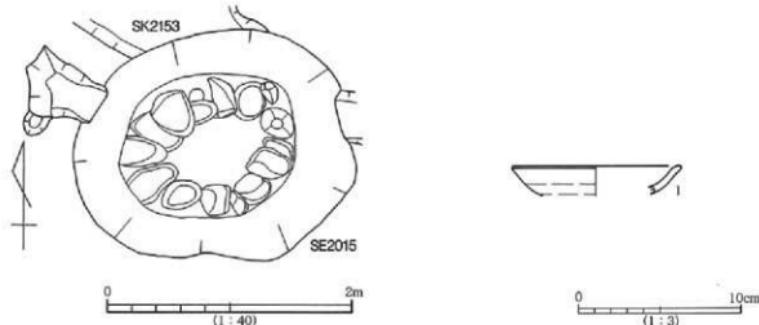


第281図 SE2014

IV 検出された遺構と遺物

SE2014

位置 3-19 グリッド。
規模 堀方径 3.28 m、内径 0.92 m、検出面からの深さ 1.99 m、底面標高 126.09 m。
形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面で確認された。
出土遺物 図化資料以外には、黒瓦が 4 点出土している。なお、種類は不明だが動物の骨が出土している。
年代 黒瓦が出土しているので近世であろうが、正確な年代は不明である。



第282図 SE2015

SE2015

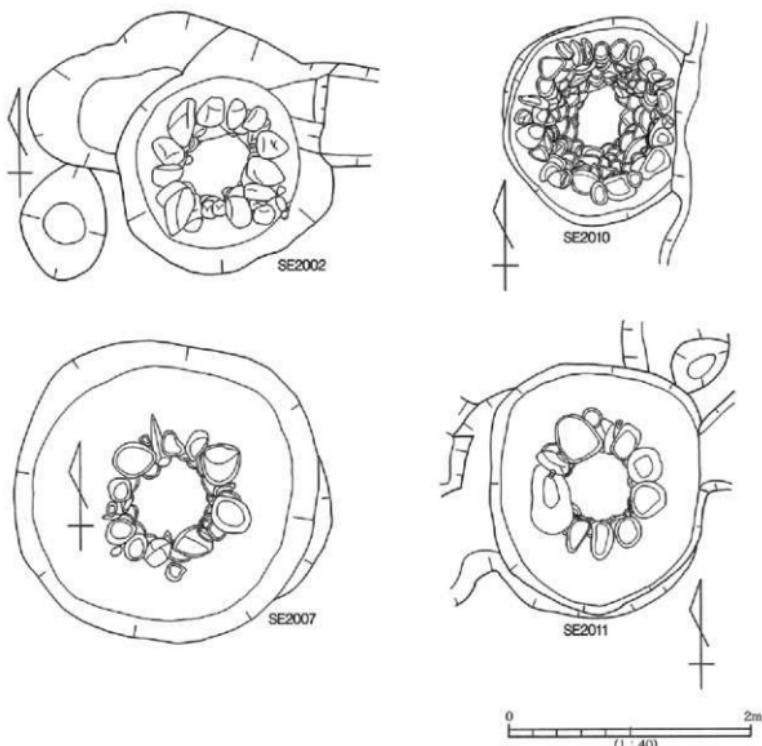
位置 2-18 グリッド。
規模 堀方径 2.27 m、内径 0.78 m、検出面からの深さ 0.93 m、底面標高 127.08 m。
形態 石組の井戸である。平面形態は梢円形を呈する。石組は検出面の約 60 cm 下で確認された。SK2153 を切る。
出土遺物 図化資料以外には、黒瓦が 1 点出土しているのみである。
年代 黒瓦が出土しているので近世であろうが、正確な年代は不明である。

SE2002

位置 2-18 ~ 2-19 グリッド。
規模 堀方径 1.79 m、内径 0.64 m、検出面からの深さ 1.06 m、底面標高 126.75 m。
形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 50 cm 下で確認された。
出土遺物 出土遺物はない。
年代 不明。

SE2007

位置 2-21 グリッド。



第283図 SE2002・SE2007・SE2010・SE2011

規 模 挖方径 2.58 m、内径 0.70 m、検出面からの深さ 1.37 m、底面標高 125.93 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 70 cm 下で確認された。

出土遺物 ウマの歯が出土している。

年 代 不明。

SE 2010

位 置 2-21 グリッド。

規 模 挖方径 1.73 m、内径 0.98 m、検出面からの深さ 1.21 m、底面標高 126.14 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は底面に近くなるほど狭くなるロート状になっている。石組は検出面の約 10 cm 下で確認された。

出土遺物 出土遺物はない。

年 代 不明。

IV 検出された遺構と遺物

SE2011

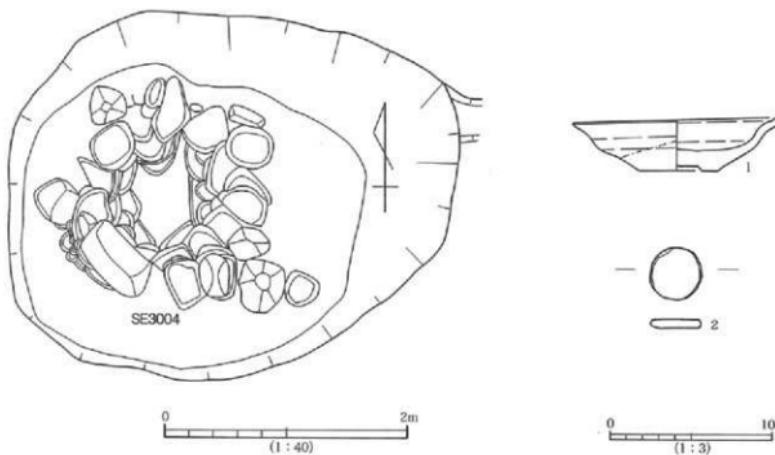
位置 3-20 グリッド。

規模 堀方径 2.08 m、内径 0.56 m、検出面からの深さ 1.42 m、底面標高 126.18 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は掘り方が円形に近い楕円形を、石組が円形を呈する。石組は検出面で確認された。

出土遺物 出土遺物はない。

年代 不明。



第284図 SE3004

SE3004

位置 15-13~15-14 グリッド。

規模 堀方径 3.87 m、内径 0.90 m、検出面からの深さ 1.81 m、底面標高 128.56 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は掘り方が楕円形を、石組が円形を呈する。北側の石組は上から 2 ~ 3 段目までが崩落していた。石組は検出面の約 90 cm 下で確認された。

出土遺物 図化資料以外には、黒瓦が 2 点出土している。なお、被熟したヒトの四肢骨が出土している。

年代 1 より 17 世紀前半であろう。

SE3001

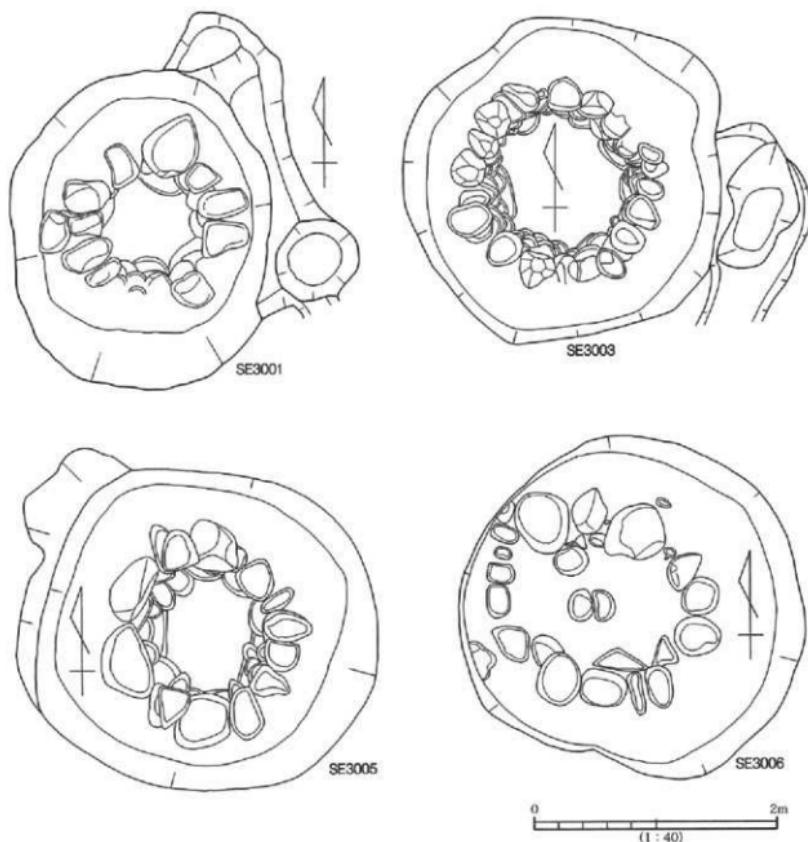
位置 16-11 グリッド。

規模 堀方径 2.58 m、内径 0.76 m、検出面からの深さ 1.62 m、底面標高 129.67 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 70 cm 下で確認された。

出土遺物 図化していないが温石が 1 点出土している。

年代 不明。



第285図 SE3001・SE3003・SE3005・SE3006

SE3003

位 置 17-12 グリッド。

規 模 挖方径 2.68 m、内径 1.16 m、検出面からの深さ 1.61 m、底面標高 129.92 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 20 cm 下で確認された。

出土遺物 出土遺物はない。

年 代 不明。

IV 検出された遺構と遺物

SE3005

位置 15 - 14 グリッド。

規模 堀方径 2.88 m、内径 1.00 m、検出面からの深さ 1.87 m、底面標高 128.78 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 50 cm 下で確認された。

出土遺物 図化していないが石臼が 1 点出土している。

年代 不明。

SE3006

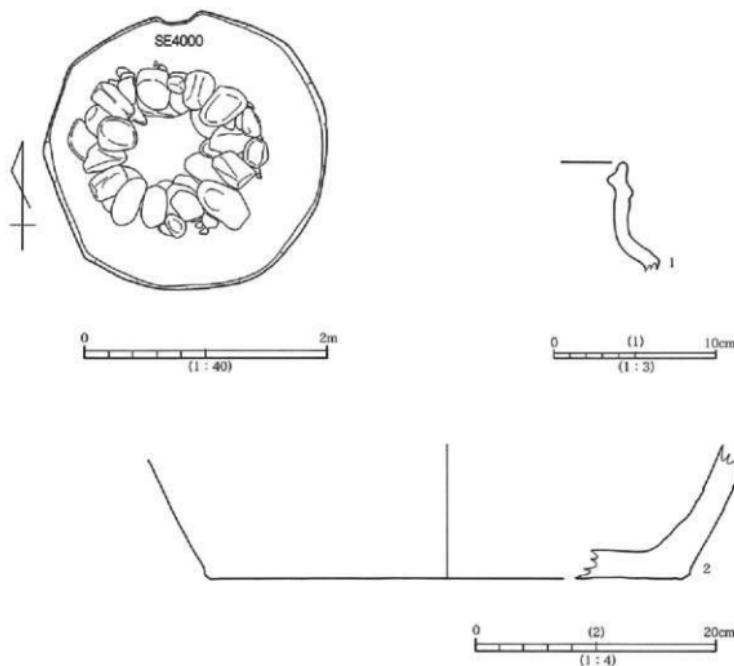
位置 15 - 12 グリッド。

規模 堀方径 2.83 m、(内径 0.83 m)、検出面からの深さ 1.44 m、底面標高 128.92 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は崩落が激しく 1 段から 2 段までしか残存していないかった。石組は検出面の約 80 cm 下で検出された。

出土遺物 出土遺物はない。

年代 不明。



第286図 SE4000

S E 4 0 0 0

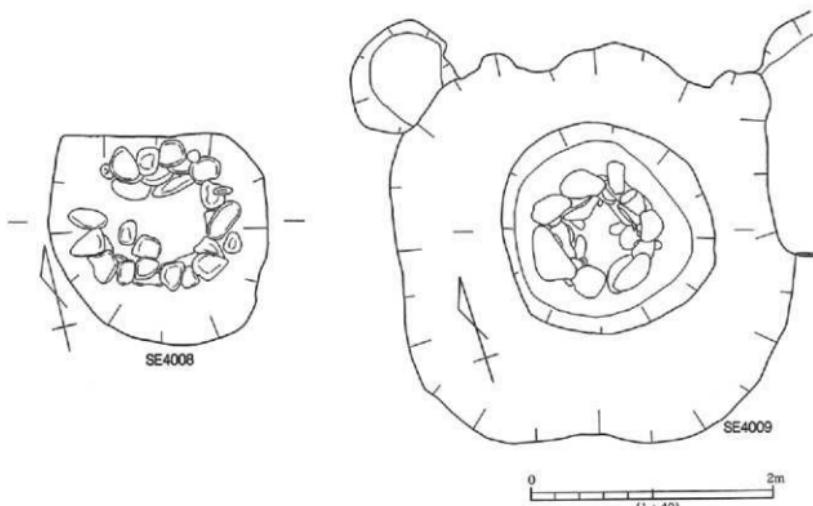
位 置 14-7 グリッド。

規 模 堀方径 2.42 m、内径 0.66 m、検出面からの深さ 0.56 m、底面標高 128.16 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面で確認された。

出土遺物 図化資料以外には、壺器系陶器が 2 点出土している。

年 代 不明。



第287図 SE4008・SE4009

S E 4 0 0 8

位 置 13-7 グリッド。

規 模 堀方径 1.81 m、内径 0.86 m、検出面からの深さ、底面標高不明。

形 態 石組の井戸である。平面形態は掘り方がやや崩れた方形を、石組が梢円形を呈する。

出土遺物 出土遺物はない。

年 代 不明。

S E 4 0 0 9

位 置 15-7 グリッド。

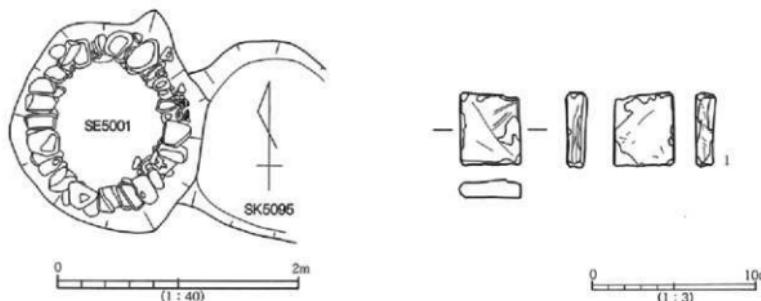
規 模 堀方径 3.52 m、内径 0.58 m、検出面からの深さ 0.75 m、底面標高 127.15 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は掘り方が隅丸方形を、石組は円形を呈する。掘り方にに対して石組が小規模である。石組は検出面の約 50 cm 下で確認された。

出土遺物 出土遺物はない。

年 代 不明。

IV 検出された遺構と遺物



第288図 SE5001

SE5001

位置 16-10 グリッド。

規模 堀方径 1.68 m、内径 1.04 m、検出面からの深さ 0.40 m、底面標高 129.81 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 10 cm 下で確認された。SK5096 を切る。

出土遺物 図化資料以外に出土遺物はない。

年代 不明。

SE5006

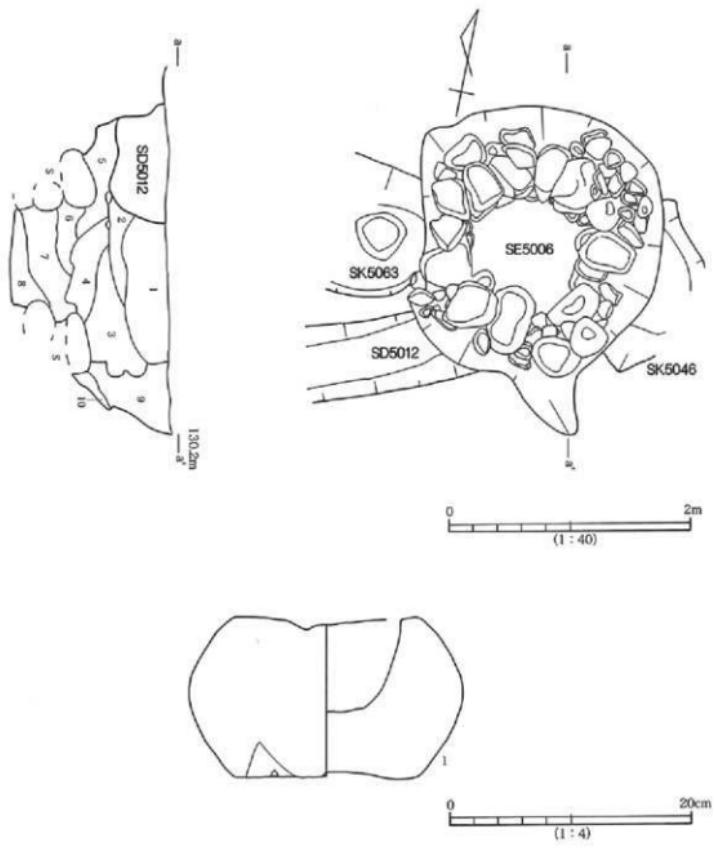
位置 17-8 グリッド。

規模 堀方径 2.26 m、内径 0.89 m、検出面からの深さ 1.24 m、底面標高 128.79 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 60 cm 下で確認された。近代の塗壕のような溝である SD5012 に切られる。SK5046、SK5063 との切り合い関係は不明である。

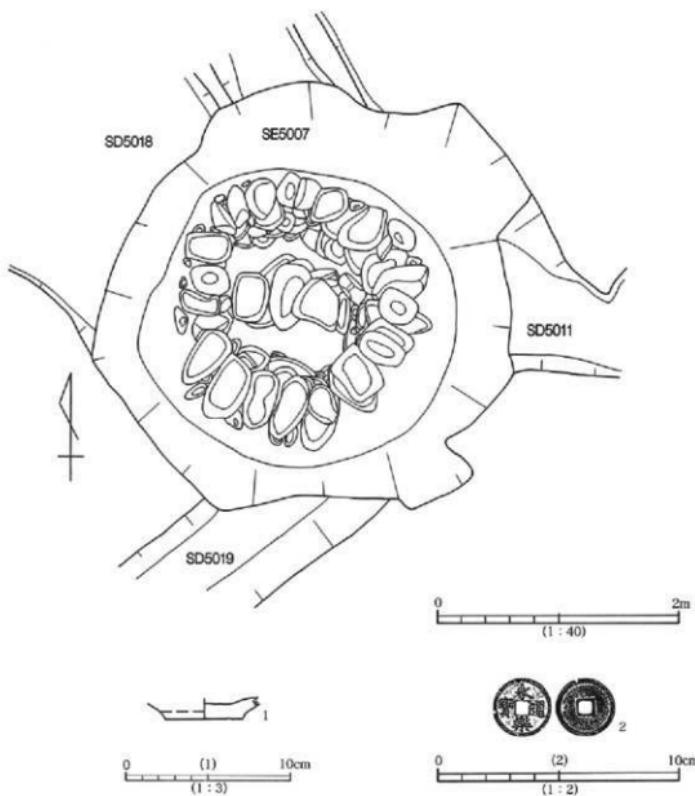
出土遺物 図化資料以外に出土遺物はない。

年代 不明。



第289図 SE5006

IV 検出された遺構と遺物



第290図 SE5007

SE5007

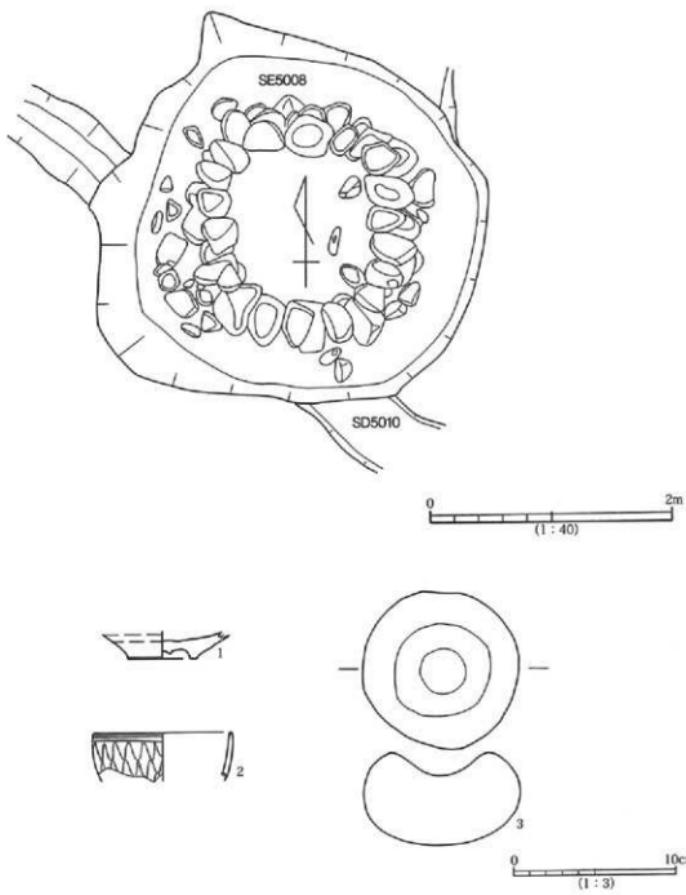
位置 16-10 グリッド。

規模 挖方径 3.66 m、内径 1.16 m、検出面からの深さ 1.29 m、底面標高 128.76 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 60 cm 下で確認された。近代の
塀塔のような SD5011、SD5018、SD5019 に切られる。

出土遺物 図化資料以外には、肥前系陶器などが出土している。

年代 出土している肥前系陶器より 17 世紀前半であろう。



第291図 SE5008

SE5008

位 置 16-9~17-9グリッド。

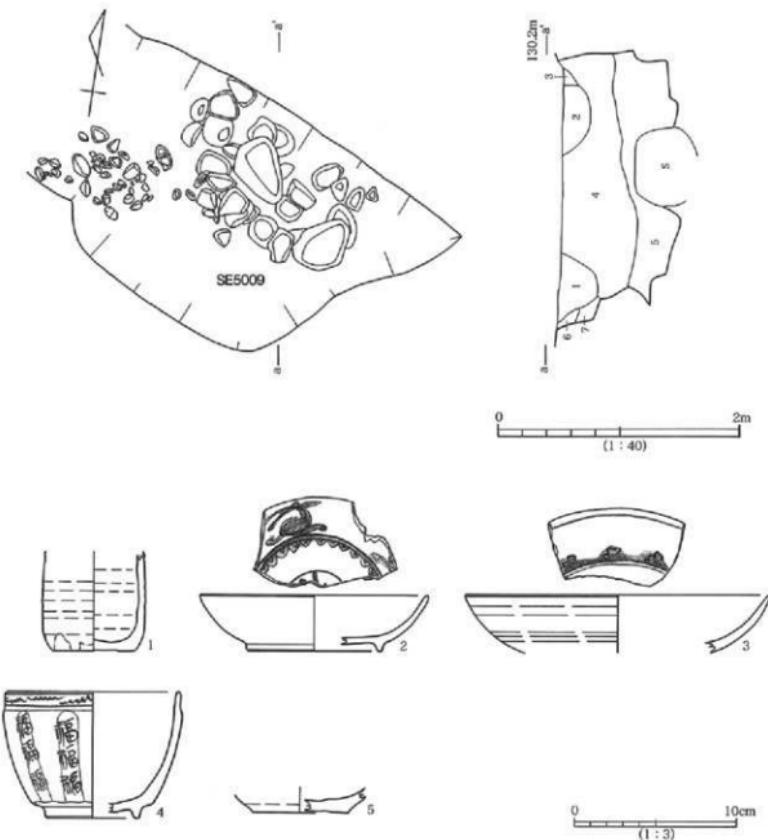
規 模 掘方径 3.16 m、内径 1.34 m、検出面からの深さ 0.69 m、底面標高 129.47 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 20 cm 下で確認された。近代の塹壕のような SD5010 に切られる。

出土遺物 固化資料以外には、輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、黒瓦、赤瓦などが出土している。

年 代 赤瓦が出土したことから、IV期以降であろう。

IV 検出された遺構と遺物



第292図 SE5009

SE5009

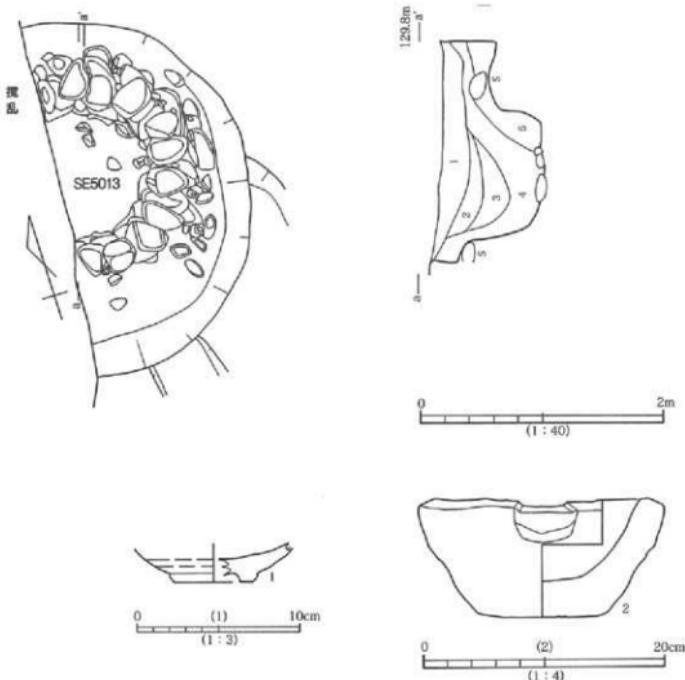
位 置 16-8~17-8グリッド。

規 模 堀方径 3.08m、内径 1.29m、検出面からの深さ 0.98m、底面標高 129.08m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は掘り方が台形状で、石組は崩落が激しくはっきりしない。石組は検出面の約 30cm 下で確認された。

出土遺物 固化資料以外に出土遺物はない。

年 代 出土遺物は少ないが、肥前系磁器は初期伊万里のみで構成されるのでⅡ期であろう。

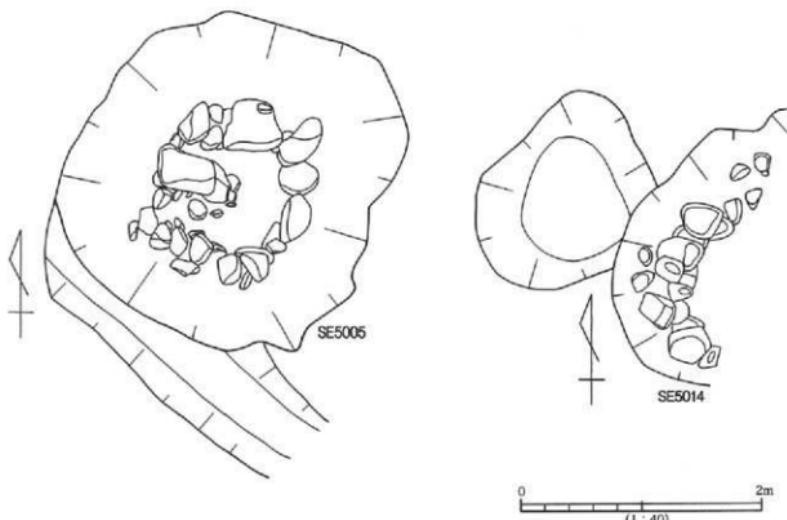


第293図 SE5013

S E 5 0 1 3

- 位 置 16-8 グリッド。
- 規 模 挖方径 2.77 m、内径 0.99 m、検出面からの深さ 0.77 m、底面標高 128.79 m。
- 形 態 石組の井戸である。平面形態は西側が擾乱に切られるが、ほぼ円形を呈する。石組は検出面の約 30 cm 下で確認された。
- 出土遺物 固化資料以外に出土遺物はない。
- 年 代 1より 16世紀末から 17世紀初頭であろう。

IV 検出された造構と遺物



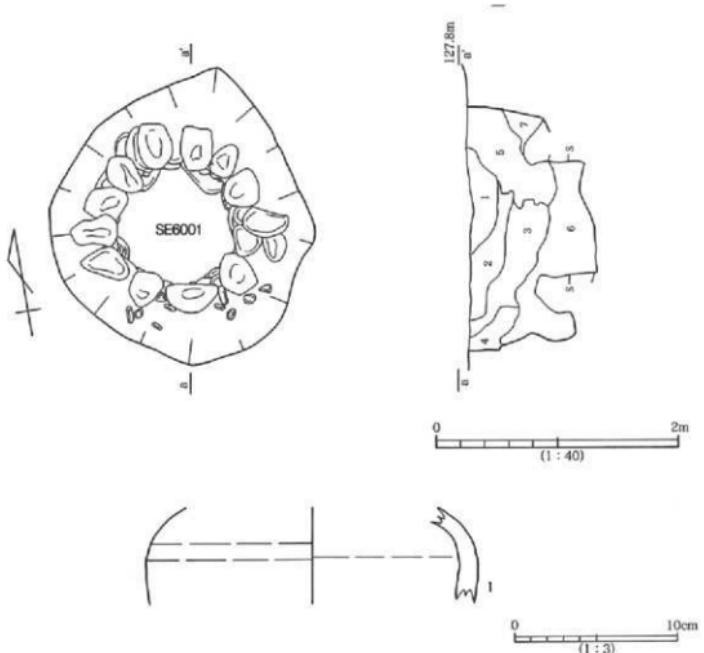
第294図 SE5005・SE5014

SE5005

位置 16-8グリッド。
規模 堀方径 2.66 m、内径 0.86 m、検出面からの深さ、底面標高不明。
形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。
出土遺物 固化していないが、産地不明の陶器があるのみである。
年代 不明。

SE5014

位置 16-10グリッド。
規模 堀方径 2.35 m、内径 1.17 m、検出面からの深さ 0.57 m、底面標高 129.60 m。
形態 石組の井戸である。東側が調査区外にかかり全体はわからないが、平面形態はほぼ円形を呈すると思われる。石組は検出面の約 20 cm 下で確認された。
出土遺物 出土遺物はない。
年代 不明。



第295図 SE6001

S E 6 0 0 1

位 置 10-7 グリッド。

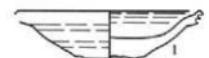
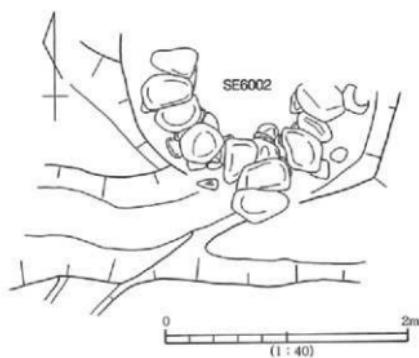
規 模 挖方径 2.40 m、内径 0.93 m、検出面からの深さ 1.05 m、底面標高 126.68 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 50 cm 下で確認された。

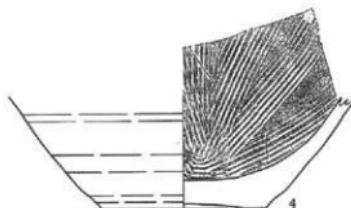
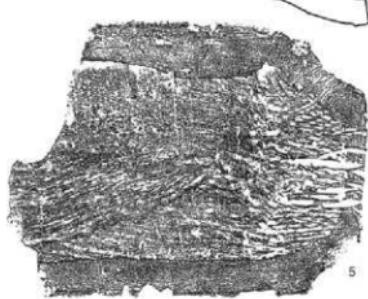
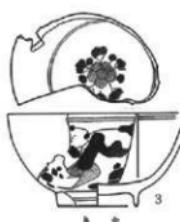
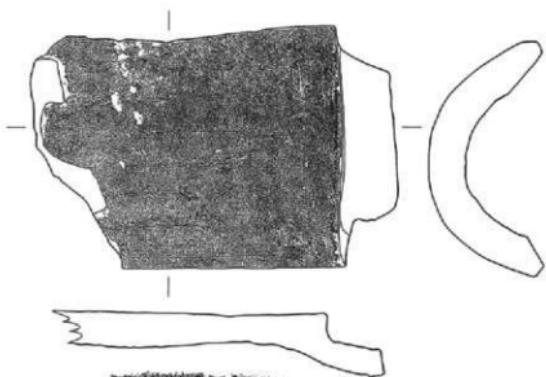
出土遺物 図化資料以外には、肥前系陶器、ロクロかわらけ、黒瓦などが出土している。

年 代 出土している肥前系陶器から 17 世紀初頭の可能性が高い。

IV 検出された遺構と遺物



明



0 10cm
(1 : 3)

第296図 SE6002

S E 6 0 0 2

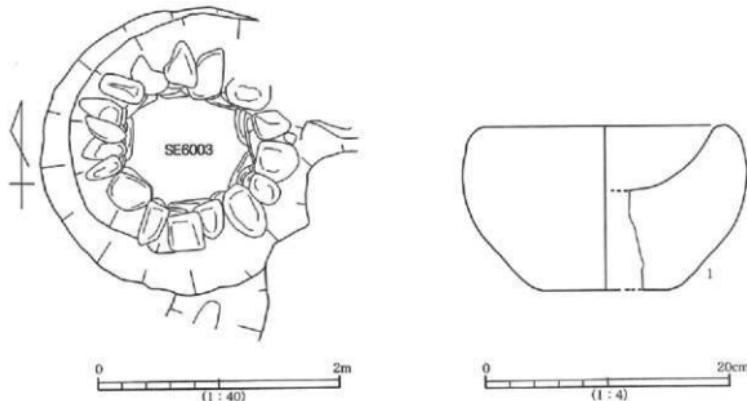
位 置 10-7 グリッド。

規 模 挖方径 2.35 m、内径 0.85 m、検出面からの深さ 0.74 m、底面標高 126.77 m。

形 態 石組の井戸である。北側が未調査部分にかかり全体はわからないが、平面形態はほぼ円形を呈する。石組は検出面の約 10 cm 下で確認された。

出土遺物 図化資料以外には、輸入磁器、瀬戸美濃の織部製品や擂鉢、肥前系陶器、丹波系と思われる擂鉢、黒瓦などが出土している。

年 代 出土遺物の年代幅が広く正確な年代はわからないが、3より最終的な埋没年代は 18 世紀前半であろう。



第297図 SE6003

S E 6 0 0 3

位 置 9-8 グリッド。

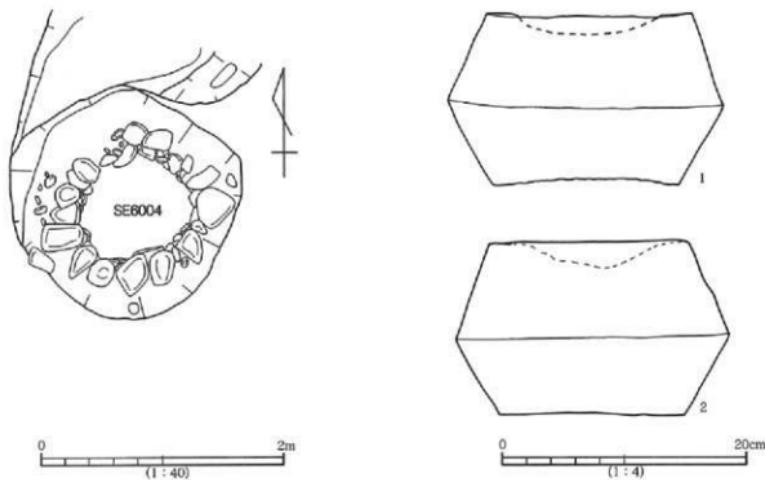
規 模 挖方径 2.33 m、内径 0.97 m、検出面からの深さ 1.06 m、底面標高 126.29 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 20 cm 下で確認された。

出土遺物 図化資料以外には、肥前系陶器などが出土している。

年 代 出土している肥前系陶器より 17 世紀前半の可能性があるが、出土遺物が少なく正確な年代は決定しがたい。

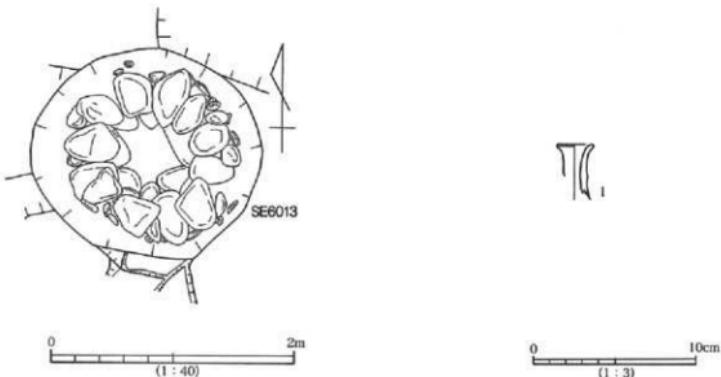
IV 検出された遺構と遺物



第298図 SE6004

SE6004

- 位置 9-8グリッド。
 規模 堀方径 1.93 m、内径 0.88 m、検出面からの深さ 1.28 m、底面標高 126.18 m。
 形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面で確認された。
 出土遺物 図化資料以外に出土遺物はない。
 年代 不明。



第299図 SE6013

S E 6 0 1 3

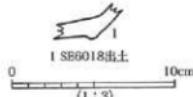
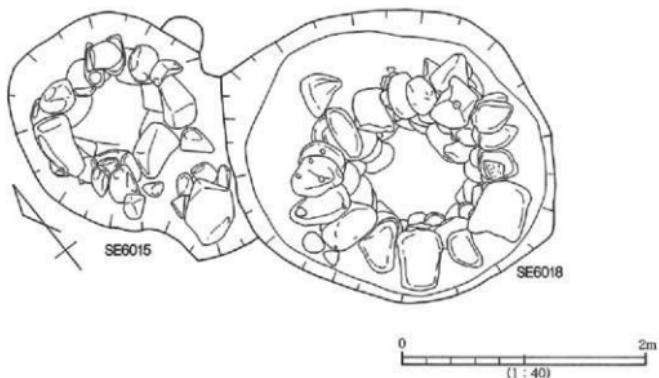
位 置 11-9 グリッド。

規 模 堀方径 1.89 m、内径 0.46 m、検出面からの深さ 1.12 m、底面標高 126.95 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 60 cm 下で確認された。

出土遺物 1 の縁軸陶器は混入と思われるが参考のため図化した。他に出土遺物はない。

年 代 不明。



第300図 SE6015・SE6018

S E 6 0 1 5 ・ S E 6 0 1 8

位 置 13-10 グリッド。

規 模 SE6015 堀方径 1.77 m、内径 0.60 m、検出面からの深さ 0.70 m、底面標高 126.91 m。

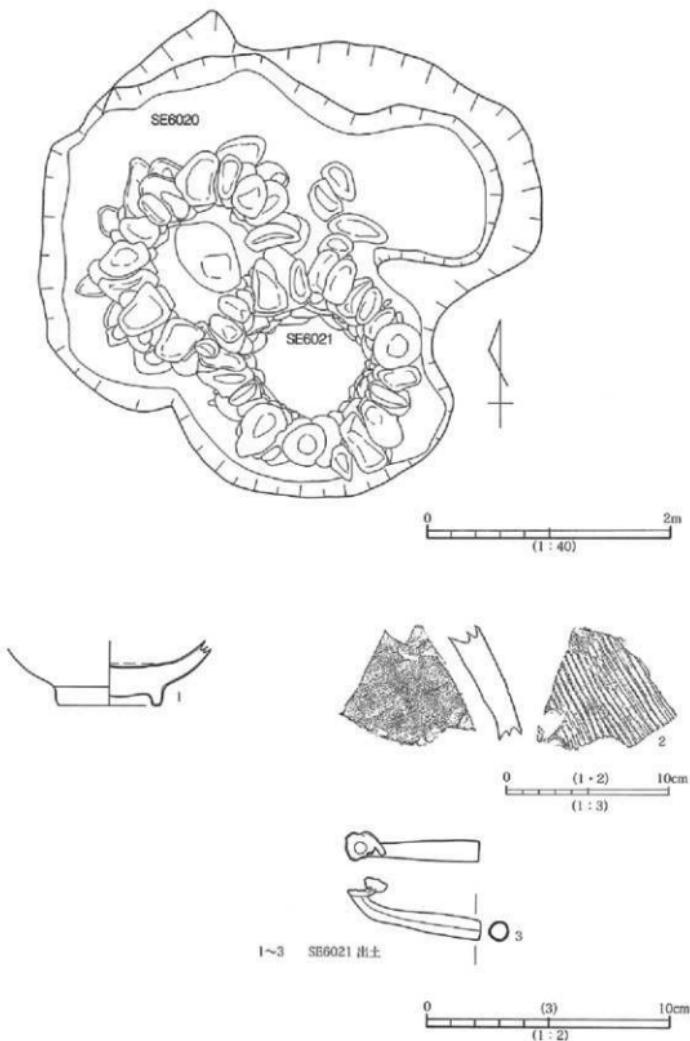
SE6018 堀方径 2.73 m、内径 0.96 m、検出面からの深さ 0.71 m、底面標高 126.93 m。

形 態 ともに石組の井戸で、平面形態は円形を呈する。石組は SE6015 が検出面の約 10 cm 下で、SE6018 が検出面直下で確認された。SE6015 が SE6018 に切られる。

出土遺物 ともに図化資料以外に出土遺物はない。

年 代 SE6018 は 1 より 16 世紀半ばから後半の可能性があるが、出土遺物が少なく正確な年代は決定しがたい。切り合いより SE6015 は SE6018 より古いが年代は不明である。

IV 検出された遺構と遺物



第301図 SE6020・SE6021

SE6020・SE6021

位 置 14-9~15-9 グリッド。

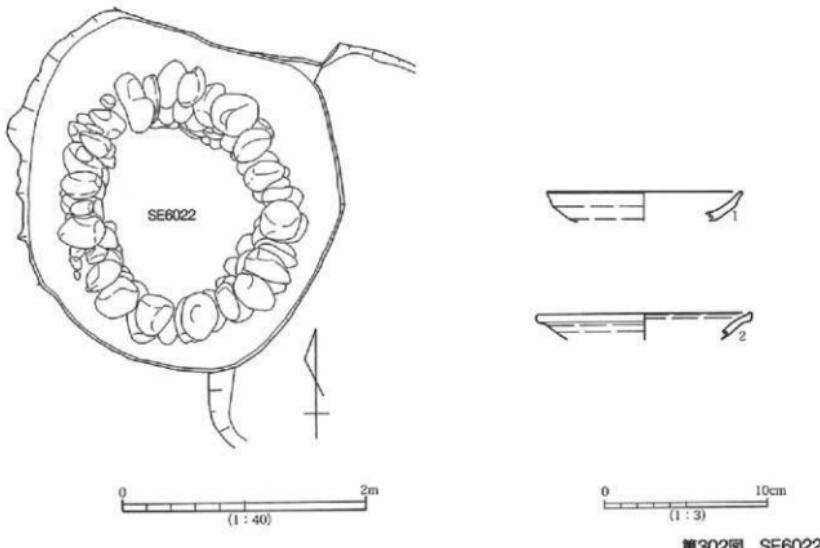
規 模 SE6020 挖方径 3.01 m、内径 0.91 m、検出面からの深さ 0.98 m、底面標高 126.50 m。

SE6021 挖方径 2.35 m、内径 0.84 m、検出面からの深さ 1.32 m、底面標高 126.34 m。

形 態 ともに石組の井戸で、平面形態は円形を呈するが、SE6020 の北東側の掘り方に張り出しのような部分が付属する。石組は SE6020 が検出面直下で、SE6021 が検出面の約 10 cm 下で確認された。SE6020 が SE6021 に切られる。

出土遺物 図化資料以外には、SE6021 に肥前系陶器が 1 点出土しているのみである。SE6020 は出土遺物がない。

年 代 SE6021 は出土している肥前系陶器より 17 世紀前半の可能性があるが、出土遺物は少なく正確な年代は決定しがたい。SE6020 は切り合いより SE6021 より新しいが年代は不明である。



第302図 SE6022

SE6022

位 置 12-10~12-11 グリッド。

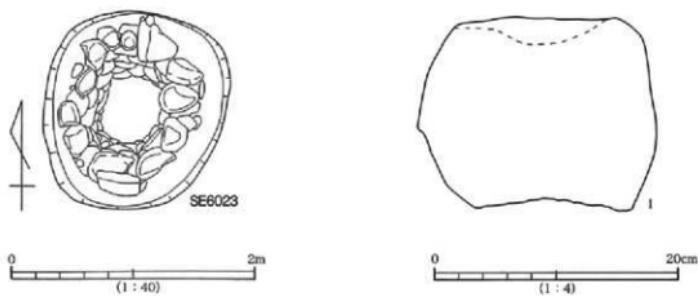
規 模 挖方径 3.02 m、内径 1.40 m、検出面からの深さ 1.23 m、底面標高 126.43 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 40 cm 下で確認された。

出土遺物 図化資料以外には、肥前系陶器、ロクロかわらけなどがある。

年 代 2 より 17 世紀前半の可能性が高い。

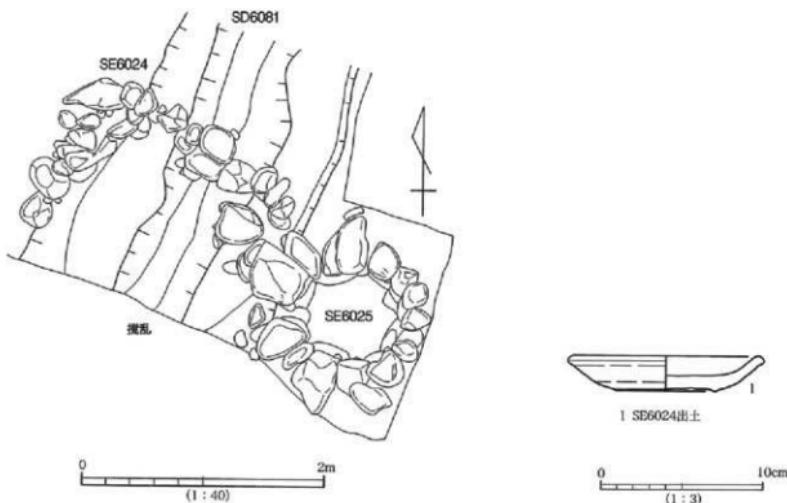
IV 検出された遺構と遺物



第303図 SE6023

SE6023

位 置 14 - 11 グリッド。
規 模 掘方径 1.74 m、内径 0.76 m、検出面からの深さ 1.54 m、底面標高 126.83 m。
形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 10 cm 下で確認された。
出土遺物 図化資料以外に出土遺物はない。
年 代 不明。



第304図 SE6024・SE6025

S E 6 0 2 4 • S E 6 0 2 5

位 置 14-11~15-11 グリッド。

規 模 SE6024 掘方径、内径、検出面からの深さ、底面標高不明。

SE6025 掘方径不明、内径 0.83 m、検出面からの深さ、底面標高不明。

形 態 石組の井戸である。SE6024 は崩落が激しく平面形態は不明である。SE6025 は掘り方が不明で、石組は平面形態が円形である。ともに SD6081 を切る。

出土遺物 SE6024 は図化資料以外には、輸入磁器、肥前系陶器、黒瓦などがある。SE6025 は出土遺物がない。

年 代 ともに SD6081 との切り合い関係より、埋没年代は 19 世紀以降である。

S E 6 0 0 5

位 置 13-8 グリッド。

規 模 掘方径 1.19 m、内径不明、検出面からの深さ 0.69 m、底面標高 127.57 m。

形 態 石組の井戸だが、石組はほとんど崩落して原型をとどめていない。裏込め石と思われる石が底面に若干散乱しているのみである。掘り方の平面形態は円形を呈する。

出土遺物 図化していないが、輸入磁器、肥前系陶器、黒瓦などが出土している。

年 代 出土している肥前系陶器より 17 世紀前半の可能性が高い。

S E 6 0 0 6

位 置 13-8 グリッド。

規 模 掘方径 1.58 m、内径 0.82 m、検出面からの深さ 1.21 m、底面標高 126.91 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 10 cm 下で検出された。石組の西側の上部にある木製の板は近代の電柱支線の基礎で、この周辺は若干搅乱を受けている。

出土遺物 出土遺物はない。

年 代 不明。

S E 6 0 0 7

位 置 13-8 グリッド。

規 模 掘方径 1.32 m、内径 0.61 m、検出面からの深さ 0.63 m、底面標高 127.39 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の直下で確認された。

出土遺物 出土遺物はない。

年 代 不明。

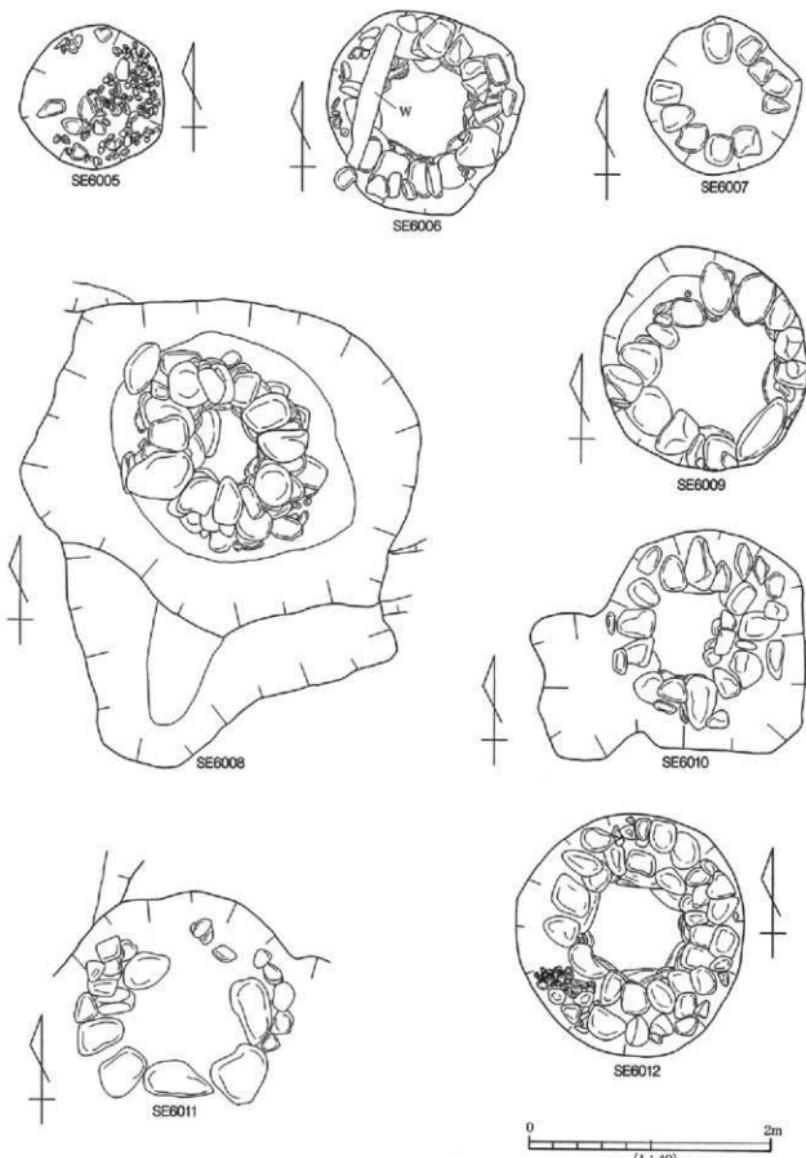
S E 6 0 0 8

位 置 13-8 グリッド。

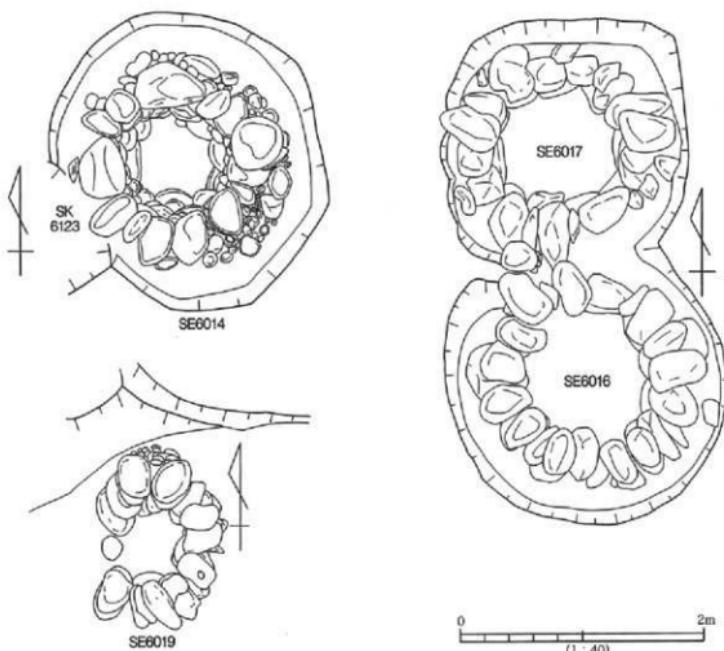
規 模 掘方径 3.21 m、内径 0.58 m、検出面からの深さ 0.95 m、底面標高 127.25 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は掘り方が隅丸方形を、石組は円形を呈する。ただし掘り方は南側に張り出しのような部分が付属する。石組は検出面で確認された。

IV 検出された造構と遺物



第305図 SE6005・SE6006・SE6007・SE6008・SE6009・SE6010・SE6011・SE6012



第306図 SE6014・SE6016・SE6017・SE6019

出土遺物 固化していないが、肥前系磁器などに近代に下ると思われる陶磁器がある。

年代 遺物の年代は幅が広いが、最終的な埋没年代は近代まで下るであろう。

SE6009

位置 10-8グリッド。

規模 掘方径 1.88 m、内径 1.03 m、検出面からの深さ 0.74 m、底面標高 126.83 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 10 cm 下で確認された。

出土遺物 出土遺物はない。

年代 不明。

SE6010

位置 9-8グリッド。

規模 掘方径 1.79 m、内径 0.73 m、検出面からの深さ 0.79 m、底面標高 126.75 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈するが、掘り方は西側に張り出しが付属する。石組は検

IV 検出された遺構と遺物

出面で確認された。

出土遺物 出土遺物はない。

年代 不明。

SE6011

位置 11-8 グリッド。

規模 堀方径不明、内径 0.92 m、検出面からの深さ 0.82 m、底面標高 127.15 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 50 cm 下で検出された。中世の溝である SD6035 を切る。

出土遺物 出土遺物はない。

年代 不明。

SE6012

位置 9-9 グリッド。

規模 堀方径 1.97 m、内径 0.90 m、検出面からの深さ 1.20 m、底面標高 126.91 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面直下で確認された。

出土遺物 出土遺物はない。

年代 不明。

SE6014

位置 13-9 グリッド。

規模 堀方径 2.55 m、内径 0.89 m、検出面からの深さ 1.31 m、底面標高 127.13 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 10 cm 下で確認された。SK6123 を切る。

出土遺物 図化していないが、ロクロかわらけが 1 点出土している。

年代 不明。

SE6016・SE6017

位置 11-9~12-9 グリッド。

規模 SE6016 堀方径 2.42 m、内径 1.02 m、検出面からの深さ 0.76 m、底面標高 126.38 m。

SE6017 堀方径 2.43 m、内径 0.97 m、検出面からの深さ 1.44 m、底面標高 125.82 m。

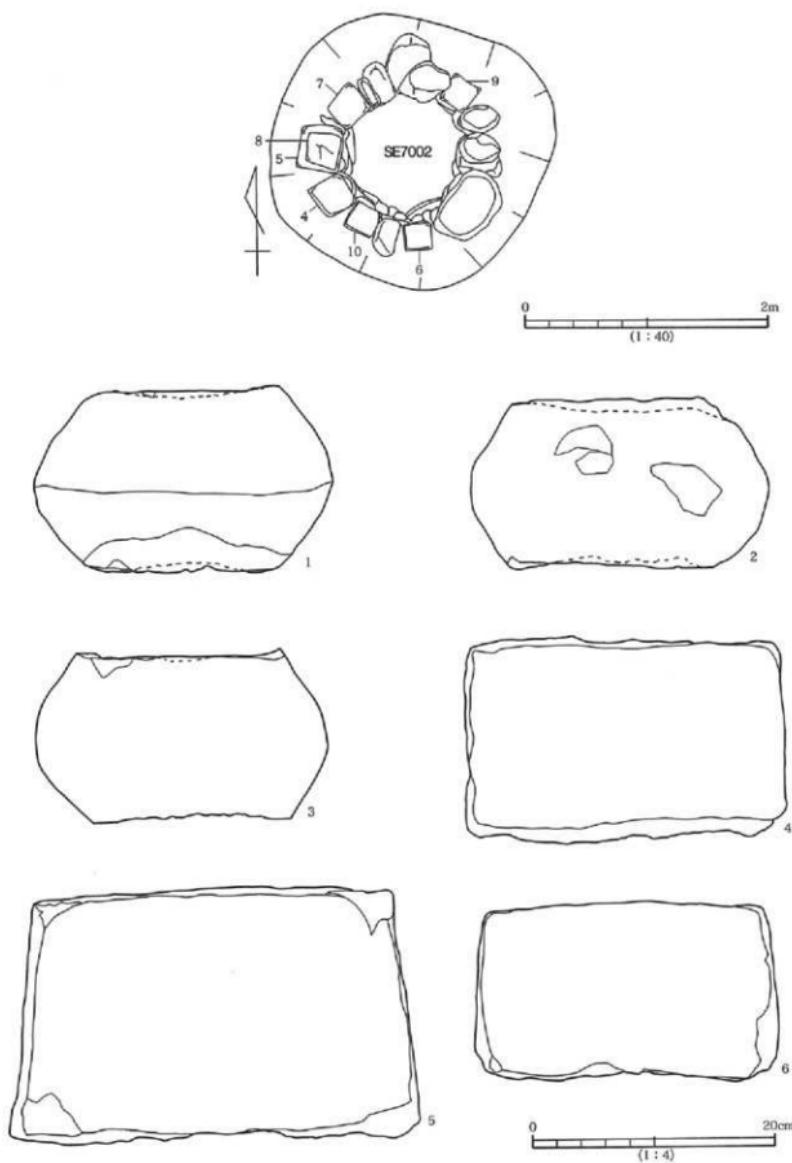
形態 石組の井戸である。平面形態はともに円形を呈する。石組は SE6016 が検出面直下で、SE6017 が検出面の約 10 cm 下で確認された。SE6017 が SE6016 を切る。

出土遺物 出土遺物はない。

年代 不明。

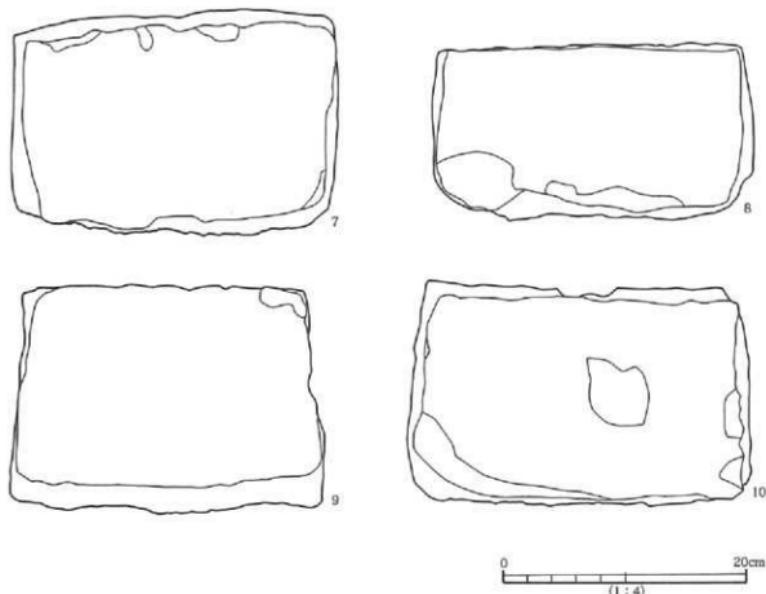
SE6019

位置 14-10 グリッド。



第307図 SE7002 (1)

IV 検出された遺構と遺物



第308図 SE7002 (2)

規 模 堀方径不明、内径 0.61 m、検出面からの深さ 0.58 m、底面標高 127.24 m。

形 態 石組の井戸である。上部を搅乱によって切られているので掘り方の形状は不明である。石組の平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 40 cm 下で確認された。

出土遺物 出土遺物はない。

年 代 不明。

SE7002

位 置 6-22 グリッド。

規 模 堀方径 2.42 m、内径 0.95 m、検出面からの深さ 1.74 m、底面標高 125.86 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面から約 10 cm 下で確認された。出土した五輪塔の地輪は、井戸の上から 1 段目 (5 のみが 8 の下) の石組に転用されていた。

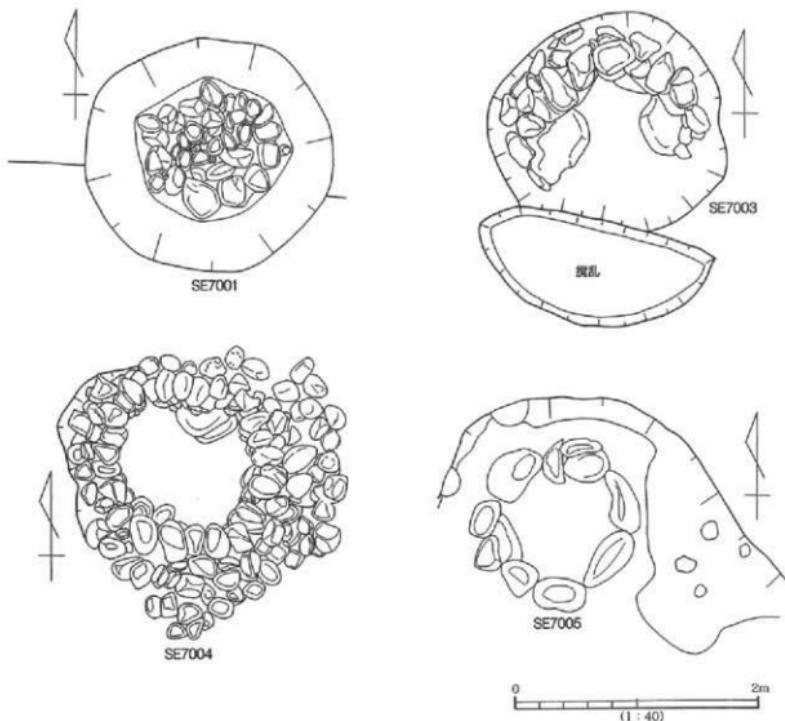
出土遺物 図化資料以外に出土遺物はない。

年 代 不明。

SE7001

位 置 7-23 グリッド。

規 模 堀方径 1.99 m、内径 0.71 m、検出面からの深さ 0.15 m、底面標高 126.76 m。



第309図 SE7001・SE7003・SE7004・SE7005

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。平面形態は円形を呈する。上部を搅乱に切られているため、石組は検出面で確認され、検出面からの深さも浅かった。

出土遺物 出土遺物はない。

年代 不明。

SE7003

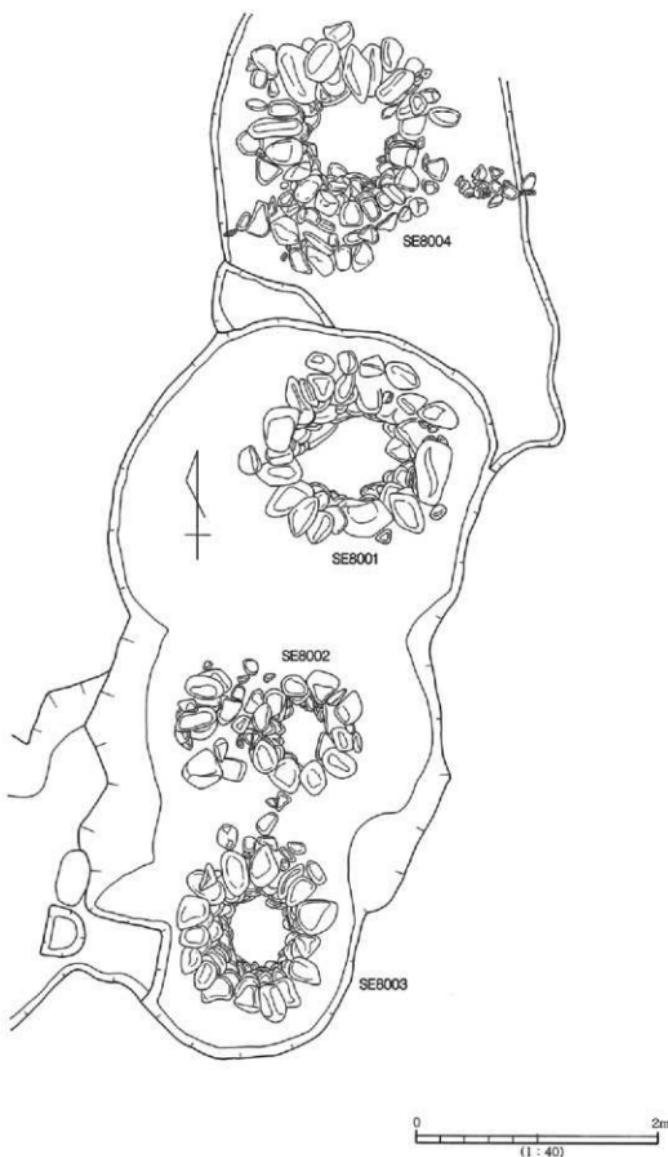
位置 6-22グリッド。

規模 挖方径 1.92 m、内径 0.61 m、検出面からの深さ 0.65 m、底面標高 126.60 m。

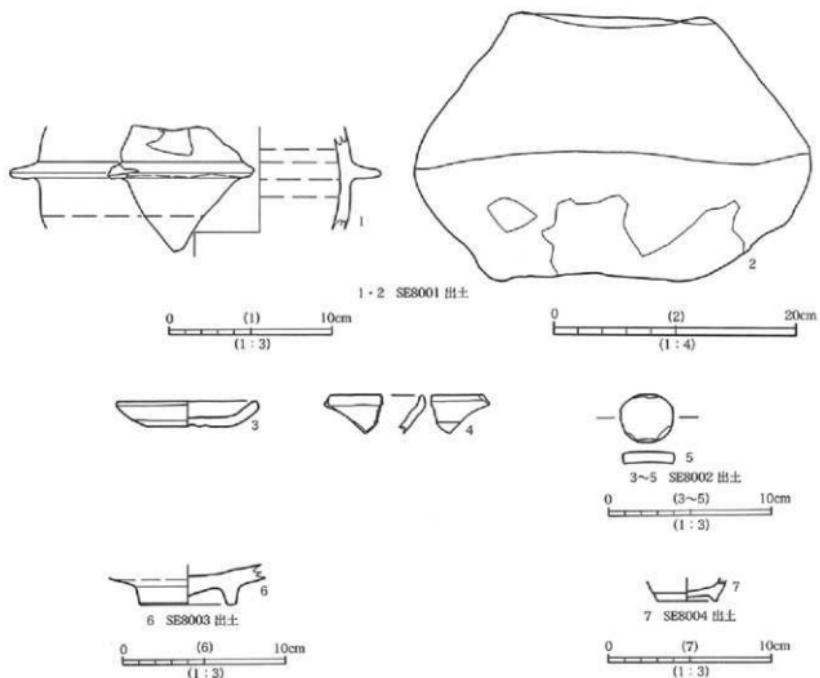
形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。南側は搅乱され石組が崩落している。北側の石組は検出面で確認された。

出土遺物 出土遺物はない。

年代 不明。



第310図 SE8001・SE8002・SE8003・SE8004 (1)



第311図 SE8001・SE8002・SE8003・SE8004 (2)

SE7004

位置 4-22 グリッド。

規模 堀方径 2.48 m、内径 1.13 m、検出面からの深さ 1.00 m、底面標高 125.56 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。掘り方のプランは北西側が石組の外で確認されているが、ほかは石組の外周が掘り方より大きくなっている。石組は検出面直下で確認された。

出土遺物 出土遺物はない。

年代 不明。

SE7005

位置 4-22 ~ 4-23 グリッド。

規模 堀方径不明、内径 0.85 m、検出面からの深さ 0.57 m、底面標高 125.66 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 30 cm 下で確認された。SD7007 を切る。

出土遺物 出土遺物はない。

年代 SD7007 との切り合い関係より、埋没年代は 17 世紀前半以降である。

SE8001・SE8002・SE8003・SE8004

位置 16-20 ~ 17-21 グリッド。

規模 SE8001 堀方径 2.80 m、内径 0.93 m、検出面からの深さ 1.75 m、底面標高 127.03 m。

SE8002 堀方径 2.91 m、内径 0.56 m、検出面からの深さ 1.14 m、底面標高 127.64 m。

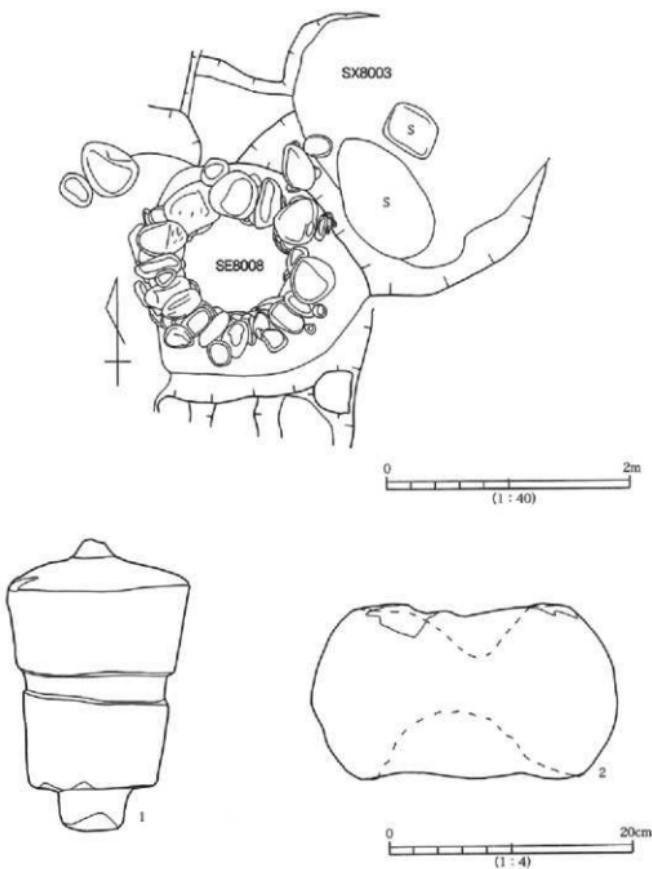
SE8003 堀方径 2.51 m、内径 0.76 m、検出面からの深さ 1.15 m、底面標高 127.65 m。

SE8004 堀方径 2.49 m、内径 0.82 m、検出面からの深さ 1.16 m、底面標高 127.66 m。

形態 石組の井戸である。4 基が切りあつていて、掘り方の形態は不明である。石組の平面形態はすべて円形を呈する。石組は SE8001 が検出面の約 20 cm 下で、SE8002 が検出面の約 30 cm 下で、SE8003 が検出面の約 10 cm 下で、SE8004 が検出面で確認された。SE8001 が SE8004・SE8002 を切る。SE8002 が SE8003 に切られる。

出土遺物 図化資料以外には、SE8001 は肥前系磁器のほかに近代まで年代が下る陶磁器が出土している。同様に SE8002 は中世と思われるかわらけなどの混入がある。同様に SE8003 は輸入磁器、SE8004 は産地不明の陶器などがある。

年代 SE8001 は最終的な埋没年代は近代まで下る。SE8003 は 1 より 17 世紀前半の可能性が高い。SE8004 は 7 より 17 世紀後半以降の埋没年代であろう。SE8002 は SE8001、SE8003 に切られるので 17 世紀初頭ころであろう。



第312図 SE8008

SE8008

位 置 17-19 グリッド。

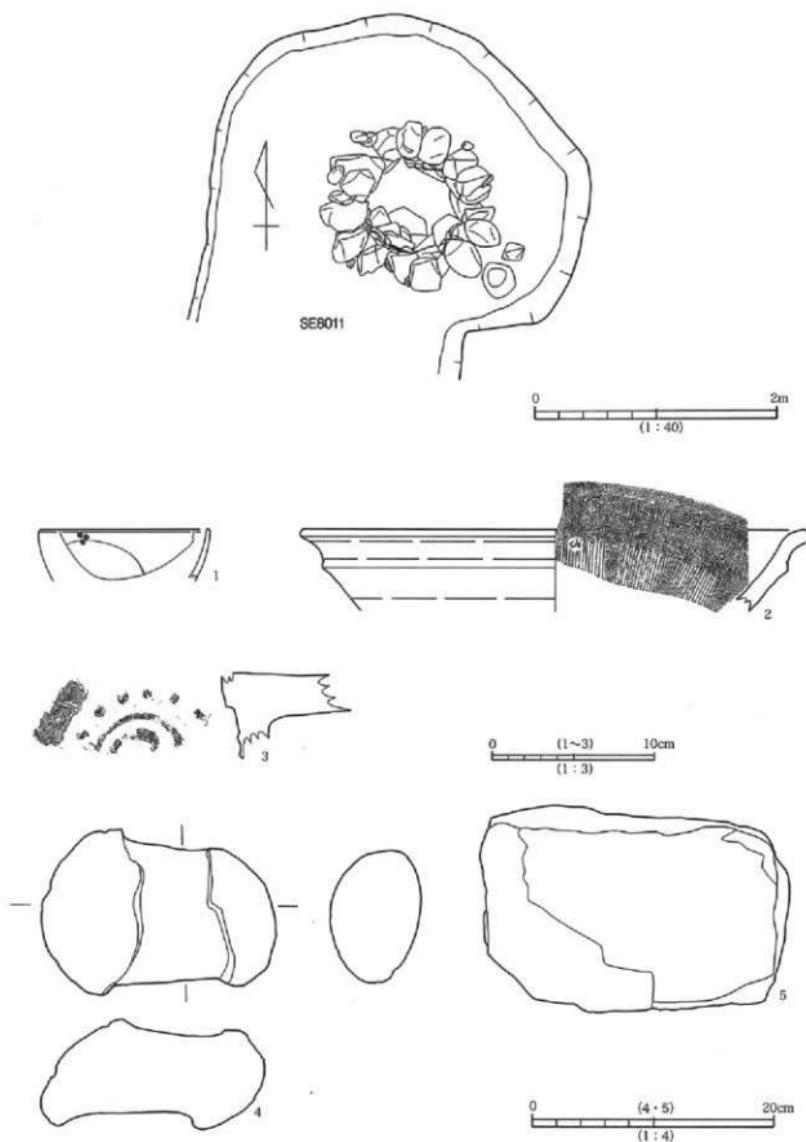
規 模 堀方径不明、内径 0.84 m、検出面からの深さ 1.43 m、底面標高 128.10 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 30 cm 下で確認された。SX8003 を切る。

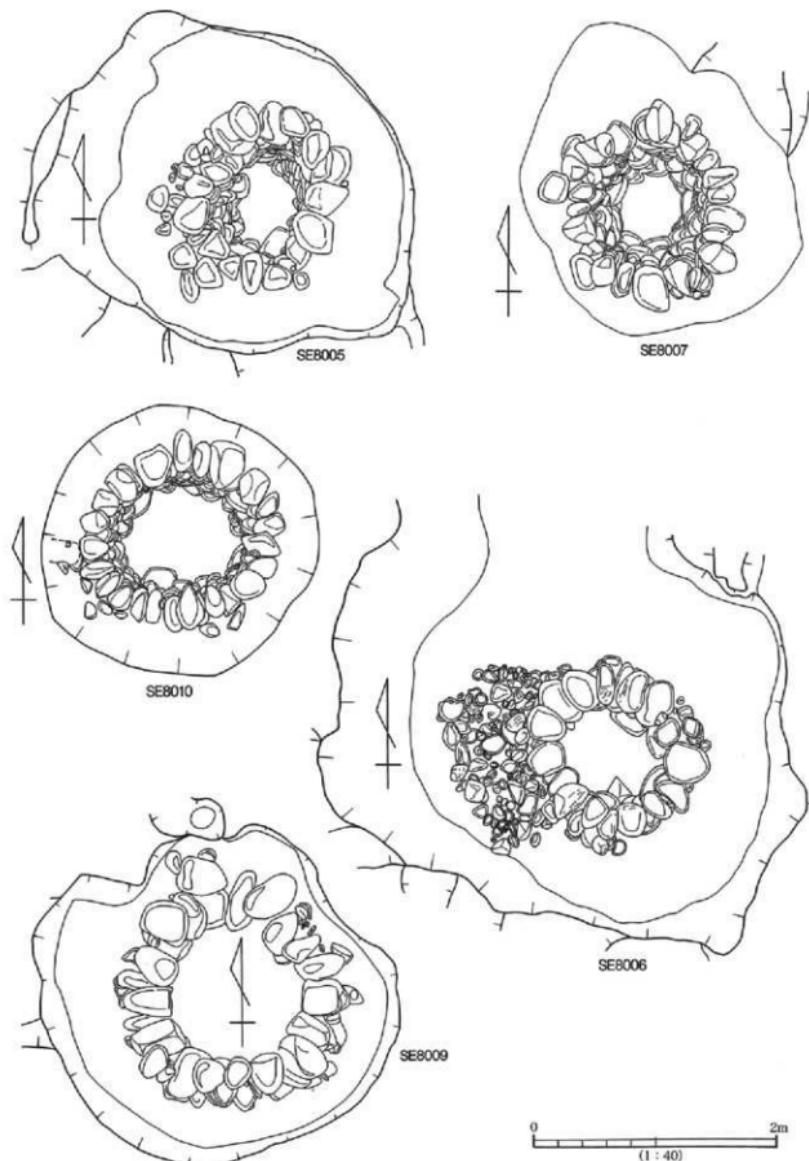
出土遺物 図化資料以外には、肥前系陶器が出土している。

年 代 出土している肥前系陶器より 17 世紀前半の可能性が高いが、出土遺物が少なく正確な年代は決定しがたい。

IV 検出された遺構と遺物



第313図 SE8011



第314図 SE8005・SE8006・SE8007・SE8009・SE8010

IV 検出された遺構と遺物

S E 8 0 1 1

位 置 15 - 12 グリッド。

規 模 堀方径 3.14 m、内径 0.82 m、検出面からの深さ 1.74 m、底面標高 126.97 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は掘り方が楕円形を、石組が円形を呈する。石組は検出面の約 10 cm 下で確認された。

出土遺物 図化資料以外には、肥前系陶磁器、黒瓦などが出土している。

年 代 出土遺物の年代幅があるが、Iより最終的な埋没年代は 18 世紀中ば以降であろう。

S E 8 0 0 5

位 置 17 - 19 ~ 18 - 19 グリッド。

規 模 堀方径 3.29 m、内径 0.90 m、検出面からの深さ 1.52 m、底面標高 127.69 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 20 cm 下で確認された。

出土遺物 図化していないが、肥前系磁器などがある。

年 代 肥前系磁器が出土しているので II 期以降であろうが、出土遺物が少なく正確な年代は不明である。

S E 8 0 0 6

位 置 17 - 19 グリッド。

規 模 堀方径 3.83 m、内径 0.81 m、検出面からの深さ 1.56 m、底面標高 127.74 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は掘り方がややくずれた隅丸方形を、石組は円形を呈する。石組の西側に裏込め石が幅約 1 m にわたって積まれている。石組は検出面の 1.1 m 下で確認された。

出土遺物 図化していないが、肥前系磁器などがある。

年 代 出土している肥前系磁器より III 期以降であろう。

S E 8 0 0 7

位 置 17 - 19 グリッド。

規 模 堀方径 2.65 m、内径 1.00 m、検出面からの深さ 0.63 m、底面標高 127.87 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は掘り方がややくずれた楕円形を、石組は円形を呈する。石組は検出面の約 30 cm 下で確認された。

出土遺物 出土遺物はない。

年 代 不明。

S E 8 0 0 9

位 置 16 - 19 グリッド。

規 模 堀方径 3.00 m、内径 1.10 m、検出面からの深さ 2.14 m、底面標高 126.86 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面直下で確認された。

出土遺物 近現代と思われるアルミ製の弁当箱のみが出土した。

年 代 埋没年代は近代以降である。

S E 8 0 1 0

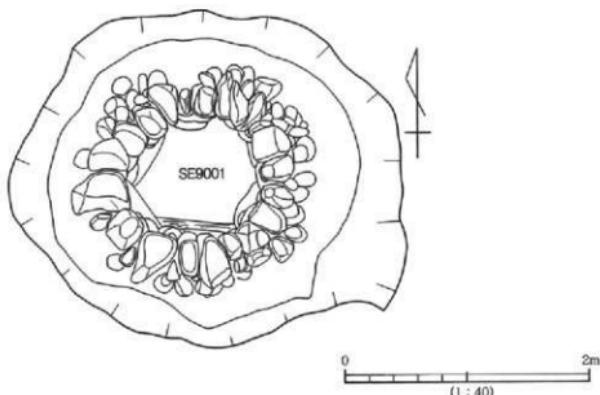
位 置 15 - 18 ~ 16 - 19 グリッド。

規 模 堀方径 2.32 m、内径 0.93 m、検出面からの深さ 1.47 m、底面標高 127.18 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面直下で確認された。

出土遺物 出土遺物はない。

年 代 不明。



第315図 SE9001

S E 9 0 0 1

位 置 17 - 10 グリッド。

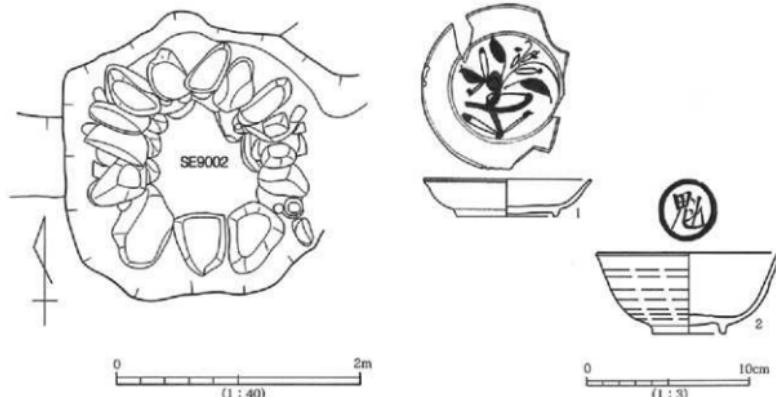
規 模 堀方径 3.13 m、内径 0.95 m、検出面からの深さ 1.38 m、底面標高 127.13 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 10 cm 下で確認された。

出土遺物 出土遺物はない。

年 代 不明。

IV 検出された遺構と遺物



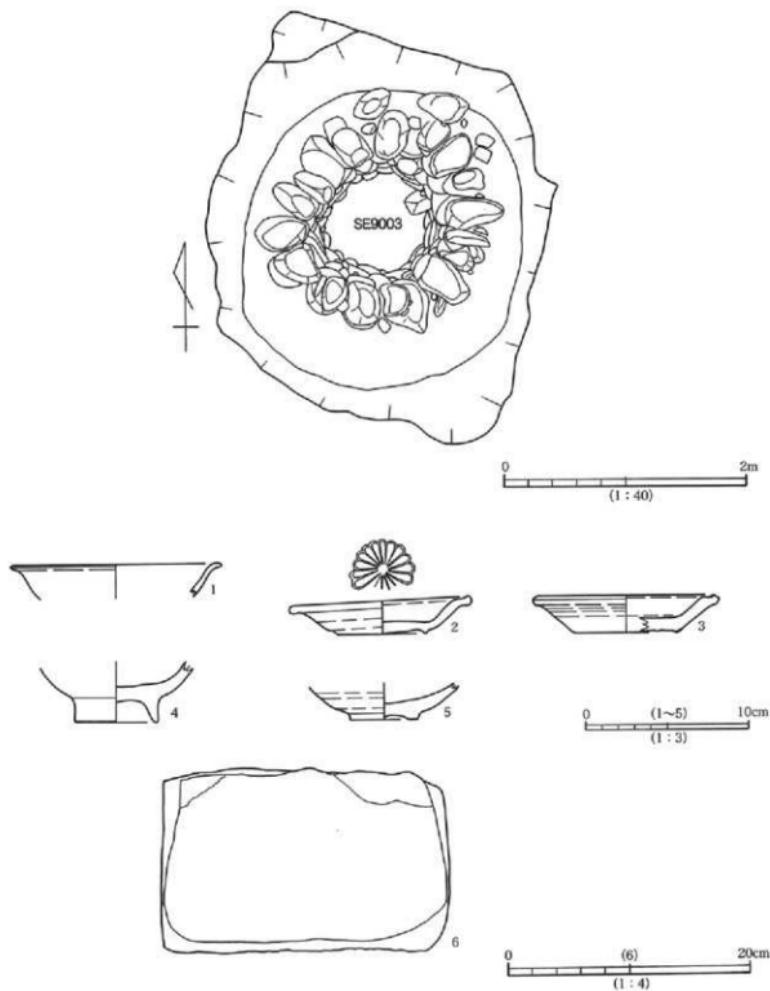
第316図 SE9002

SE9002

位 置 17-9グリッド。
規 模 堀方径 2.58 m、内径 0.94 m、検出面からの深さ 1.34 m、底面標高 126.92 m。
形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面で確認された。
出土遺物 図化資料以外には、輸入磁器、肥前系陶器、黒瓦などが出土している。
年 代 肥前系磁器が出土していることからⅡ期以降であろう。

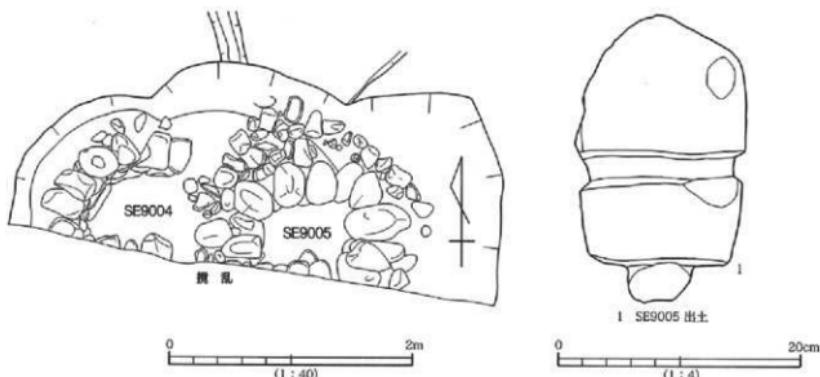
SE9003

位 置 18-13グリッド。
規 模 堀方径 3.79 m、内径 1.01 m、検出面からの深さ 2.75 m、底面標高 127.51 m。
形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 1.0 m 下で確認された。
出土遺物 図化資料以外には、輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶器の砂目皿、肥前系磁器の二重網目文碗、近代と思われる産地不明の磁器、黒瓦などがある。
年 代 出土遺物の年代幅が広いが、最終的な埋没年代は近代であろう。



第317図 SE9003

IV 検出された遺構と遺物



第318図 SE9004・SE9005

SE9004・SE9005

位 置 18-13 グリッド。

規 模 SE9004 堀方径不明、内径 0.87 m、検出面からの深さ 1.29 m、底面標高 128.11 m。

SE9005 堀方径不明、内径 0.70 m、検出面からの深さ 1.82 m、底面標高 127.97 m。

形 態 石組の井戸である。南側が搅乱によって切られるので全体は不明だが、平面形態は円形を呈する。

石組は SE9004 が検出面の約 20 cm 下で、SE9005 が検出面の約 90 cm 下で確認された。SE9005 が SE9004 を切る。

出土遺物 SE9004 は団化していないが、肥前系陶磁器が出土している。また、イヌの骨がまとまって出土しており、これらの一部が SD1010 出土のものと接合する。SE9005 は団化資料以外に肥前系陶器、黒瓦が出土している。

年 代 SE9004 は肥前系磁器が出土していることから II 期以降であろうが、出土遺物が少なく正確な年代は決定しがたい。SE9005 は切り合い関係より SE9004 より新しいが、正確な年代は不明である。

SE9006・SE9007

位 置 16-10 ~ 17-11 グリッド。

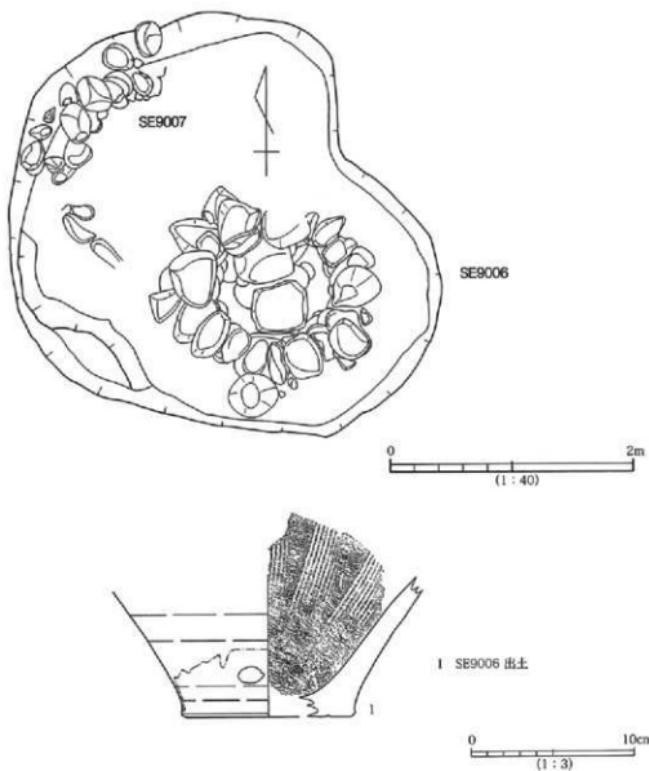
規 模 SE9006 堀方径 2.50 m、内径 0.96 m、検出面からの深さ 1.57 m、底面標高 127.22 m。

SE9007 堀方径、内径不明、検出面からの深さ 1.65 m、底面標高 127.46 m。

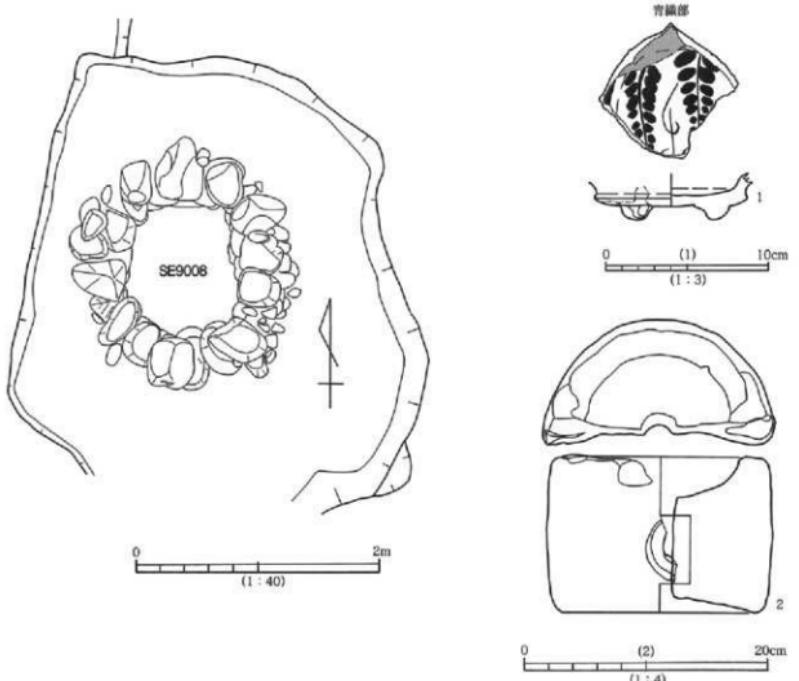
形 態 石組の井戸である。SE9006 は平面形態が円形を呈する。SE9007 は SE9006 に切られており平面形態は不明である。石組は SE9006 が検出面の約 10 cm 下で、SE9007 は検出面の約 30 cm 下で確認された。

出土遺物 SE9006 は団化資料以外に、肥前系磁器の口銚を施した碗や黒瓦などが出土している。SE9007 は出土遺物がない。

年 代 SE9006 は口銚を施した製品が出土しているので 17 世紀半ば以降であろう。SE9007 は切り合い関係より SE9006 より古いが、出土遺物がなく正確な年代は不明である。



第319図 SE9006・SE9007



第320図 SE9008

SE9008

位置 18 - 16 グリッド。

規模 堀方径 3.90 m、内径 1.10 m、検出面からの深さ 2.06 m、底面標高 127.45 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は掘り方がくずれた方形を、石組が円形を呈する。石組は検出面の約 10 cm 下で確認された。

出土遺物 固化資料以外には、瀬戸美濃系陶器、黒瓦などが出土している。

年代 1 から 17 世紀前半の可能性が高いが、出土遺物が少ないので正確な年代は決定しがたい。

SE10002

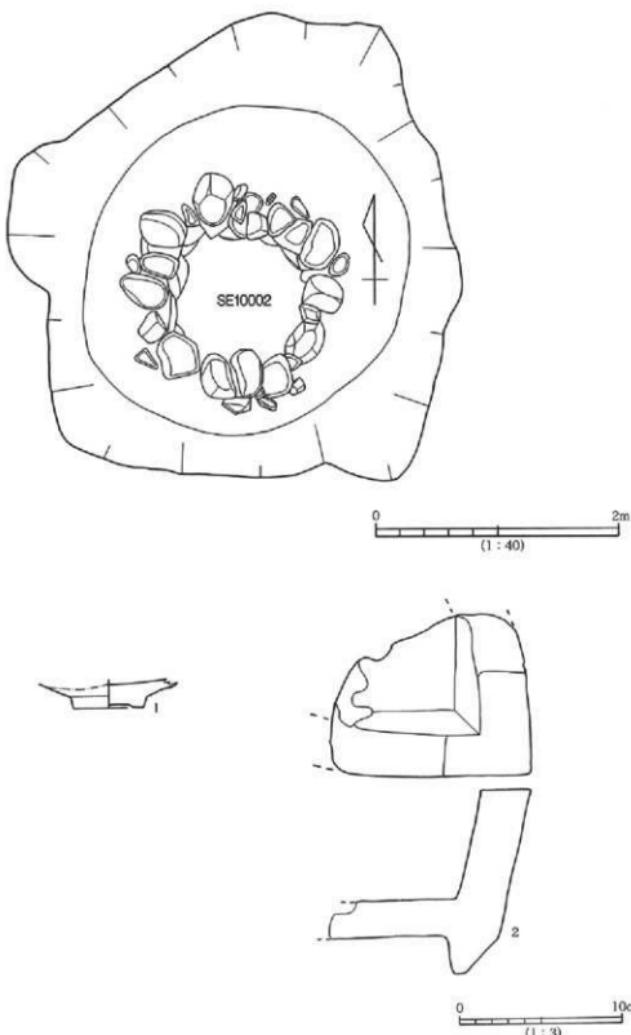
位置 17 - 16 ~ 17 - 17 グリッド。

規模 堀方径 4.25 m、内径 1.15 m、検出面からの深さ 2.51 m、底面標高 128.65 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 90 cm 下で確認された。

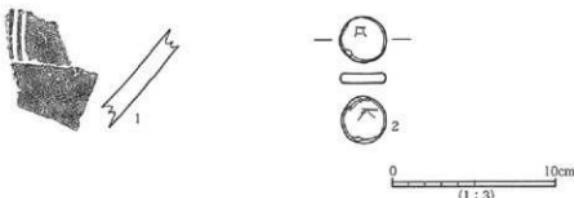
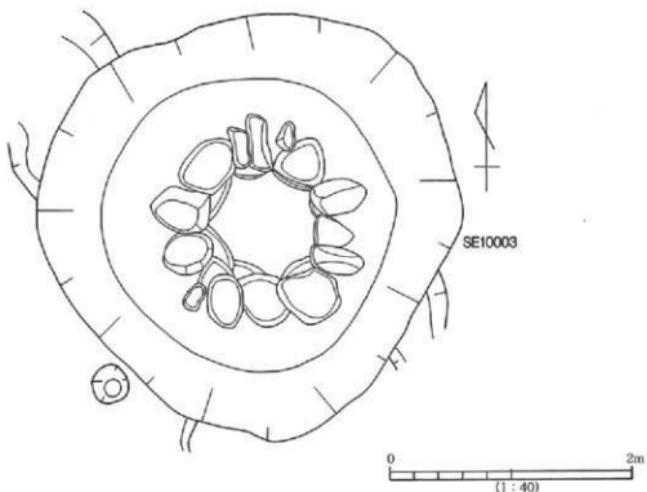
出土遺物 固化資料以外には、磁石などが出土している。

年代 不明。



第321図 SE10002

IV 検出された遺構と遺物



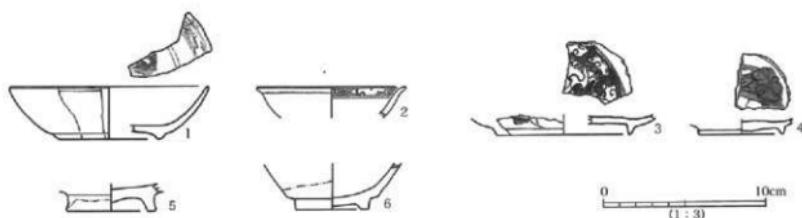
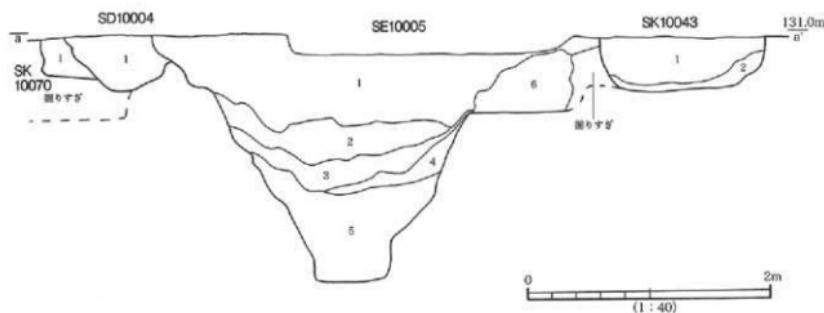
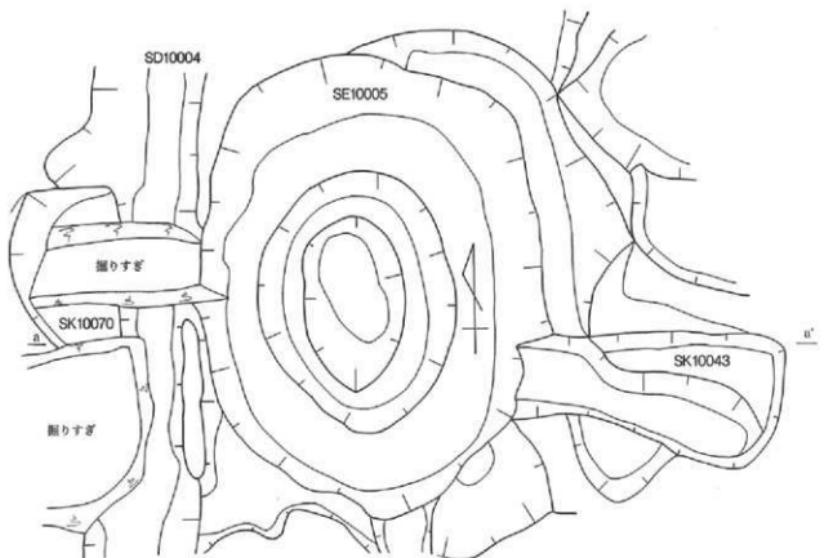
第322図 SE10003

SE10003

- 位 置 17-17 グリッド。
 規 模 挖方径 3.45 m、内径 0.90 m、検出面からの深さ 1.72 m、底面標高 129.46 m。
 形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 80 cm 下で確認された。
 出土遺物 図化資料以外には、龍泉窯系青磁や株洲系陶器などの中世の遺物が出土している。
 年 代 出土している遺物は 13 ~ 16 世紀の年代が与えられるので、中世の井戸である可能性が高い。石組を有する所以参考までに掲載した。

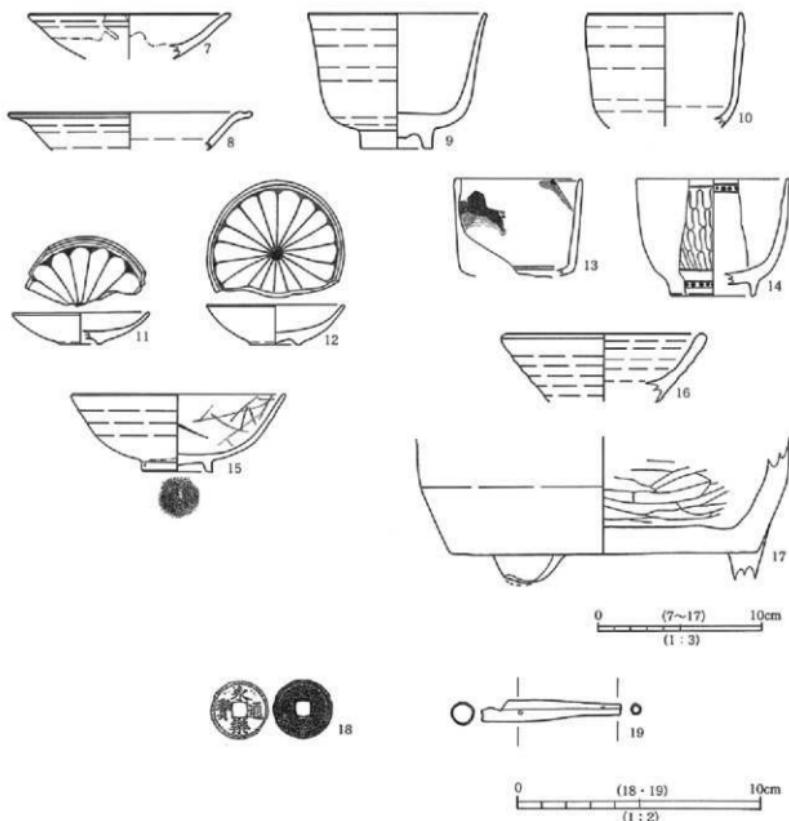
SE10005

- 位 置 17-17 グリッド。
 規 模 長軸 3.80 m、短軸 2.83 m、検出面からの深さ 2.16 m、底面標高 128.48 m。
 形 態 素掘りの井戸である。平面形態は梢円形を呈する。底部は平坦で壁面は急に立ち上がる。土層は地山由来のブロックを含むことから、一括埋土と思われる。上層から遺物が多く出土した。SK10043 に切ら



第323図 SE10005 (1)

IV 検出された造構と遺物

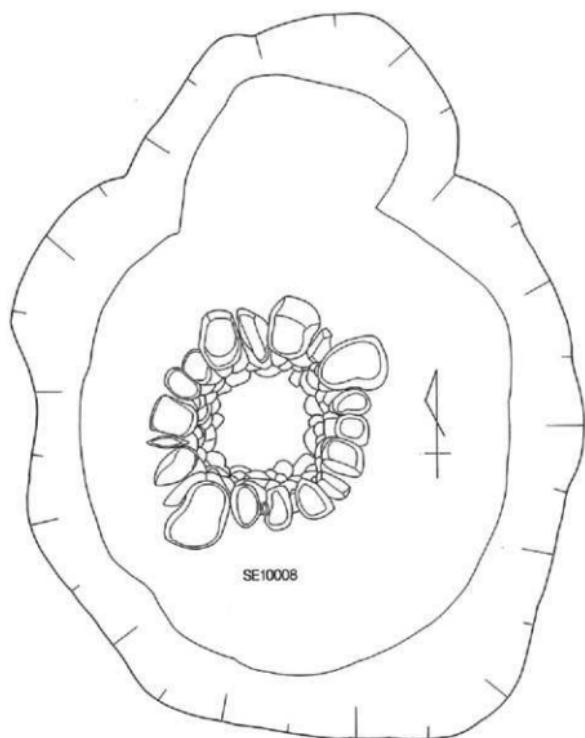


第324図 SE10005 (2)

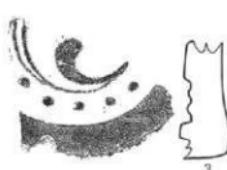
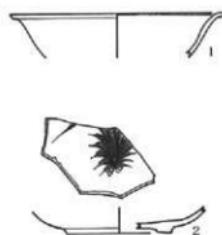
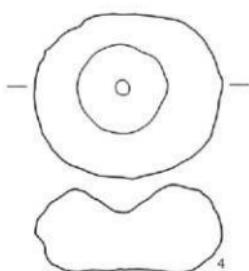
れる。

出土遺物 図化資料以外には、輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、信楽、ロクロかわらけ、黒瓦などが出土している。

年代 肥前系磁器は初期伊万里と高台断面三角形の製品で構成されるので、III期であろう。ただし、肥前駿磁器は初期伊万里に比べて高台断面三角形の製品の割合は少なく、また輸入磁器の割合が多いので、III期でも早い段階であろう。



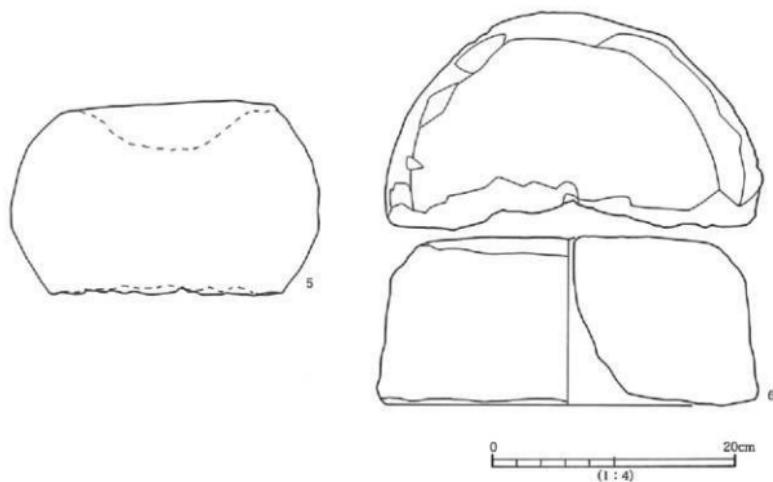
0
2m
(1 : 40)



0
10cm
(1 : 3)

第325図 SE10008 (1)

IV 検出された遺構と遺物



第326図 SE10008 (2)

SE10008

位置 17-15 グリッド。

規模 掘方径 5.89 m、内径 1.18 m、検出面からの深さ 1.99 m、底面標高 129.17 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形であるが、掘り方の北側が一部張り出している。石組は検出面の約 70 cm 下で確認された。

出土遺物 固化資料以外には、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、ロクロかわらけ、黒瓦、土師質の焰焰などが出土地で確認されている。なお、固化していない肥前系磁器に初期色絵がある。

年代 肥前系磁器はすべて破片資料であったため固化しなかったが、初期伊万里と高台断面三角形の製品で構成されるので、Ⅲ期であろう。

SE10009

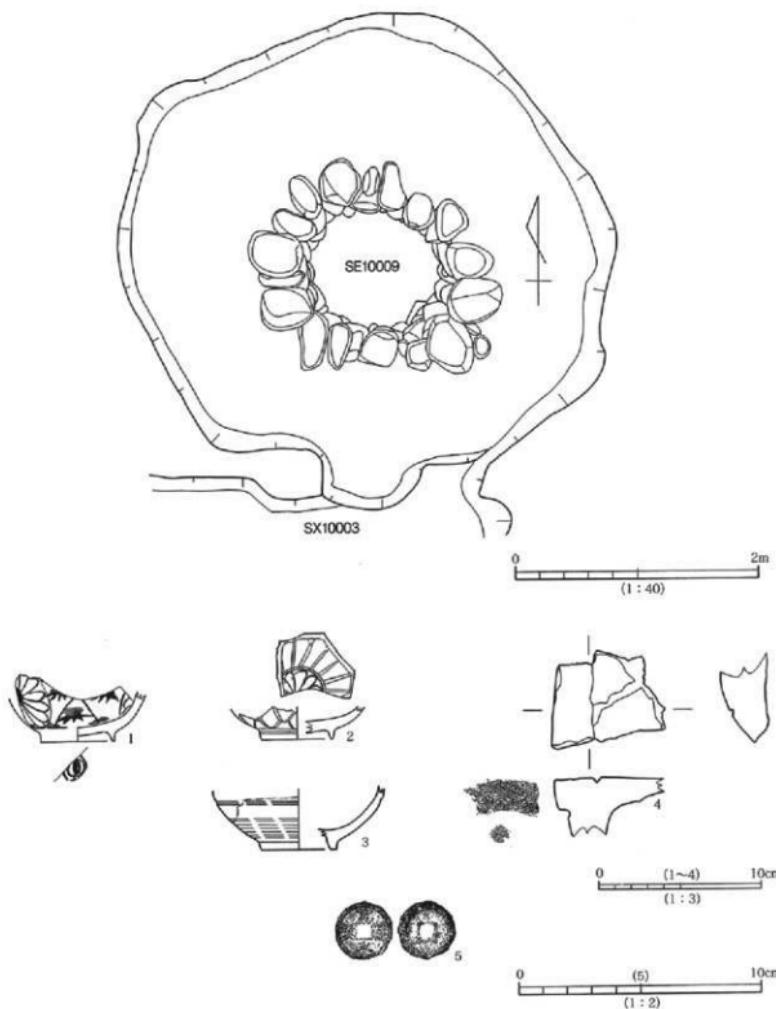
位置 16-17 グリッド。

規模 掘方径 4.31 m、内径 1.17 m、検出面からの深さ 1.41 m、底面標高 128.74 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形である。石組は検出面で確認された。性格や年代が不明な遺構である SX10003 を切る。

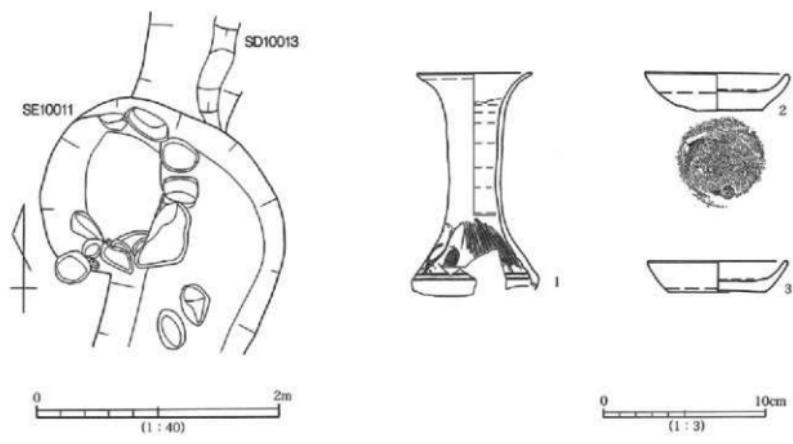
出土遺物 固化資料以外には、輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、ロクロかわらけ、黒瓦などが出土地で確認されている。

年代 肥前系磁器は 1 や 2 のような薄手の半球形の碗や、固化していないがくらわんかが出土しているので V 期であろう。



第327図 SE10009

IV 検出された遺構と遺物



第328図 SE10011

SE10011

位置 15-15 ~ 16-15 グリッド。

規模 堀方径 1.44 m、内径 0.90 m、検出面からの深さ 0.48 m、底面標高 130.22 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は西側が崩落して残存していない。石組は検出面で確認された。SD10013 を切る。

出土遺物 固化資料以外に、出土遺物はない。

年代 SD10013 との切り合い関係より、V期以降である。

SE10012

位置 16-17 グリッド。

規模 堀方径 5.21 m、内径 1.07 m、検出面からの深さ 2.55 m、底面標高 128.41 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。掘り方にに対して石組が北にずれている。作りかえた可能性もあるが、確認はできなかった。石組は検出面の約 60 cm 下で確認された。

出土遺物 固化資料以外には、輸入磁器、瀬戸美濃系陶器などが出土している。なお、4や5などの中世の陶器が若干混入している。

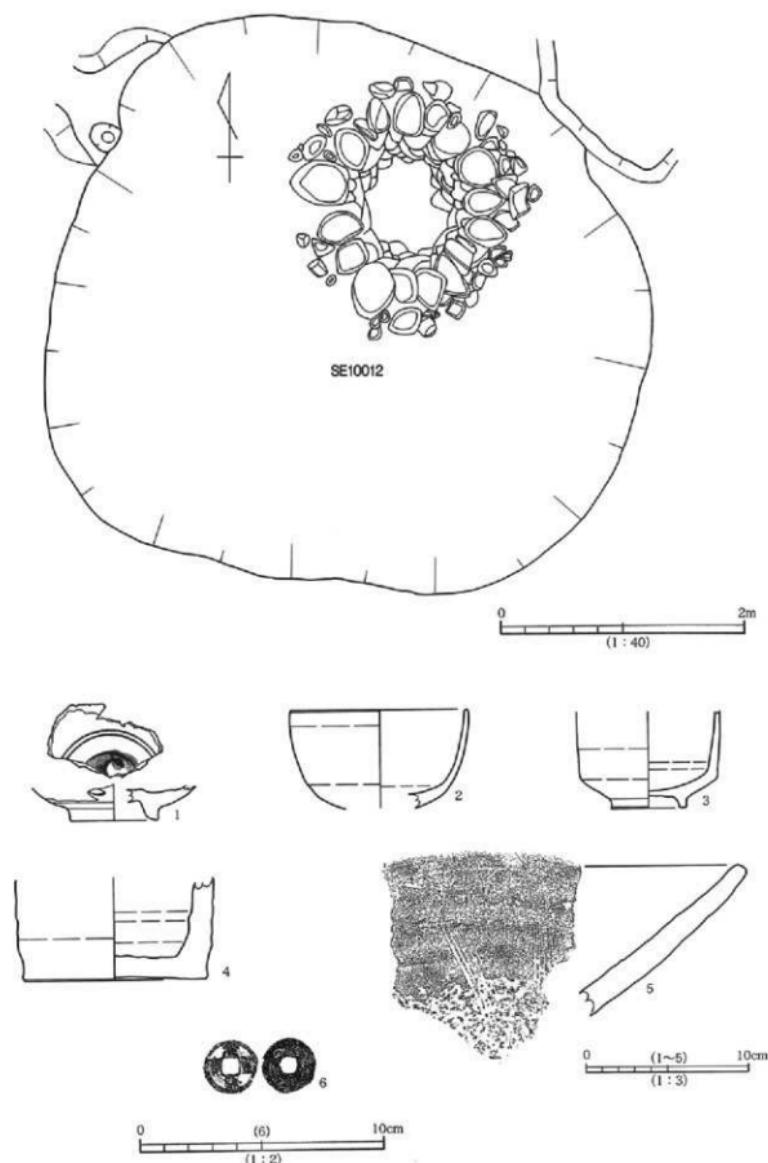
年代 肥前系磁器の出土はないが、产地不明とした 3 は大堀相馬の可能性があり、年代は 18 世紀以降の可能性が高い。

SE10013

位置 15-14 ~ 15-15 グリッド。

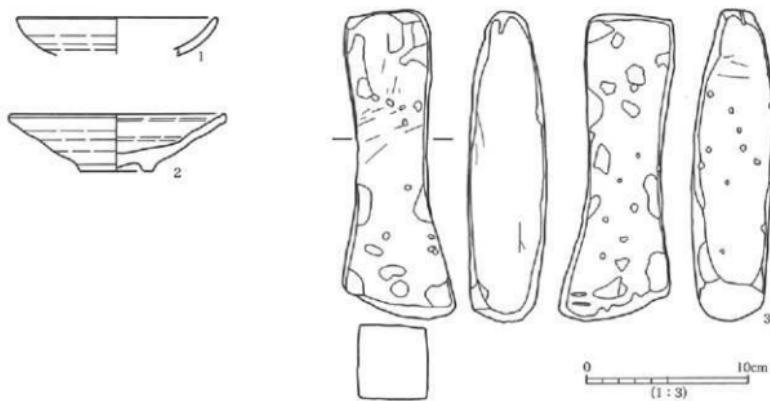
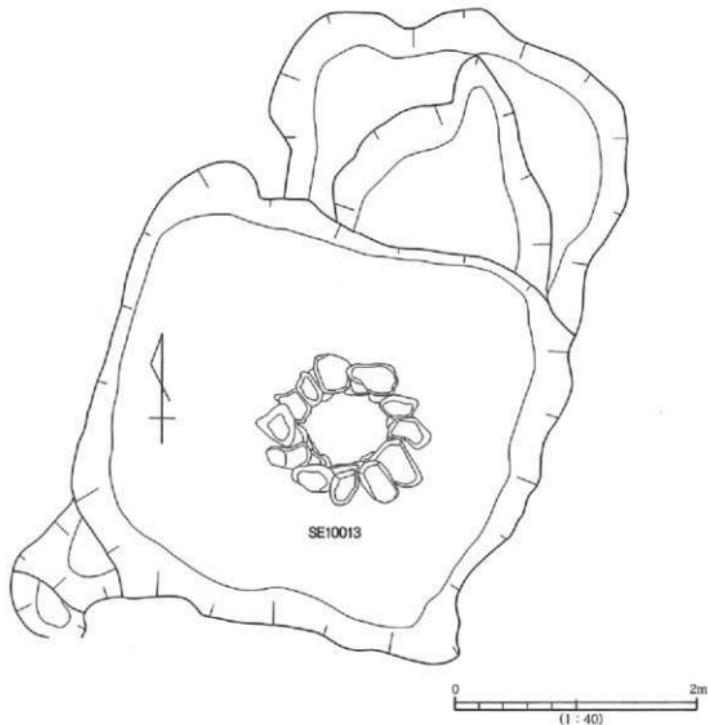
規模 堀方径 4.52 m、内径 0.67 m、検出面からの深さ 2.03 m、底面標高 128.30 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は掘り方が方形を、石組が円形を呈する。石組は検出面直下で検出された。



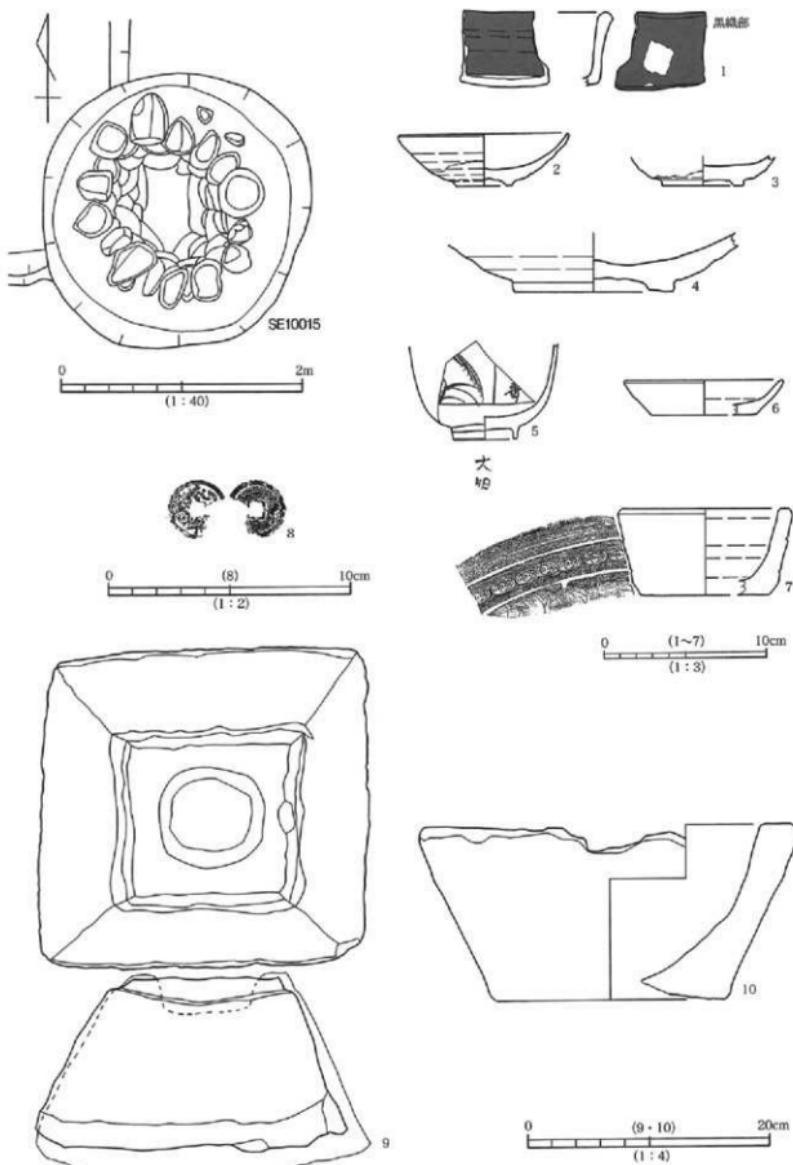
第329図 SE10012

IV 検出された遺構と遺物



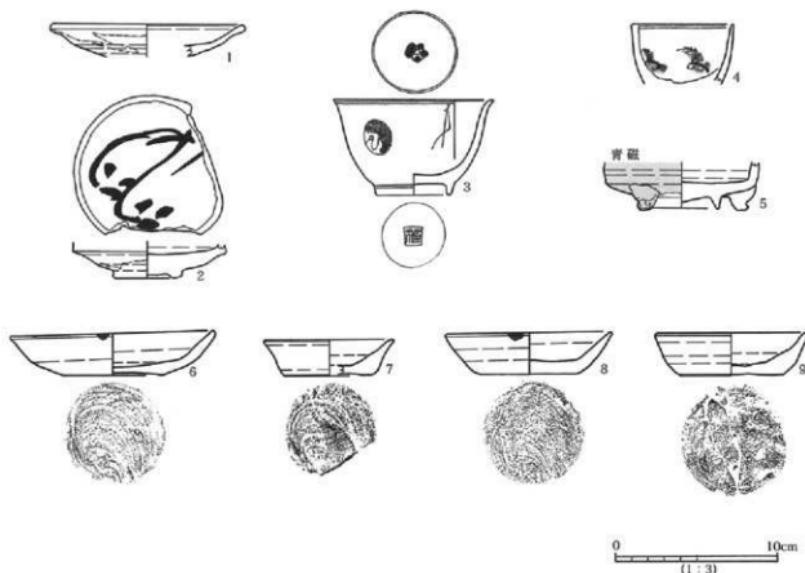
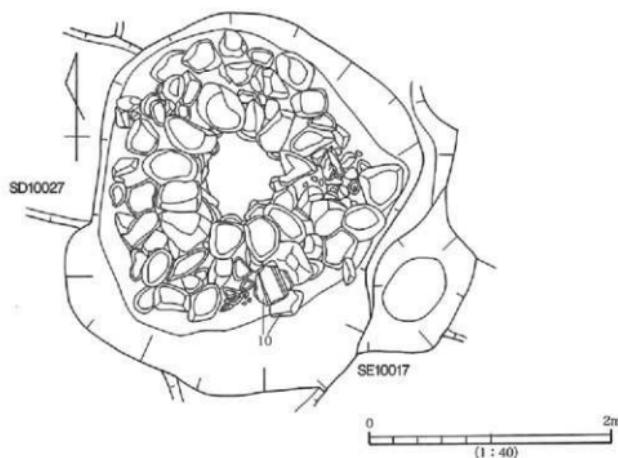
第330図 SE10013

IV 検出された遺構と遺物

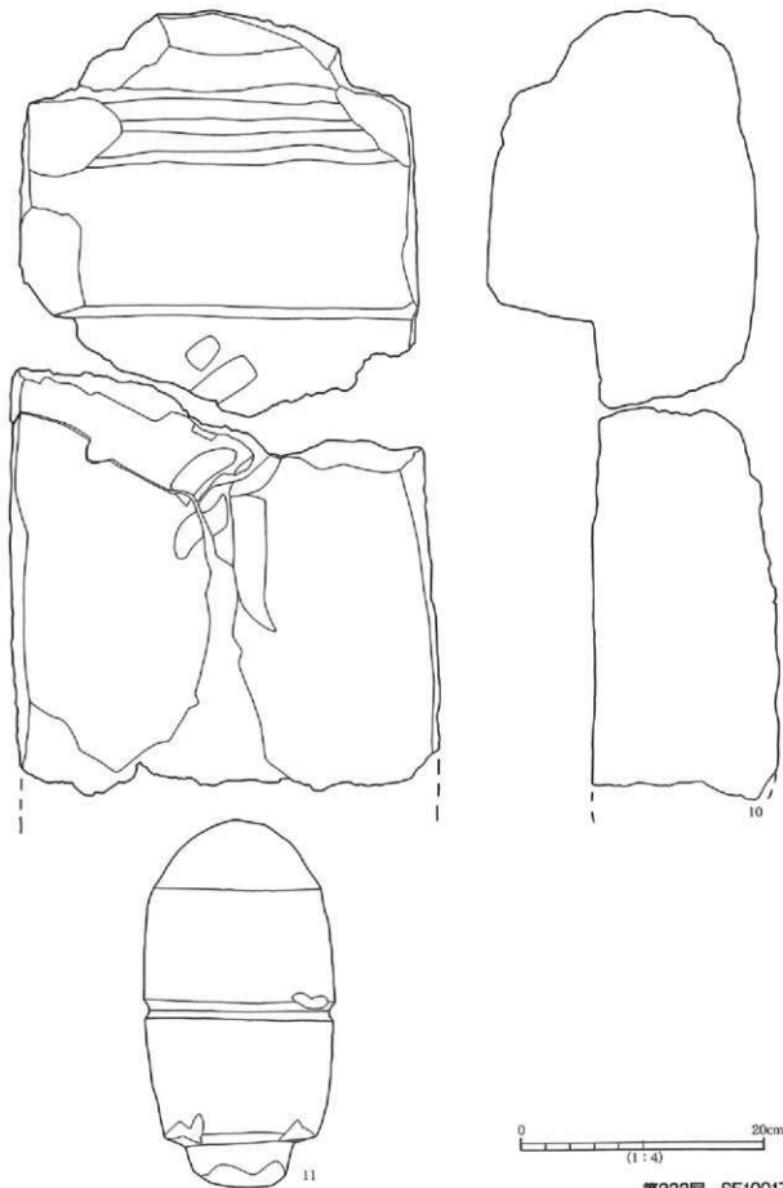


第331図 SE10015

IV 検出された遺構と遺物



第332図 SE10017 (1)



第333図 SE10017 (2)

IV 検出された遺構と遺物

出土遺物 図化資料以外には、肥前系陶器、黒瓦などが出土している。

年代 1や2より17世紀前半であろうが、出土遺物が少なく正確な年代は決定しがたい。

SE10015

位置 12-15グリッド。

規模 堀方径2.24m、内径1.03m、検出面からの深さ1.60m、底面標高128.29m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約30cm下で確認された。

出土遺物 図化資料以外には、輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、ロクロかわらけ、黒瓦などが出士している。

年代 出土遺物の年代幅は広いが、5より最終的な埋没年代は17世紀半ばであろう。

SE10017

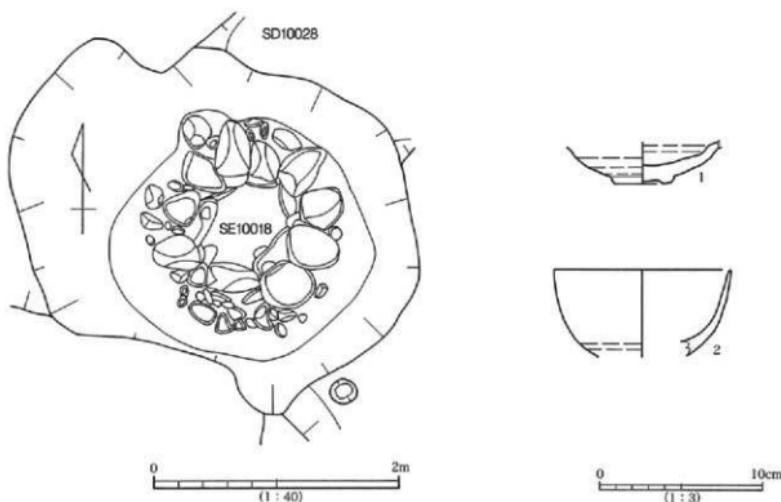
位置 13-17~14-17グリッド。

規模 堀方径3.13m、内径0.71m、検出面からの深さ1.29m、底面標高129.09m。

形態 石組の井戸である。平面形態は掘り方がややくずれた方形を、石組が円形を呈する。石組は検出面の約20cm下で確認された。石組に板磚の残欠が転用されている。SD10027を切る。

出土遺物 図化資料以外には、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、備前、ロクロかわらけ、黒瓦などが出士している。

年代 出土している肥前系磁器より17世紀中ばであろう。



第334図 SE10018

SE10018

位置 13-17グリッド。

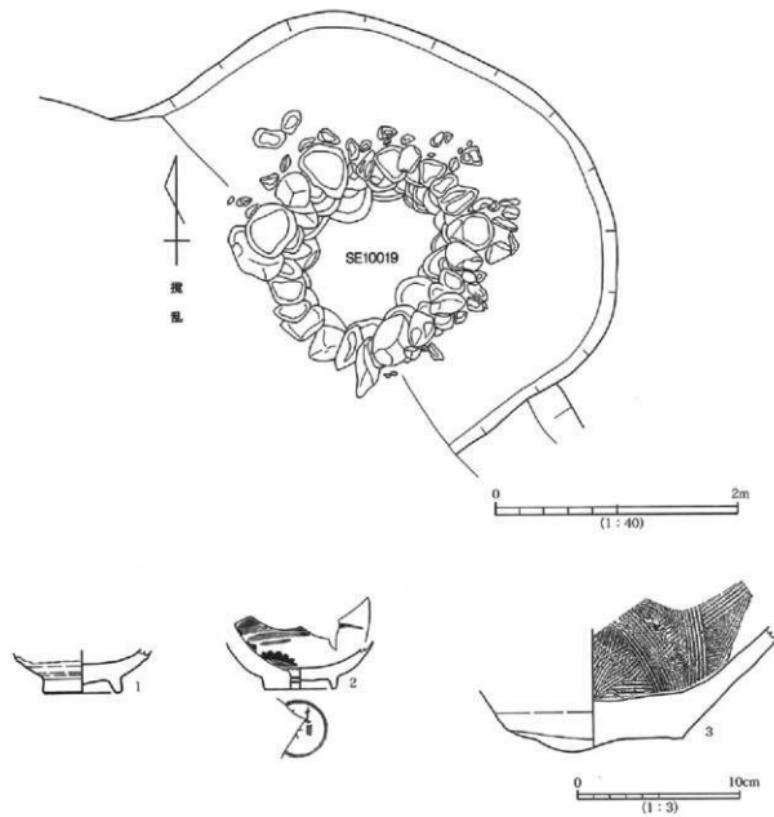
IV 検出された遺構と遺物

規 模 堀方径 3.53 m、内径 0.74 m、検出面からの深さ 1.66 m、底面標高 128.576 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は掘り方がくずれた楕円形を、石組が円形を呈する。石組は検出面の約 60 cm 下で確認された。SD10028 を切る。

出土遺物 図化資料以外には、輸入磁器、瀬戸美濃系陶器などが出土している。

年代 出土している肥前系陶器より 17 世紀前半の可能性が高い。



第335図 SE10019

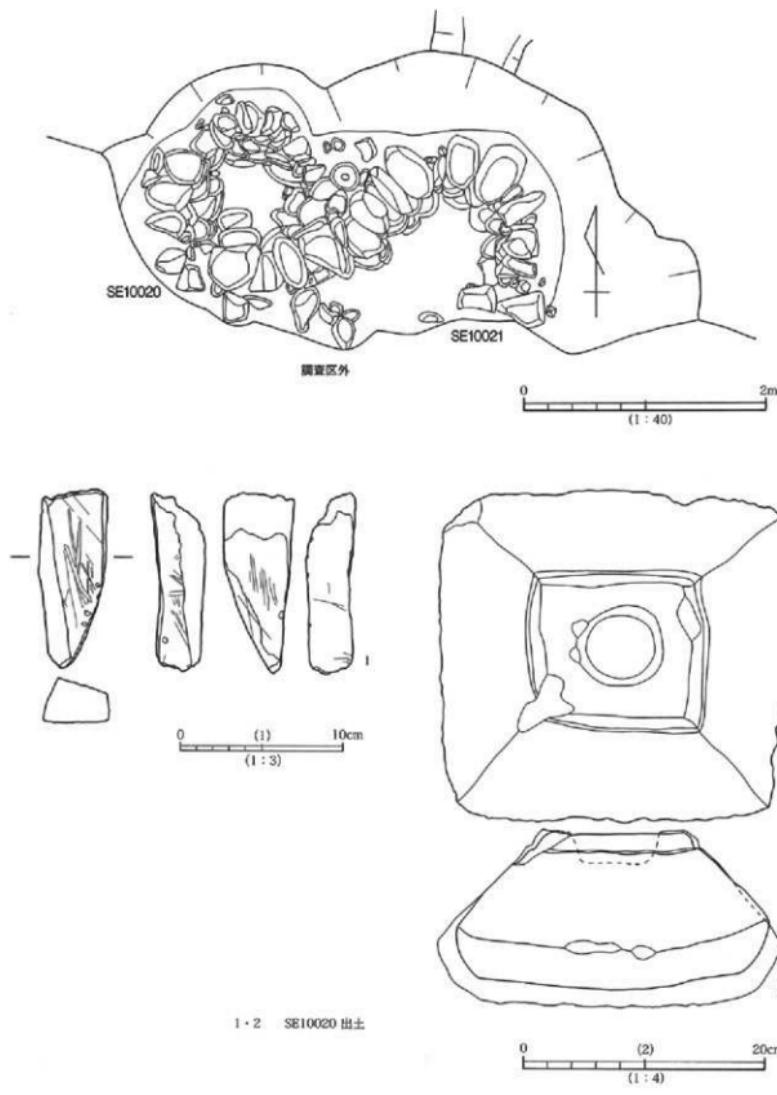
SE10019

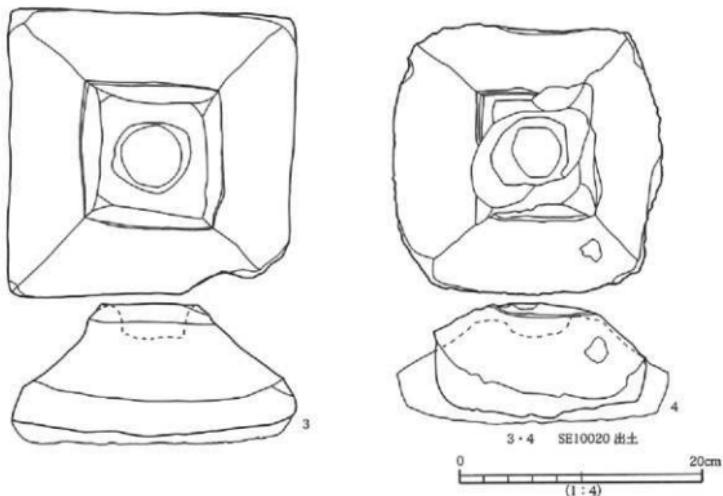
位 置 14 - 15 グリッド。

規 模 堀方径 3.75 m、内径 1.32 m、検出面からの深さ 2.11 m、底面標高 128.23 m。

形 態 石組の井戸である。南西側が攪乱に切られ全体は不明だが、石組の平面形態は円形を呈する。石

IV 検出された遺構と遺物





第337図 SE10020・SE10021 (2)

組は検出面約10cm下で確認された。

出土遺物 図化資料以外には、肥前系陶磁器、備前、ロクロかわらけ、黒瓦などが出土している。

年代 2より18世紀前半以降であろう。

SE10020・SE10021

位置 12-17グリッド。

規模 SE10020 挖方径不明、内径0.88m、検出面からの深さ1.46m、底面標高128.28m。

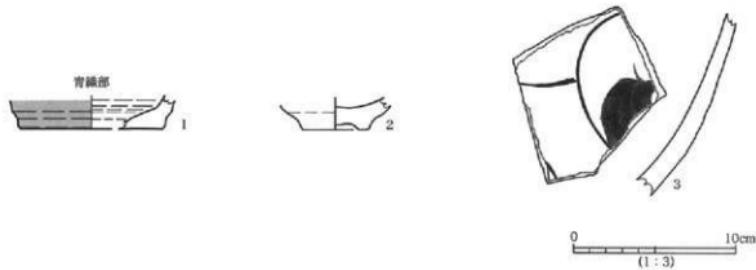
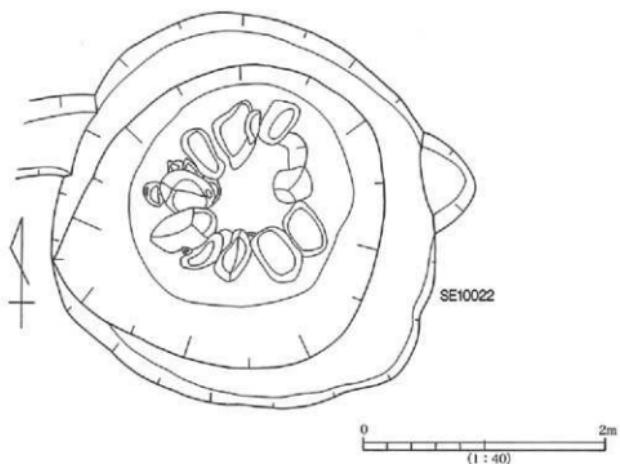
SE10021 挖方径不明、内径0.94m、検出面からの深さ1.67m、底面標高128.07m。

形態 石組の井戸である。平面形態は南側が調査区外で全体は不明なので掘り方は不明だが、石組は円形である。石組はSE10020が検出面の約10cm下で、SE10021が検出面の約30cm下で確認された。SE10021がSE10020を切る。

出土遺物 SE10020は図化資料以外には、輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶器などが出土している。SE10021は出土遺物がない。

年代 SE10020は肥前系磁器が出土していないので17世紀前半の可能性が高いが、出土遺物が少ないので正確な年代は決定しがたい。SE10021は切り合い関係からSE10020より新しいが正確な年代は不明である。

IV 検出された遺構と遺物



第338図 SE10022

SE10022

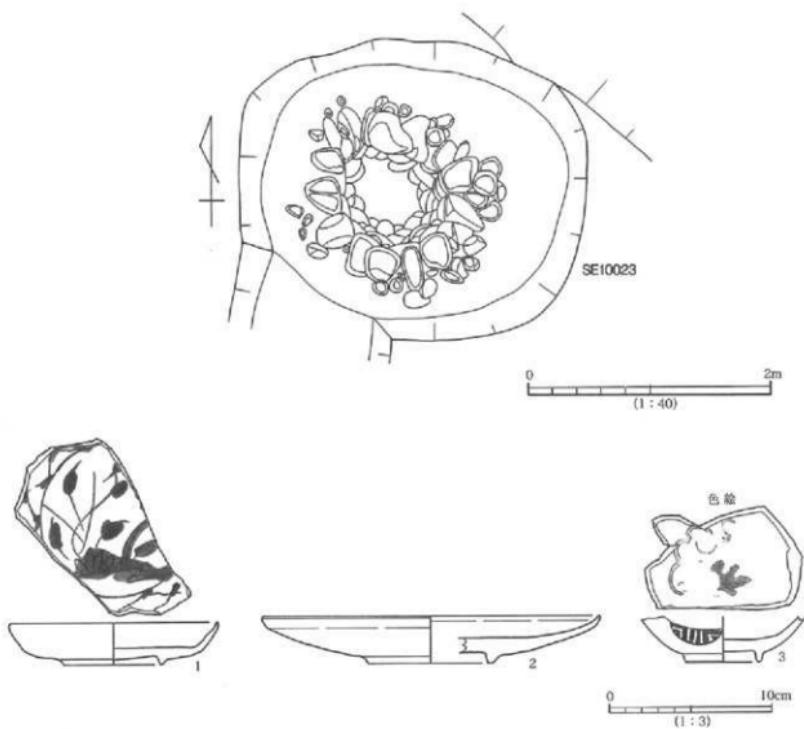
位 置 14-16 グリッド。

規 模 捨方径 3.22 m、内径 0.56 m、検出面からの深さ 1.82 m、底面標高 128.50 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は1段から2段しか残存しておらず、検出面の約1.2 m下と他の石組の井戸と比べて深い位置で確認された。

出土遺物 固化資料以外には、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶器などが出土している。

年 代 1~3 より 17世紀前半であろう。



第339図 SE10023

SE10023

位置 13 - 15 グリッド。

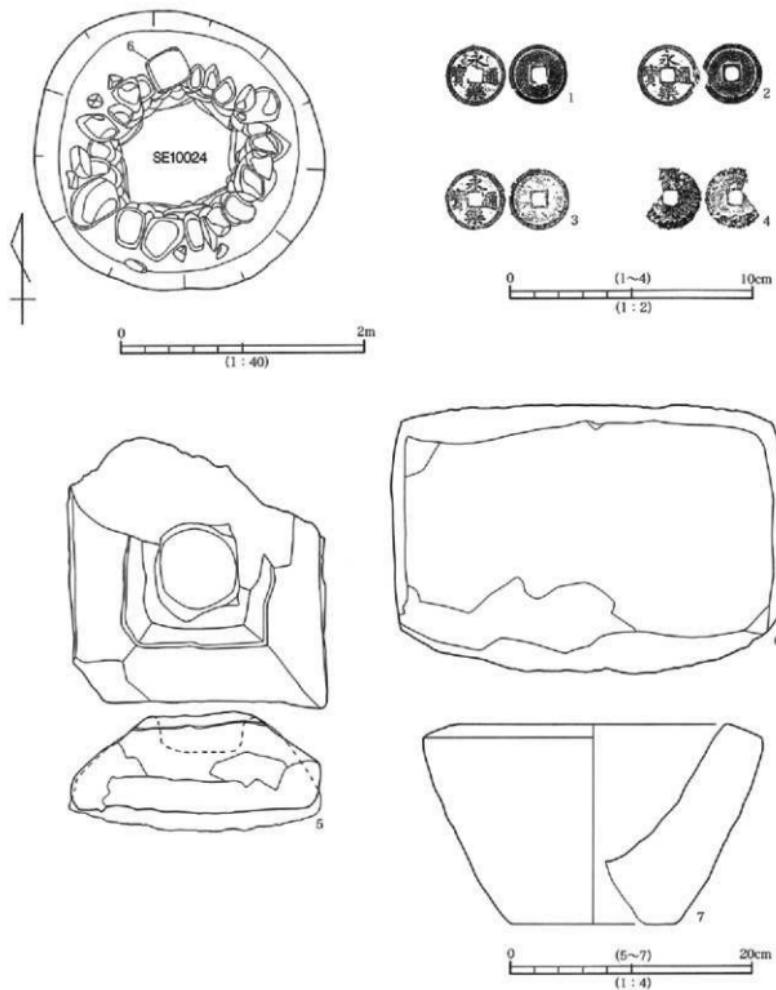
規模 挖方径 2.99 m、内径 0.88 m、検出面からの深さ 1.85 m、底面標高 128.29 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は掘り方が楕円形で石組は円形を呈する。石組は検出面で確認された。

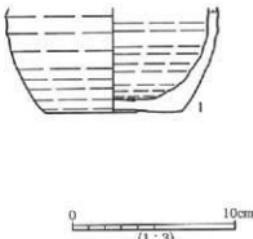
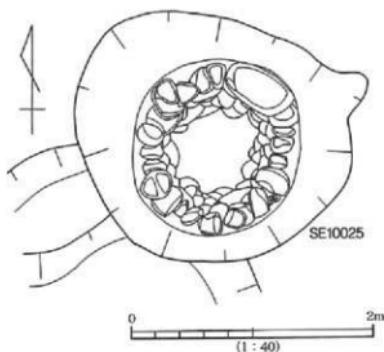
出土遺物 固化資料以外には、肥前系陶磁器、ロクロかわらけなどが出土している。

年代 1 ~ 3 より 17 世紀半ばであろう。

IV 検出された遺構と遺物



第340図 SE10024



第341図 SE10025

SE10024

位 置 13-16 グリッド。

規 模 挖方径 2.44 m、内径 1.14 m、検出面からの深さ 1.50 m、底面標高 128.71 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 30 cm 下で確認された。石組の最上段に、五輪塔の地輪である 6 が転用されている。

出土遺物 図化資料以外には、輸入磁器、肥前系陶器などが出土している。なお、被熱したヒトの頭蓋骨が出土している。

年 代 出土している肥前系陶器より 17 世紀前半の可能性が高いが、出土遺物が少なく正確な年代は決定しがたい。

SE10025

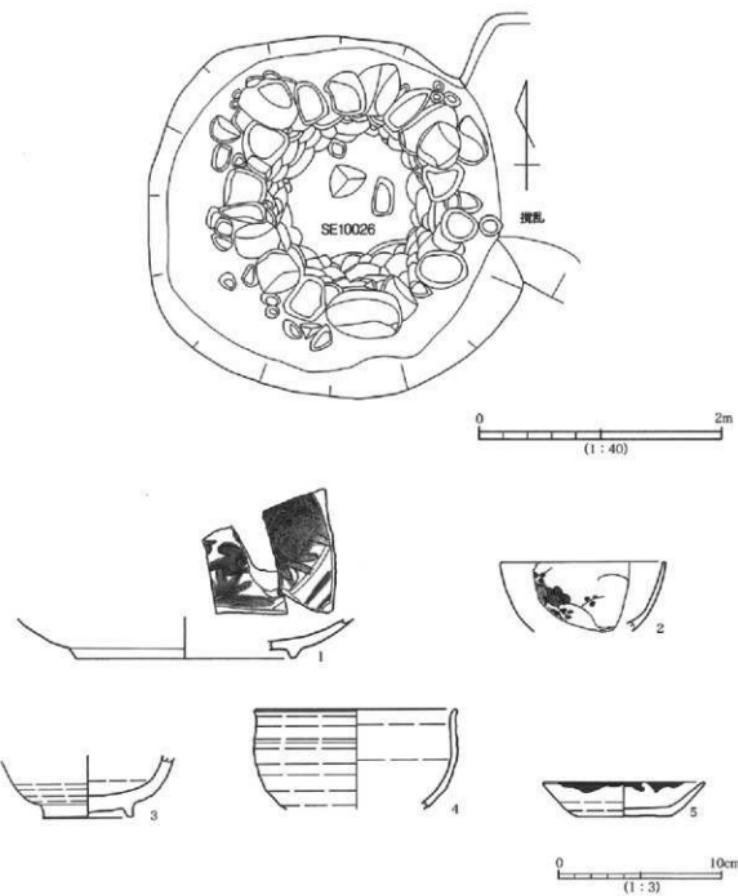
位 置 15-15 グリッド。

規 模 挖方径 2.30 m、内径 0.86 m、検出面からの深さ 1.36 m、底面標高 128.85 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は掘り方がややくずれた楕円形で石組が円形を呈する。石組は検出面の約 20 cm 下で確認された。

出土遺物 図化資料以外には、肥前系磁器、黒瓦が出土している。

年 代 肥前系磁器が出土しているので II 期以降であろうが、出土遺物が少なく正確な年代は不明である。



第342図 SE10026

SE10026

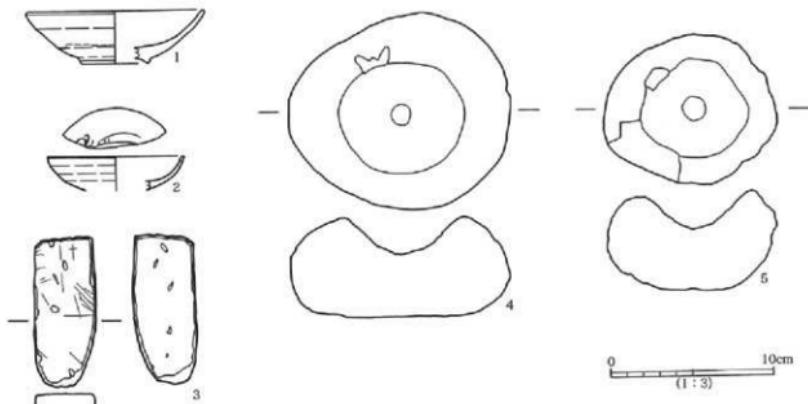
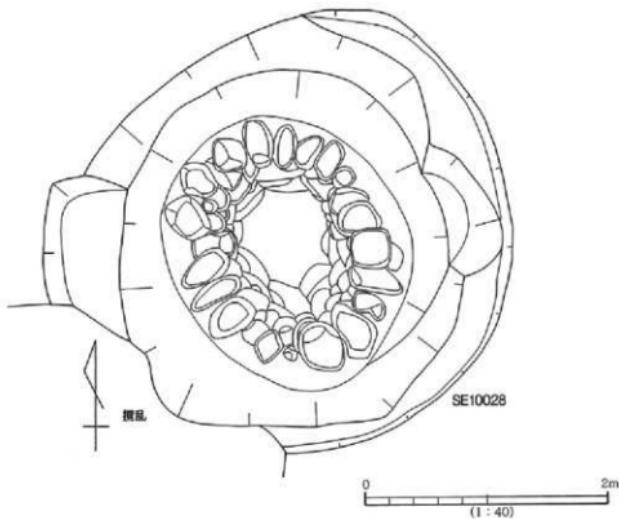
位 置 13-13 グリッド。

規 模 挖方径 3.19 m、内径 1.33 m、検出面からの深さ 2.35 m、底面標高 127.67 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 20 cm 下で確認された。

出土遺物 固化資料以外には、輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、ロクロかわらけなどが出土している。

年 代 2のくらわんかが出土していることより、V期以降であろう。



第343図 SE10028

S E 1 0 0 2 8

位 置 14-12 ~ 14-13 グリッド。

規 模 挖方径 3.69 m、内径 1.35 m、検出面からの深さ 2.30 m、底面標高 128.27 m。

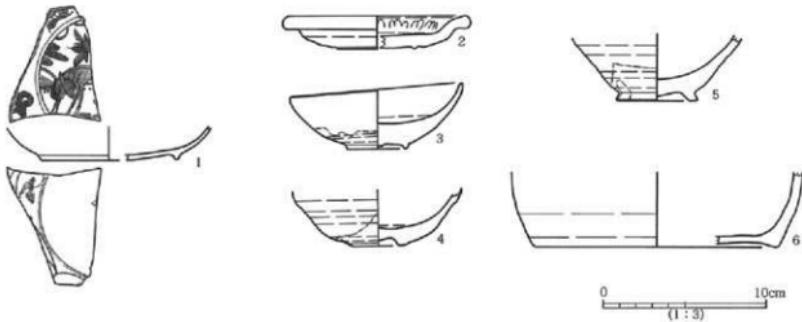
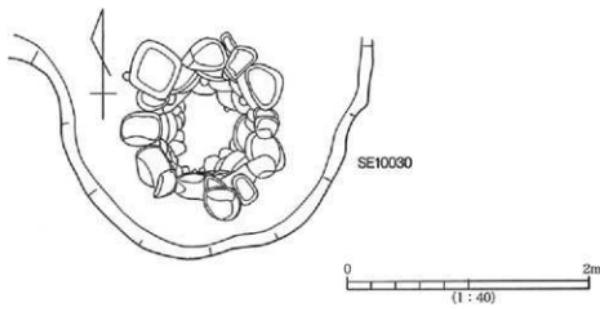
形 態 石組の井戸である。平面形態は掘り方が円形で石組は橢円形を呈する。石組は検出面の約 1.0 m

IV 検出された遺構と遺物

下で確認された。

出土遺物 固化資料以外には、輸入磁器、肥前系陶磁器、備前、越前、ロクロかわらけ、近代と思われる陶磁器、黒瓦などが出土している。

年代 遺物の年代は幅が広いが、最終的な埋没年代は近代に下るであろう。



第344図 SE10030

SE10030

位置 14-15 グリッド。

規模 掘方径不明、内径 0.83 m、検出面からの深さ 1.29 m、底面標高 129.08 m。

形態 石組の井戸である。北側が搅乱のような落ち込みに切られ全体は不明であるが、平面形態はほぼ円形を呈する。石組は検出面の約 30 cm 下で確認された。

出土遺物 固化資料以外には、肥前系陶器、壺器系陶器（越前の可能性が高い）などがある。

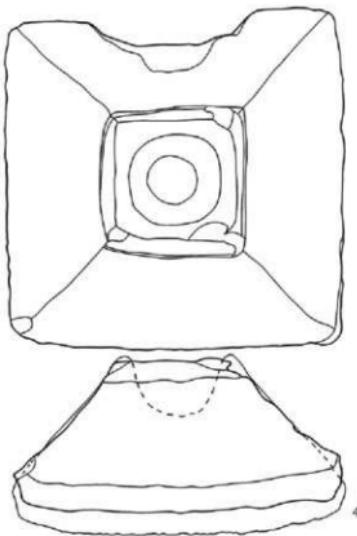
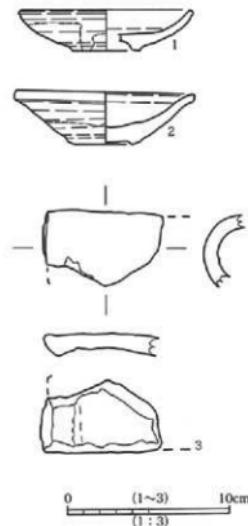
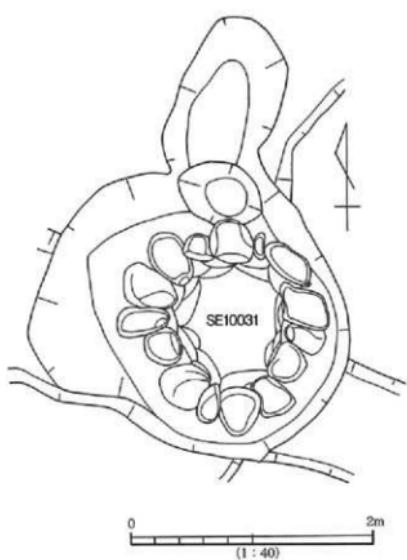
年代 出土遺物は少ないが肥前系磁器は出土していないので、I 期であろう。

SE10031

位置 14-12 グリッド。

規模 掘方径 2.59 m、内径 0.93 m、検出面からの深さ 1.33 m、底面標高 129.01 m。

IV 検出された遺構と遺物



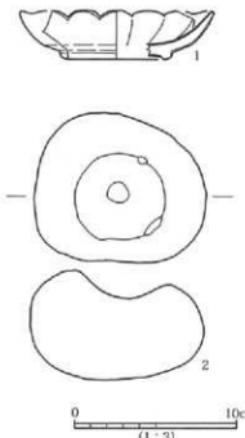
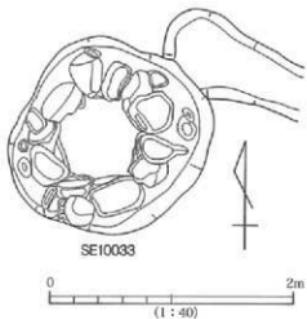
第345図 SE10031

IV 検出された遺構と遺物

形態 石組の井戸である。平面形態は掘り方がややくずれた梢円形を、石組は円形を呈する。石組は検出面の約 40 cm 下で確認された。

出土遺物 固化資料以外には、輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器などが出土している。

年代 出土している肥前系磁器よりⅢ期以降の年代が与えられるが、正確な年代は決定しがたい。



第346図 SE10033

SE10033

位置 13-13 グリッド。

規模 堀方径 1.61 m、内径 0.69 m、検出面からの深さ 1.61 m、底面標高 128.36 m。

形態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 60 cm で確認された。

出土遺物 固化資料以外には、輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶器、黒瓦などが出土している。

年代 1 や固化していない肥前系陶器から 17 世紀前半の可能性が高い。

SE10007

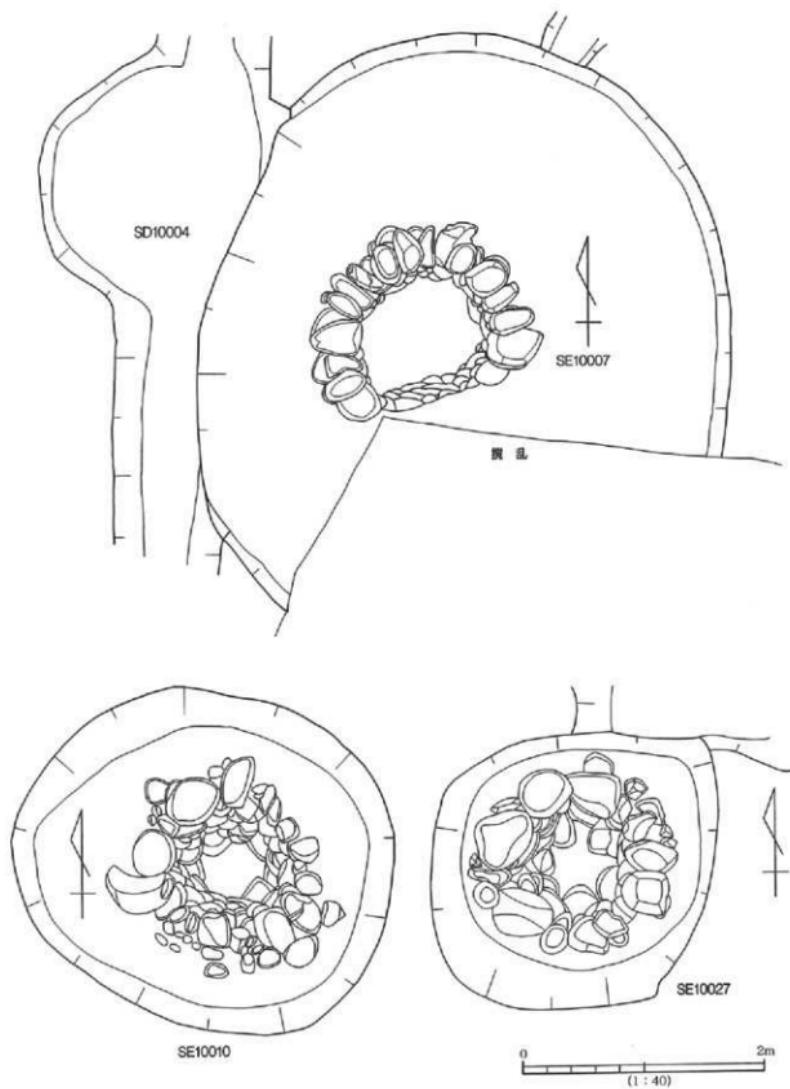
位置 17-16 グリッド。

規模 堀方径 5.05 m、内径 1.11 m、検出面からの深さ 2.51 m、底面標高 128.46 m。

形態 石組の井戸である。南側が攪乱に切られ全体は不明だが、平面形態は円形である。石組は検出面の約 10 cm 下で確認された。SD10004 を切る。

出土遺物 出土遺物はない。

年代 SD10004 との切り合い関係から、埋没年代はV期以降である。



第347図 SE10007・SE10010・SE10027

IV 検出された遺構と遺物

S E 1 0 0 1 0

位 置 15 - 16 グリッド。

規 模 堀方径 3.15 m、内径 0.87 m、検出面からの深さ 1.63 m、底面標高 128.96 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は掘り方が梢円形を、石組が円形を呈する。石組は検出面の約 30 cm 下で確認された。

出土遺物 固化していないが、産地不明の播鉢や黒瓦が出土している。

年 代 黒瓦が出土しているので近世であろうが、正確な年代は不明である。

S E 1 0 0 1 4

位 置 16 - 15 グリッド。

規 模 堀方径 3.04 m、内径 1.00 m、検出面からの深さ 2.45 m、底面標高 128.32 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形だが、掘り方の北側に張り出しが付属する。石組は検出面の約 90 cm 下で確認された。上層を SK10131 に切られる。

出土遺物 出土遺物はない。

年 代 不明。

S E 1 0 0 2 7

位 置 14 - 15 グリッド。

規 模 堀方径 2.76 m、内径 0.79 m、検出面からの深さ 1.54 m、底面標高 128.89 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は掘り方がややくずれた隅丸方形を、石組が円形を呈する。石組は検出面の約 50 cm 下で確認された。

出土遺物 出土遺物はない。

年 代 不明。

S E 1 0 0 3 2

位 置 12 - 14 ~ 13 - 14 グリッド。

規 模 堀方径 1.79 m、内径 0.62 m、検出面からの深さ 1.72 m、底面標高 128.10 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は掘り方が梢円形を、石組が円形を呈する。石組は検出面で確認された。SD1061 を切る。

出土遺物 固化していないが、輸入磁器、肥前系陶器などがある。

年 代 肥前系陶器が出土しているので近世であろうが、正確な年代は不明である。

S E 1 0 0 3 4

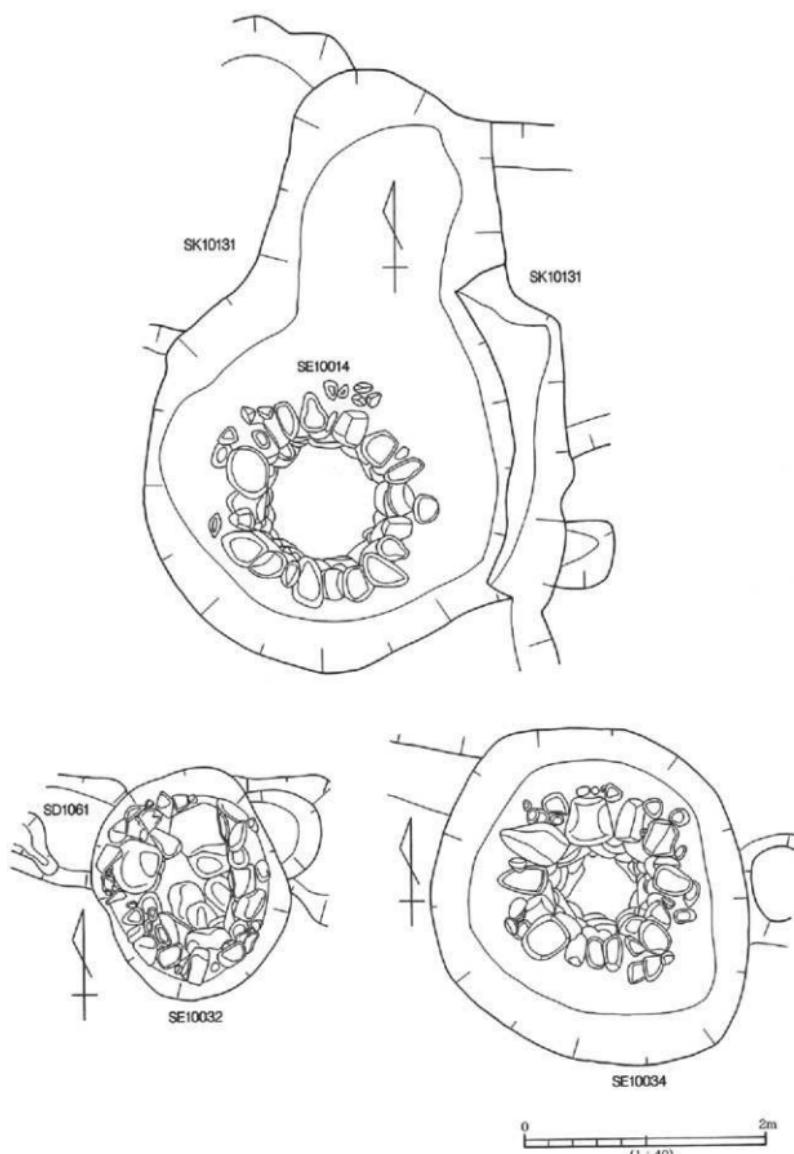
位 置 13 - 12 グリッド。

規 模 堀方径 3.05 m、内径 0.86 m、検出面からの深さ 2.04 m、底面標高 128.16 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 60 cm 下で確認された。

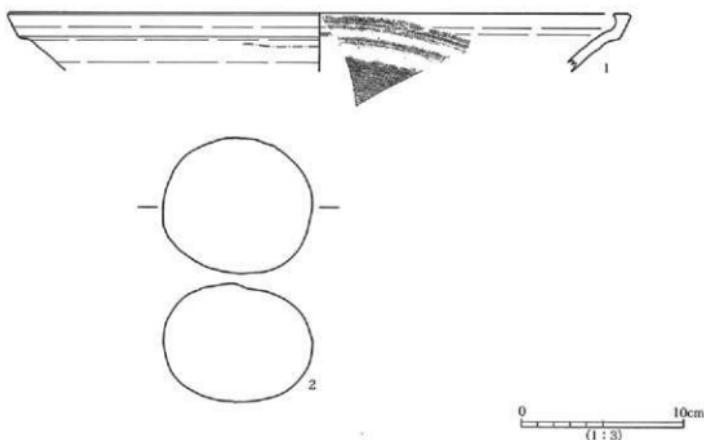
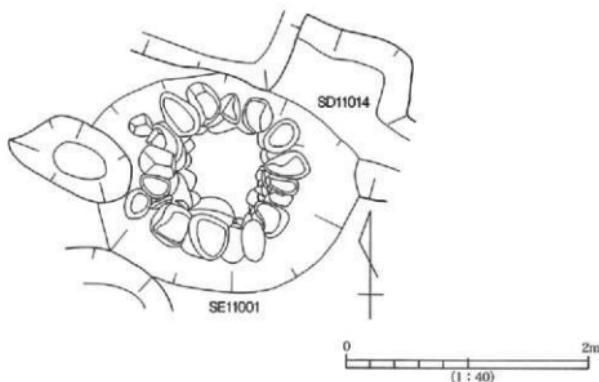
出土遺物 固化していないが、輸入磁器などがある。

年 代 不明。



第348図 SE10014・SE10032・SE10034

IV 検出された遺構と遺物



第349図 SE11001

SE11001

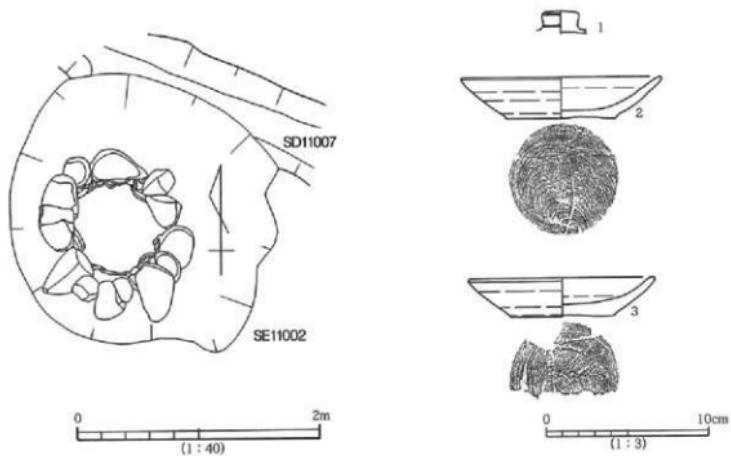
位 置 5-9 グリッド。

規 模 挖方径 2.26 m、内径 0.79 m、検出面からの深さ 1.13 m、底面標高 126.65 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は掘り方が橿円形を、石組が円形を呈する。石組は検出面で確認された。近代の塁壕のような溝である SD11014 に切られる。

出土遺物 固化資料以外に、出土遺物はない。

年 代 1より 17世紀前半の可能性があるが、出土遺物が少なく正確な年代は決定しがたい。



第350図 SE11002

SE11002

位 置 5-9グリッド。

規 模 堀方径 2.54 m、内径 0.80 m、検出面からの深さ 1.40 m、底面標高 126.614 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 20 cm 下で確認された。SD11007 を切る。

出土遺物 固化資料以外には、宝篋印塔残欠がある。

年 代 1より16世紀後半から17世紀前半であろうが、正確な年代は不明である。

SE11003

位 置 6-9~6-10グリッド。

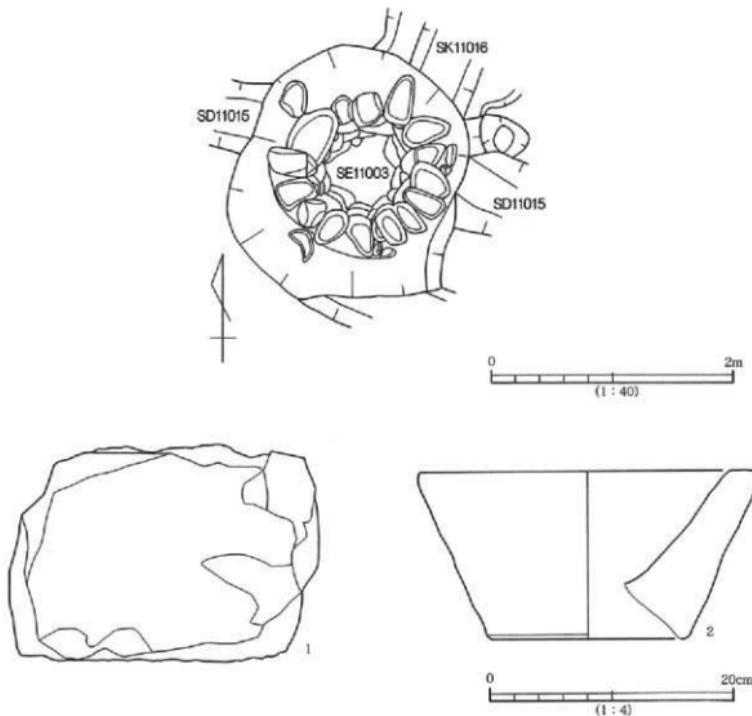
規 模 堀方径 2.05 m、内径 0.81 m、検出面からの深さ 1.29 m、底面標高 126.66 m。

形 態 石組の井戸である。平面形態は円形を呈する。石組は検出面の約 30 cm 下で確認された。近代の塗壁のような SK11016、SD11015 に切られる。

出土遺物 固化資料以外には、肥前系陶器が 1 点出土している。

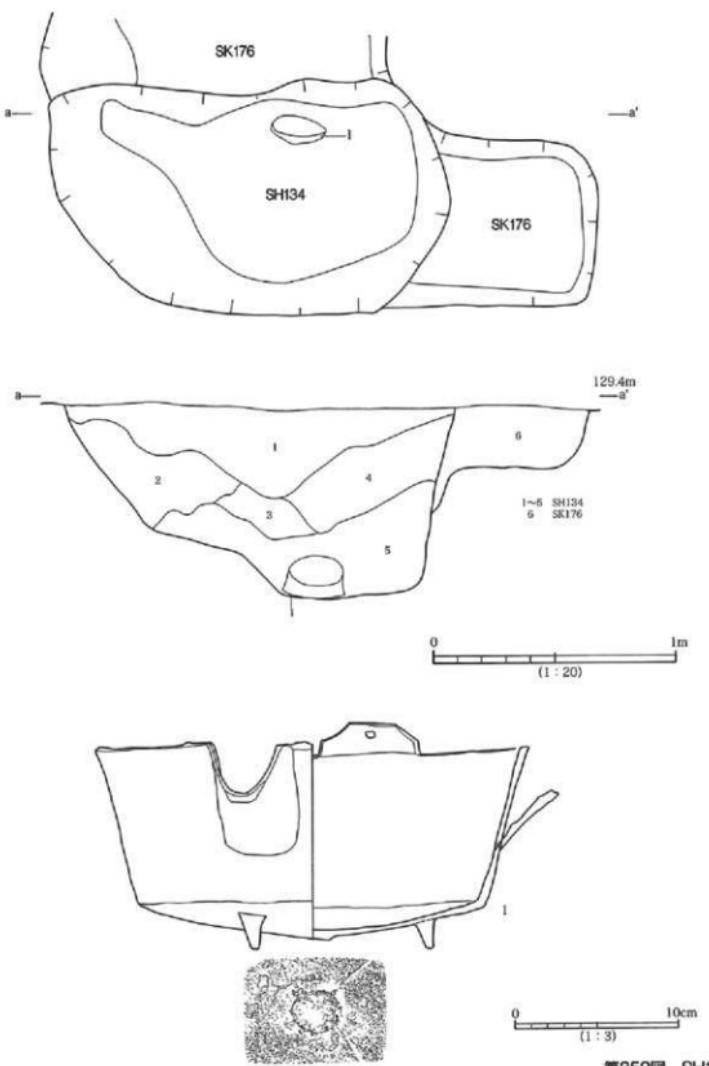
年 代 肥前系陶器が出土しているので近世であろうが、正確な年代は不明である。

IV 検出された遺構と遺物



第351図 SE11003

5 土壙墓



第352図 SH134

IV 検出された遺構と遺物

SH134

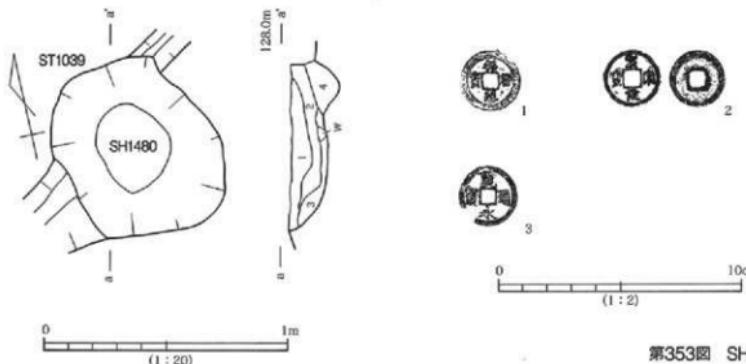
位置 10-21~11-22 グリッド。

規模 長軸 1.70 m、短軸 0.96 m、検出面からの深さ 0.78 m。

形態 平面形態はややくずれた隅丸方形を呈する。土層は一括埋土で、底面に内耳鉄鍋が埋設され、内部にヒトの頭蓋骨の後頭部が残存していた。いわゆる鍋被り葬の土壤墓である。SK176 を切る。

出土遺物 固化資料以外には、ヒトの後頭部頭蓋骨がある。

年代 内耳鉄鍋が丸型湯口であることから近世であろうが、正確な埋葬年代は不明である。



第353図 SH1480

SH1480

位置 5-15 グリッド。

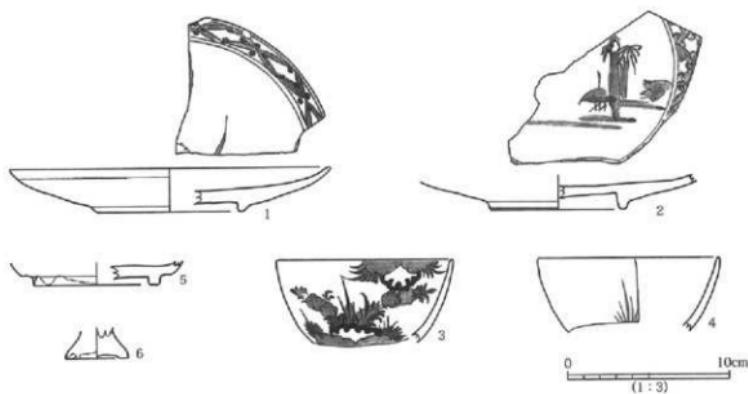
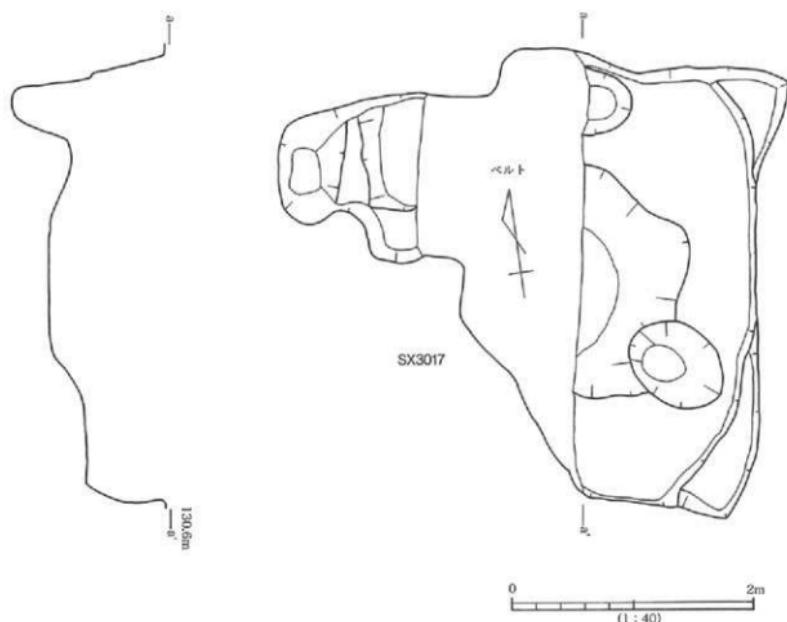
規模 長軸 0.81 m、短軸 0.59 m、検出面からの深さ 0.16 m。

形態 平面形態はややくずれた楕円形を呈する。当初 SK で登録したが、底面から古銭が 6 枚出土したので土壤墓と判断した。ST1039 を切る。

出土遺物 古銭 6 枚が出土したのみである。うち 3 枚は癒着していた。また 1 枚は小破片で銭種がわからなかつたので掲載しなかった。人骨は確認されなかった。

年代 古寛永通寶が 1 枚出土しているので、その初鋳年の 1636 年以降である。

6 性格不明遺構

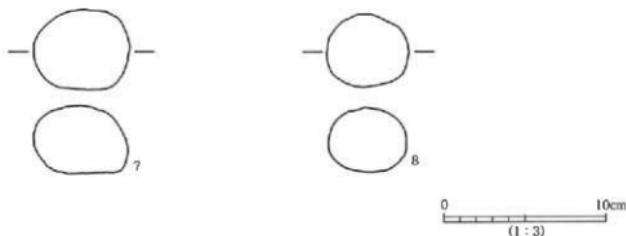


第354図 SX3017

IV 検出された遺構と遺物



第355図 SX5002 (1)



第356図 SX5002 (2)

S X 3 0 1 7

位 置 18-14 グリッド。

規 模 長軸 3.96 m、短軸 3.60 m、検出面からの深さ 1.25 m。

形 態 平面形態は不整形である。底面は起伏が激しく壁面は急に立ち上がる。遺物が比較的多く出土しているので、SXで登録したが土器・陶磁器の廃棄土坑であると思われる。調査期間の関係で土層観察及び完掘することができなかった。

出土遺物 図化資料以外には、肥前系陶磁器、ロクロかわらけなどが出土している。

年 代 出土している肥前系磁器よりⅢ期の可能性があるが、完掘できなかつたので年代の特定は避けたい。

S X 5 0 0 2

位 置 16-9 グリッド。

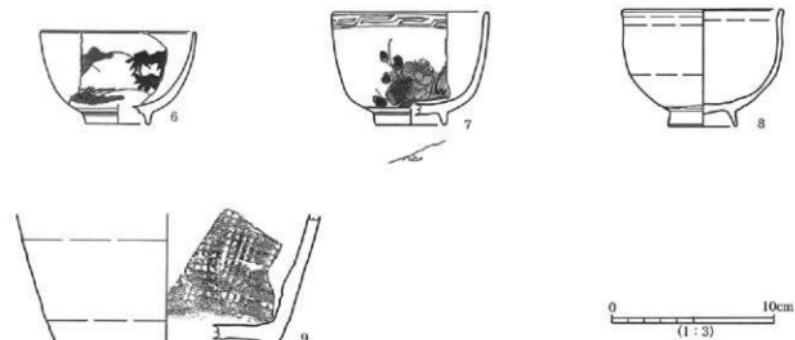
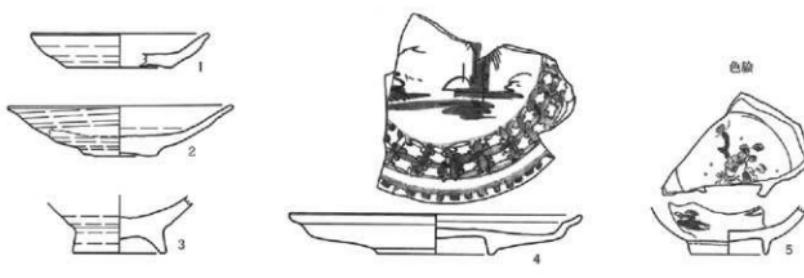
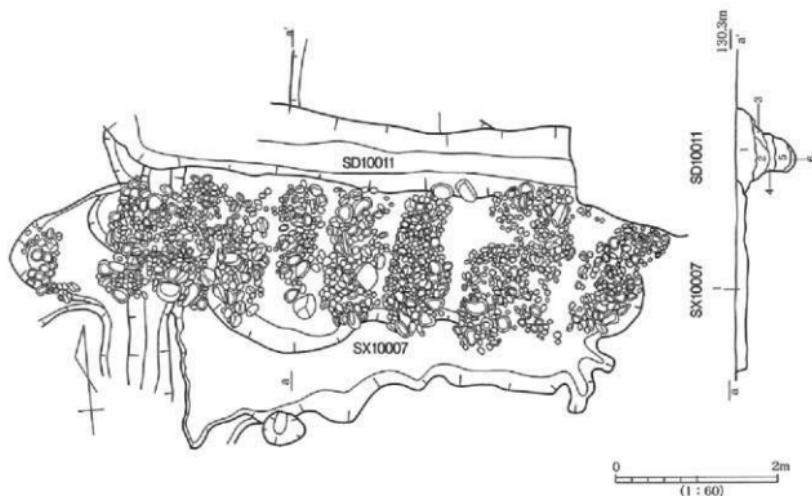
規 模 長軸 4.76 m、短軸 4.60 m、検出面からの深さ 0.54 m。

形 態 平面形態は方形を呈し、南西側に溝が付属する。底面に直径 5~30 cm ほどの礫が敷きならべられている。当初、園池状の遺構と考えたが、土層観察では水性堆積は認められず性格は不明である。

出土遺物 図化資料以外には、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、岸、ロクロかわらけ、黒瓦などが出土している。

年 代 出土遺物は少ないが、肥前系磁器は初期伊万里段階の製品で構成されるのでⅡ期に比定できるであろう。

IV 検出された遺構と遺物



第357図 SX10007 (1)



第358図 SX10007 (2)

S X 1 0 0 0 7

位 置 13 - 16 グリッド。

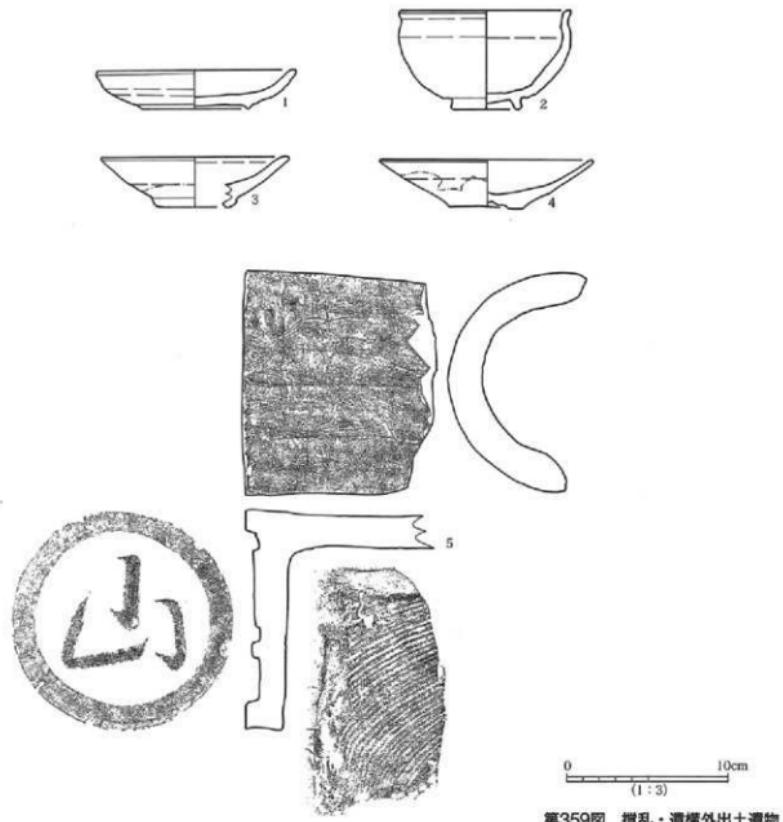
規 模 長軸 7.83 m、短軸 3.00 m、検出面からの深さ 0.14 m。

形 態 平面形態は東西に長い楕円形を呈する。底面には 1 ~ 20 cm ほどの礫が、南北に長いもので 1.8 m、幅が広いもので 0.8 m が 1 単位として敷かれており、単位が若干崩れているものも含めて 10 単位が敷きつめられていた。土層は 1 層のみの一括埋土である。遺構の性格は不明である。SD10011 を切る。

出土遺物 固化資料以外には、輸入磁器、瀬戸美濃系陶器、肥前系陶磁器、備前、ロクロかわらけ、黒瓦、赤瓦がある。

年 代 出土遺物は 17 世紀初頭から 18 世紀初頭までと年代幅がある。SD10011 との切り合い関係より、埋没年代は 17 世紀半ばから 18 世紀初頭であろう。

IV 検出された遺構と遺物



第359図 摺乱・遺構外出土遺物

V 調査のまとめ

1 遺構年代の編年方法

本調査区は江戸時代を通じて山形藩の武家屋敷であったが、絶対年代を知るための火災や地震などの記録は残されていない。調査においても年代的定点となるような記年名資料や、あるいは明瞭な火災処理の遺構などはない。

そこで、遺構の年代は出土した遺物を中心に編年していくほかない。本報告では、遺構ごとの遺物組成を素材とし、東大編年〔堀内 1996 年〕を基準にして編年した。ただし、本遺跡の近世期の遺物は天箱にして 261 箱しか出土しておらず、1 つの遺構からも接合後の個体数で多くても 300 点台であり、東大編年で指標とする遺構に比べると非常に少ない。このため、出土遺物の点数が少ない遺構の年代を推定する場合は、指標となる肥前系陶磁器の他にも各生産地の遺物を概観し、生産年代の最も新しいと推定される遺物をもって遺構の最終的な埋没年代と判断し、時期を該当させている。時期ごとの遺物の組成は、同一時期と判断した複数の良好な一括遺物出土遺構の遺物数を合計して考察した。その際、陶磁器の流通の特徴が浮き出るよう、組成分析は陶磁器とかわらけのみで行った。また、東大編年では細分されている時期もあるが、本遺跡の編年では母集団が少ないとあり細分は行わなかった。

なお、遺物点数のカウントは接合後の個体数で行った。また、肥前系陶磁器および輸入磁器については大橋康二氏、瀬戸美濃については藤澤良祐氏の実見による所見に負うところが大きいことを付記しておく。

2 各時期の様相

I 期

肥前系陶器を含まない時期である。

山形と肥前は遠隔地であるが、肥前系陶器の開窯当初の岸岳系製品が若干ながら見られる（SD11009-3・4）。また、図化していないが SD1061 からも 2 点出土している。

この時期の遺物組成を知るうえで比較的良好な遺構に SD301 がある。この遺構は、江戸時代初期の最上氏時代の城下絵図では、石高 27,000 石（「最上義光分限帳」、「最上記」では 19,300 石）の寒河江氏の屋敷に位置すると推定される。遺物の組成を見てみると、肥前系陶器は砂目積みの製品が 1 点だけ出土しているが、基本的に胎土目積み段階の灰釉皿が主体を占める。また、碗も高台高が低い古手の製品で構成される。輸入磁器は皿が多く、景徳鎮系と漳州窯系がある。景德鎮系の製品でいわゆる染付 B1 群の皿（1）など 16 世紀代の製品がはじまるが、これらは伝世していると考えられる。瀬戸美濃は大窯段階の製品が主体を占める。折縁皿、稜皿、灰釉丸皿、天目茶碗、志野丸皿、鼠志野大皿などがある。ただ、被熱しており判然としないが、11 はおそらく黒織部であり、また SD1061 から内面に鉄絵で唐草文を描いた長石釉丸皿（6）が出土しており、登窯段階の製品も若干含まれることになる。

SD301 にみられない製品で当期に該当する遺構から出土するものをピックアップすると、肥前系陶器に内面に鉄絵をほどこした皿（SD11009-5 など）や叩き甕・壺（SD11009-6, SE10030-6）が少量散見される。

II 期 いわゆる初期伊万里が出現する時期である。ここでいう初期伊万里とは〔成瀬 1992〕の分類に従い、器壁、高台幅が厚く深めの器形の碗、高台および高台内無釉の碗、天目形・筒形の碗、高台径の小さい皿、

蛇の目高台の皿を指す。

この時期は、良好な一括遺物が少ない。当期に該当する遺構出土の遺物から概観すると、肥前の磁器焼成開始という技術革新に敏感に反応して、早い段階の初期伊万里が一定量出土している。砂目積みの天目碗（SK10281－1など）や、体部に鏽のある天目碗（SE5009－4など）、上質の筒形碗（SD321－2など）などが磁器生産当初の遺物であろう。これらに加え、高台および高台内無釉の碗（SK10118－8）および口径に比して高台径の小さい皿（SE5009－3、SE10023－1・2など）がセットとなる。

肥前系陶器の様相ははつきりしないが、SD321－1に見られるように砂目積みの皿が主体を占めるようになると思われる。肥前系の製品は陶器、磁器双方を含めて、その割合はⅠ期よりもさらに多くなり、瀬戸美濃を凌駕するようになる

瀬戸美濃は、Ⅰ期にみられる遺物群に含めて、白天目茶碗（SK10118－4など）や御深井製品（SK10118－9～12など）が出現する。出土する割合は前段階に比べて減少する。

輸入磁器もⅠ期に比べて全体に占める割合は減少する。生産地はⅠ期と同様に景德鎮系と漳洲系がある。Ⅰ期に見られた伝世と思われる16世紀代の染付はほとんど姿を消し、かわりに新しい様相を示すと思われる芙蓉手の皿（SK10118－2）などが出土する。

また、かわらけの出土数、割合ともに多くなるのがこの時期の特徴である。

Ⅲ期 肥前系磁器の高台の断面が三角形を呈する製品が出土する時期である。

この時期に顕著なのが、遺物組成を知る良好な遺構であるSK1405やSD10016から伺えるように、肥前系陶器の砂目皿に、初期伊万里の小皿・碗および高台断面三角形の小皿・碗がセットで出土することである。

SD10016は遺構の底面に完形もしくは略完成形の陶磁器が並べ置かれているような状況で遺物が検出されており、地鎮あるいはその他なんらかの祭祀を執り行った可能性が考えられる遺構で、出土遺物の同時性が高い。出土した肥前系陶器は大半が砂目積みのいわゆる構縫皿（1～14）で、他に見込みに界線を廻らす砂目皿（15・16）や、ロクロ成形擂鉢がある。肥前系磁器は、前段階まで見られた蛇の目高台の手塙皿（23）や型打ち成形の小皿（19・20）、高台内無釉の碗（25）の他に、当期から現れる高台断面三角形の白磁皿（17・18）や丸皿（21・22）、高台断面三角形の碗（24・26）などがある。一方、天目碗、筒形碗などのごく初期の肥前系磁器製品はみられない。

SK1405は土器、陶磁器の廃棄土坑であるが、SD10016より肥前系磁器の碗の割合が多いものの主要な製品はほぼ同じ組成を示す。

これ以外に当期に該当する遺構から出土する肥前系の製品は、陶器が刷毛目銅綠釉の皿（SK10338－5など）やいわゆる卵手と呼ばれる内野山窯系の灰釉碗・皿（SK10338－3・4、SK2504－4など）、火入（SK1405－21、SK10027－5など）、呉器手碗（SD1119－3など）、ロクロ成形の擂鉢（SK1405－45・46、SK10275－20、SK10027－22、SD1119－16・17など）などがある。磁器では、当期の初頭より色絵の出土が認められる。色絵製品は碗が多く皿はほとんどない。SE10023－3やSK10229－2、SD127－4、SK10007－1は1640年代～1650年代の生産年代が与えられ、色絵生産当初の製品がはやくも搬入されているようである。ただし、出土量は少ない。

一方、他の陶磁器の様相は、輸入磁器は数量が非常に少なくなるが、前段階にはなかった細線書きタイプの製品（SK10338－1、SD10016－28など）が出土している。瀬戸美濃も出土量が減少し、大窯段階の灰釉皿や志野、織部、白天目茶碗、御深井など前段階と同じ組成のものが多く、伝世された製品が多いと考えら

V 調査のまとめ

れる。また、京焼や丹波、備前、信楽あるいは東北在地の岸窯の製品が少量ながら認められる。

当期は遺物の出土量が多いため、時期差を認めることが可能である。早い段階ではSE10005のように高台断面三角形の製品の割合が少なく、肥前系陶磁器に比べて輸入磁器、瀬戸美濃の割合が多い。時期が下るとSD1119のように肥前系陶磁器の全体に占める割合がさらに多くなり、京焼風陶器（4）や高台断面U字状の製品（8・9・11）がみられるようになる。

IV期 肥前系磁器碗の高台が高く断面がU字状の製品で構成される磁器である。また、コンニャク印判、吳須による型紙摺り技法、皿の見込みに五弁花が多用されることも当期の指標となる。

この時期以降に比定される遺構は、I～III期に比べて非常に少なくなる。

SK10127、SE304はIV期に相当する遺物で構成される代表的な遺構である。肥前系磁器はコンニャク印判の碗（SK10360-2、SK10127-3）、見込五弁花の皿（SE304-1）などがある。肥前系陶器は出土数がかなり少なくなるが、吳器手碗、刷毛目絹緑釉皿、内野山窯系の卵手碗、ロクロ成形の擂鉢などがある。また、東北在地の相馬窯の製品や赤瓦がこの段階からみられるようになる。

V期 肥前系磁器でくらわんかと称される下手の製品や、上手の高台高が低い丸碗、薄手の半球形碗などが指標となる時期である。

IV期同様、この時期に比定される遺構は少ない。

SK10360やSE10009、SD10004はV期に比定されるくらわんかの碗が出土している。肥前系陶器はIV期同様に出土数が少なく、組成もほぼ同様である。

VI期以降 この時期に相当する遺物は散発的に出土するのみである。稀に広東碗（平成12年度調査区、平成16年度報告書刊行予定）などの肥前系磁器製品が出土するのみである。

3 まとめ

各時期の絶対年代であるが、東大編年では、I期（～1620年代）・II期（1630年代～40年代）・III期（1650年代～70年代）・IV期（1680年代～1700年代）・V期（1710年代～40年代）・VI期（1750年代～70年代）と推定されている【堀内1998】。これに基づき山形城三の丸の変遷に該当させると、I期は、元和8年（1622）に改易された最上氏の時期にはほぼ一致する。最上氏の段階における家臣の知行の形態は中世的な地方知行制であり、家臣でも1万石以上の所領を有し支城を直接支配している者もいた。瀬戸美濃の志野や縁部の優品あるいは金箔瓦などはこれら大名クラスの家臣が所有したものと思われる。また、日本海海運および山形を貢献する最上川の舟運は中世段階から物流の動脈として機能していたと考えられているが、最上氏は近世初頭に日本海に面した酒田港を整備し最上川の各所に港を開削し舟運を発展させた。肥前系陶器開窯当初からの数量的豊富さは、日本海から最上川を伝わる舟運のより一段の発達が前提にあったのだろう。

II期はおおよそ鳥居氏、保科氏から幕府直轄領時代を経て結城松平氏および奥平松平氏の時代に該当する。この時期はSK3066などかわらけの廐棄土坑の出現が示すように、I期に比してかわらけの出土量が増加する。これら出土するかわらけは煤が付着しているものの割合が多く、灯明皿として使用されたと考えられる。この灯明皿の増加はすなわち夜間居住人口が増加したことと示すと考えることが可能である。元和元年（1615）に幕府の一国一城令が出され、各藩はそれにもとづき城下町集住がなされていくのであるが、煤

の付着したかわらけの増加はそれを裏付ける結果であると言える。ただし、各時期の灯明皿使用製品の数量的な把握を行わなかったので、具体的な検討は今後の課題である。

III期は奥平松平氏の後半から奥平氏の時代に該当するが、山形藩は奥平氏時代に15万石から9万石に石高が減少し、また「II 遺跡の立地と環境」で述べたように三の丸に空閑地が目立ち始める時期である。当期は土器、陶磁器などの廃棄土坑が多数検出されている時期であるが、山形藩の石高減少に伴う城下町の改変、衰退がこの大量廃棄につながったと考えられる。

IV期からV期にかけては、遺物の出土が点的な出土にとどまるが、これは調査区域に存在した三の丸南部の臣家屋敷がほとんどなくなり、人口が激減したことによると考えられる。

VI期以降は遺物の出土がほとんどなくなるのは、この段階にはもはや臣家屋敷は二の丸大手門付近に集中し、他地域は田畠化してしまったことによるのであろう。

【引用・参考文献】

- 江戸陶磁土器研究グループ 1992年『シンポジウム 江戸出土陶磁器・土器の諸問題I』
 江戸陶磁土器研究グループ 1996年『シンポジウム 江戸出土陶磁器・土器の諸問題II』
 小野正敏 1982年「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究2』日本貿易陶磁研究会
 大橋康二 1989年『肥前陶磁』考古学ライブラリー55 ニュー・サイエンス社
 大橋康二 1994年『古伊万里の文様』理工学社
 木村穂・藤野保・村上直編 1988年『藩史大事典 第1巻 北海道・東北編』雄山閣
 九州近世陶磁学会編 2000年『九州陶磁の編年』九州近世陶磁学会
 (財)最上義光歴史館 1991年『山形県城郭古絵図展図録』
 財団法人徳島県埋蔵文化財センター 1998年『新蔵町1丁目遺跡 企業局総合管理センター(旧副知事公舎) 地点 総合管理センター(仮称)建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書』
 徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第20集
 財団法人山形県埋蔵文化財センター 1999年『城南一丁目遺跡発掘調査報告書』山形県埋蔵文化財センター調査報告書第69集
 中世土器研究会 1995年『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社
 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1994年『東北大学埋蔵文化財調査年報7』
 東北大学埋蔵文化財調査研究センター 1998年『東北大学埋蔵文化財調査年報10』
 永井久美男編 1994年『中世の出土銭』兵庫埋蔵銭調査会
 永井久美男編 1998年『近世の出土銭II』兵庫埋蔵銭調査会
 成瀬晃司 1992年「磁器碗・皿類の分類」『シンポジウム 江戸出土陶磁器・土器の諸問題I』江戸陶磁土器研究グループ
 福島市他 1998年『岸嶽助』福島市埋蔵文化財調査報告書第111集
 藤澤良祐 1991年『瀬戸市史陶磁史篇四』愛知県瀬戸市
 藤澤良祐 1998年『瀬戸市史陶磁史篇六』愛知県瀬戸市
 堀内秀樹 1996年「東京大学本郷構内の遺跡出土陶磁器の編年的考察」『シンポジウム 江戸出土陶磁器・土器の諸問題II 資料集』江戸陶磁土器研究グループ
 堀内秀樹 1998年「消費地遺跡出土陶磁器類の編年について」『東北地方の在地土器・陶磁器II』東北中世考古学会 第4回研究大会資料
 吉田康暢 1994年『中世須恵器の研究』吉川弘文館

付編 双葉町・城南町遺跡出土の人骨・動物骨

名古屋大学博物館 新美倫子

双葉町・城南町遺跡では溝・土坑・井戸の覆土中から 520 点の人骨・動物骨が出土しており、その内訳は人骨（ヒト？を含む）が 249 点、その他の種が 271 点であった。表 1 に人骨の、表 2 にその他の種の出土内容を時期ごとに示した。なお、表 1・2 で所属時期を古代としたものは 9～10 世紀、中世としたものは 13～16 世紀、近世としたものは 17～18 世紀に属する遺構出土の資料である。

人骨は中世に属する上腕骨左中間部 1 点を除いて、すべての資料がよく焼けて白色化していた。中世の左下頸骨第 2・第 3 後臼歯部分は、歯は脱落しているが、歯槽の形状から見て第 3 後臼歯が萌出をはじめた段階であったと思われる。ヒト以外の資料ではイヌが 108 点と最も多く出土し、他にウマ 43 点、イルカ類 2 点、種不明魚類 1 点が見られ、種不明の破片 115 点と焼けた種不明破片 2 点も出ている。

イヌは 108 点のうち 105 点が近世に属しており、これらには頭蓋骨・下頸骨・環椎・軸椎・肩甲骨・上腕骨・桡骨・尺骨・脛骨などが含まれていた。これらの資料はまとまって出土しており、その大部分が同一個体と考えられる。頭蓋骨は割れて細かな破片になっているが、左右の上顎歯・上顎骨の一部や左後頭部などが見られることから、本来は全体が存在していたと考えられる。右の上顎第 4 前臼歯の長さは 16.3mm 土、第 1 後臼歯の長さは 12.7mm であり、歯は少し磨滅している。下頸骨は左右とも第 4 後臼歯が抜けた後の歯槽がふさがっており、左下顎第 1 後臼歯の長さは 20.1mm である。骨体の厚さは薄く華奢であり、骨体の高さは前方と後方であまりかわらず、下頸底は比較的まっすぐで、歯列も直線的である。上顎骨・下顎骨とともに歯の大きさは現生柴犬標本と同程度であるが、骨体はひとまわり大きい。また、環椎・軸椎や四肢骨も柴犬よりひとまわり大きく太い。桡骨は遠位端は太いが中間部は比較的細いのが特徴であった。中世及び時期不明の資料 3 点はきわめて保存状況が悪く、形質はよくわからない。

ウマは、中世に属する中足骨と近世に属する脛骨を除いた 41 点がすべて歯と歯の破片であった。中足骨・脛骨はいずれもかなり保存状態が悪い。現生ヨガニウマ♀標本と比較すると中足骨は少し長く、脛骨は同程度の大きさである。古代に属する遺構から出土した上顎臼歯は破損のため歯種がわからないが、その大きさが近代一現代馬と同程度であることから、近世以降の資料ではないかと思われる。中世の下顎第 2・第 3 後臼歯は破損しているが同一個体で老齢のものであり、小型である。時期不明の下顎臼歯も破損のため歯種がわからない。

イルカ類は椎骨が見られた。種不明魚類椎骨は焼けて変形しているため種がわからないが、タイ類のものかもしれない。その他に種不明破片としたものは非常に保存状態が悪いためにはつきりしたことはわからないが、その多くは家畜（ウマまたはウシ）の骨片と思われる。

※註 付編では双葉町遺跡の近世に該当するものだけでなく、古代～中世に属する遺構から出土したものや、平成 12 年度までに調査した双葉町遺跡以外の山形城三の丸に関わる遺跡も分析の対象としている。遺跡の略号は以下の通りである。

F T B 双葉町遺跡

F T B III 双葉町遺跡 III

J O N IV 城南町遺跡 IV

表1 ヒト出土内容

時期	部位・出土量	計
古代	頭蓋骨破片5、四肢骨破片5、破片11	21
中世	頭蓋骨破片22 下顎骨左(×○)M23部分	144
	下顎骨左(×)M3部分、関節突起・筋突起あり	
	上胸骨左中間2、右中間1	
	大腿骨中間破片2、四肢骨破片28、破片81	
	ヒト?破片6	
近世	頭蓋骨破片15、四肢骨破片12、破片51	78
不明	頭蓋骨破片2、顎骨破片1、四肢骨破片2、破片1	6
計		249

註 M: 後臼歯、Mに伴う数字は歯の順番を示し、×は歯が脱落していることを示す。○は歯が未出または萌出中であることを示す。

表2 ヒト以外出土内容

時期	種・部位・出土量	計
古代	ウマ上顎左臼歯1	1
中世	イヌ下顎骨右(××××)P4～M3部分 ウマ上顎臼歯破片10若～成 下顎左M2・M3同一個体、老 齒破片26、中足骨右?上～中間1	54
	不明破片13、焼破片1	
	イヌ上顎左I12C+上顎骨左(P1234M12) 上顎右I23C+上顎骨右(P1234M1×) 後頭部左1、頭蓋骨破片32	
	下顎左I123+下顎骨左(CP123×M123) 下顎右I123+下顎骨右(C××P3×M12×)	
	環椎1(半欠)、軸椎1、肩甲骨左1、右1 上腕骨左下1、右中間1、橈骨左上1、下1 尺骨左1、右下1、脛骨左中間1、中手・中足骨5 指骨4、椎骨5、手・足根骨4、四肢骨破片27	
近世	ウマ下顎右M3(後半分のみ)若、脛骨左中間1 イルカ椎骨2 種不明魚類椎骨1焼、不明破片52、焼破片1	163
	イヌ橈骨右上1、尺骨右1	
	ウマ下顎右臼歯1、不明破片50	
不明		53
計		271

註 表1参照。I: 切歯、C: 犬歯、P: 前臼歯、I・P・Mに伴う数字は歯の順番を示す。

上: 近位端、下: 遠位端。上・中間・下のないものはほぼ完存。焼: 焼けた資料。

若: 若歯、成: 成歯、老: 老歯。若・老のないものは成歯。

表3 出土人骨・動物骨一覧

No.	遺構名	種類	部位	備考
1	FTB SD6035	不明	破片 30	
1	FTB SD6035	イヌ	桡骨右上 1	
1	FTB SD6035	イヌ	尺骨右 1	
2	FTB III SD29	不明	破片 20	
3	JON IV SD29	ヒト	四肢骨破片 1	焼骨
3	JON IV SD29	ヒト	破片 1	焼骨
4	JON IV SD33		上器?	
5	JON IV SD33	ヒト	頭蓋骨破片 1	焼骨
5	JON IV SD33	ヒト	顎骨破片 1	焼骨
6	JON IV SD33	ウマ	下右臼歯 1	
7	FTB SD120	ウマ	齒破片 10	
10	FTB SD1010	不明	破片 20	
10	FTB SD1010	イヌ	軸椎 1	
10	FTB SD1010	イヌ	上腕骨左下 1	
10	FTB SD1010	イヌ	尺骨左下 1	53と接合
10	FTB SD1010	イヌ	中手・中足骨 2	
10	FTB SD1010	イヌ	中手・中足骨上 1	
10	FTB SD1010	イヌ	指 1	
10	FTB SD1010	イヌ	頭蓋骨の脳下底左部分	53と接合
11	FTB SD1014	ヒト	頭蓋骨破片 1	焼骨
11	FTB SD1014	ヒト	四肢骨破片 1	焼骨
12	FTB SD1014	ヒト	頭蓋骨破片 1	焼骨
13	FTB SD1070	ウマ	中足骨右?上~中	
14	FTB SD1077	イルカ	椎骨 2	
15	FTB SD1077	イヌ	上腕骨右中間 1	10とは別個体か
16	FTB SD1086	ヒト	頭蓋骨破片 1	焼骨
17	FTB SD1089	不明	破片 2	
18	FTB SD1104	ウマ	脛骨左中間 1	
19	FTB SD1112	ヒト	四肢骨破片 1	焼骨
20	FTB SD1115	ヒト	四肢骨破片 1	焼骨
20	FTB SD1115	ヒト	破片 3	焼骨
20	FTB SD1115	不明	破片 2	
21	FTB SD2016	ヒト	四肢骨破片 1	焼骨
22	FTB SD309	ヒト	四肢骨破片 4	焼骨
22	FTB SD309	ヒト	破片 9	焼骨
23	FTB SD309	ヒト	頭蓋骨破片 5	焼骨
23	FTB SD309	ヒト	破片 2	焼骨
24	FTB SD6018	ヒト	上腕骨左中間 1	焼骨
24	FTB SD6018	ヒト	上腕骨右中間 1	焼骨
24	FTB SD6018	ヒト	大腿骨中間破片 2	焼骨
24	FTB SD6018	ヒト	四肢骨破片 9	焼骨
24	FTB SD6018	ヒト	破片 35	焼骨
25	FTB SD6018	ヒト	頭蓋骨破片 10	焼骨
25	FTB SD6018	ヒト	下頸骨關節突起左+筋突起+(×)M3 部分	焼骨
26	FTB SD6035	ヒト	四肢骨破片 2	焼骨
26	FTB SD6035	ヒト	破片 5	焼骨
27	FTB SD6035	ヒト	頭蓋骨破片 1	焼骨
28	FTB SD6035	ヒト	四肢骨破片 16	焼骨
28	FTB SD6035	ヒト	破片 23	焼骨

29	FTB SD6035	不明	破片 1	焼骨
29	FTB SD6035	不明	破片 9	
30	FTB SD6035	ヒト	頭蓋骨破片 10	焼骨
30	FTB SD6035	ヒト	破片 15	焼骨
31	FTB SD6035	ウマ	歯破片 6	
32	FTB SD11005	イス	下頬骨右 (×××) P4 ~ M3 部分	
33	FTB SD6077	ウマ	歯破片 10	
34	FTB SD6077	ヒト?	破片 6	焼骨
35	FTB SD6077	ヒト	下頬骨左 (××) M23 部分、M3 未出 or 萌出途中	焼骨
36	FTB SD10047	不明サカナ	椎骨 1	焼骨
37	FTB SK1005	ヒト	上腕骨左中間 1	
38	FTB SK1481	ヒト	頭蓋骨破片 1	焼骨
39	FTB SK8079	ヒト	頭蓋骨破片 1	焼骨
40	FTB SK10216	ヒト	四肢骨破片 7	焼骨
40	FTB SK10216	ヒト	破片 50	焼骨
41	FTB SK10216	ヒト	頭蓋骨破片 5	焼骨
42	FTB SK10254	ヒト	四肢骨破片 1	焼骨
42	FTB SK10254	ヒト	破片 1	焼骨
43	FTB SK10275	ヒト	頭蓋骨破片 5	焼骨
43	FTB SK10275	ヒト	四肢骨破片 1	焼骨
44	FTB SE1022	不明	破片 1	焼骨
45	FTB SE1048	ウマ	上左臼歯 1	
46	FTB SE1050	ヒト	頭蓋骨破片 1	焼骨
47	FTB SE301	不明	破片 30	
48	FTB SE301	イス	脛骨左中間 1	
49	FTB SE2007	ウマ	下 M3 右 (後ろ半分のみ)	
50	FTB SE2014	不明	破片 1	
51	FTB SE3004	ヒト	四肢骨破片 2	焼骨
52	FTB SE10024	ヒト	頭蓋骨破片 1	焼骨
53	FTB SE9004	不明	破片 1	
53	FTB SE9004	イス	上顎骨左 I12C (P1234M12)	
53	FTB SE9004	イス	上顎骨右 I23C (P1234M1 ×)	
53	FTB SE9004	イス	頭蓋骨後頭部左	10 と接合
53	FTB SE9004	イス	頭蓋骨破片 32	
53	FTB SE9004	イス	下顎骨左 I123 (CP123 × M123)	
53	FTB SE9004	イス	下顎骨右 I123 (C × × P3) × (M12 ×)	
53	FTB SE9004	イス	肩甲骨左 1、右 1	
53	FTB SE9004	イス	尺骨左上 1	10 と接合
53	FTB SE9004	イス	尺骨右下 1	
53	FTB SE9004	イス	中手・中足骨 2	
53	FTB SE9004	イス	中手・中足骨下 1	
53	FTB SE9004	イス	指 3	
53	FTB SE9004	イス	手足根 4	
53	FTB SE9004	イス	椎骨 5	
53	FTB SE9004	イス	環椎 1 (半欠)	
53	FTB SE9004	イス	橈骨左上 1、下 1、中間部片 2	
53	FTB SE9004	イス	四肢骨破片 27	
54	FTB SD120	ウマ	下左 M2・M3 老	
54	FTB SD120	ウマ	上臼歯破片 10 若～成	

註 表 1・2 参照。

報告書抄録

ふりがな	ふたばちょういせき（やまがたじょうさんのまるあと）はつくつちょうさほうこくしょきんせいへん						
書名	双葉町遺跡（山形城三の丸跡）発掘調査報告書近世編						
副書名							
巻次							
シリーズ名	山形県山形市埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ番号	第17集						
編著者名	齋藤仁 須藤英之						
編集機関	山形市教育委員会						
所在地	〒990-8540 山形県山形市旅籠町二丁目3番25号 TEL 023-641-1212						
発行年月日	2004年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番 号	北緯 度	東経 度	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		6201 平成9 年度新規 発見	38度 14分 40秒	140度 19分 42秒		約72,100	山形駅西土地 区画整理事業・ 東ソーフィルム山形 工場跡地整備 工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項
双葉町遺跡 (近世編)	城館跡	近世	土坑・溝・井戸・土 壙墓・ピットなど		貿易陶磁・肥前系 陶磁器・瀬戸美濃・ 備前・信楽・相馬・ 岸・土師質土器・ 瓦質土器・瓦・古錢・ 金属製品・木製品 など		

山形県山形市埋蔵文化財調査報告書第17集

双葉町遺跡（山形城三の丸跡）発掘調査報告書
本文編

2004年3月31日発行

発行 山形市・山形市教育委員会

〒990-8540

山形県山形市旅籠町二丁目3番25号

Tel 023-641-1212

印刷 田宮印刷株式会社
